（行發日一每一月每）行發日一月一年三十五昭

昭和十一年十二月二十五日印刷納本・昭和十二年一月一日發行（每月一回一日發行）・內務省特別認可雜誌第三種郵便物認可・大正六年九月十四日第三種郵便物認可

建築と社會

1

新年號

第二十輯第一號・昭和十二年一月一日

日本建築協會

謹賀新年

昭和十二年元旦

製品種目

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤツター
其他一般建築金物類
設計製作販賣

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地（高麗橋野村ビル内）
電話北濱（23）四七一四・四七一五・五二二七（3）

本社及工場　東京
出張所　名古屋、福岡、札幌、奉天、大連、京城

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

●實　　費　15錢　(外に送料2錢)

●送　金　方　法　振替　(振替口座大阪39975)

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 **日本建築協會**

謹賀新年

昭和十二年丁丑元旦

社團法人 日本建築協會

會告

本協會定款第十七條第十八條及第二十條により昭和十一年十二月三日開會の評議員會に於て理事、會長、副會長、常務の選擧を執行致しました結果下記の通りであります。

理事 會長	片岡 安氏	**理事 副會長**	竹腰健造氏
理事 副會長	松本禹象氏		
常務 （主記）	井上福藏氏	**常務** （主記）	小川陽吉氏
常務 （主記）	中澤誠一郎氏	**常務** （主記）	中西六郎氏
常務 （主記）	樋口辰太郎氏		
常務 （主計）	加田安彦氏	**常務** （主計）	清水榮二氏
常務 （主計）	中村義雄氏		
常務 （編輯）	伊藤武文氏	**常務** （編輯）	新名種夫氏
常務 （編輯）	堀口甚吉氏	**常務** （編輯）	吉田信武氏

（五十音順）

昭和12年1月

社團法人 日本建築協會

會　　告

本誌表紙懸賞圖案入選者發表

豫て募集中の昭和12年度本誌表紙懸賞圖案は舊臘12月4日審査會を開き審査の上愼重嚴選の結果下記諸君が夫々入選の榮譽を擔はれました。（入選圖案は本文中に掲出してあります）

一　等（1名）

福　井　滿	大阪市住吉區阿部野筋2ノ3 村野建築事務所

佳　作（3名五十音順）

紺　谷　昌　亮	大阪市役所經理部營繕課
中　村　武　雄	大阪府警察部建築課
中　村　利　正	大阪市北區中之島朝日ビル 竹中工務店

昭和12年1月

社團法人　**日本建築協會**

建築と社會

第20輯 第1號　昭和12年1月發行

一月號

目次

新年を迎へて……片岡　安（1）
帝國議會議事堂の建築を語る……大熊喜邦（3）
議院建築雜話……中榮一徹（22）
昭和十二年に對する私の期待……葛野壯一郎（26）
昭和十二年への期待……伊部貞吉（30）
昭和十一年度を顧みて……林　豪藏（33）
回顧—希望—偶感……大倉三郎（37）
防空建築……田邊平學（41）
都市計畫に並考して都市防空要塞化を提唱す……古塚正治（45）
最近に現はれたファッシズムの傾向……新名種夫（48）
「日本的」建築の再吟味……中村　綱（55）
鋼構造の行くべき道……池田宮彦（58）
黎明期のわが國建築統計……內藤亮一（60）
我等の空を護れ……矢田鐵藏（72）

・建築隨想・

醉言時事片々……龜井幸次郎（76）
「建築と社會」表紙圖案當選發表及審査概評……石川純一郎　角尾篤彦（84）

・新建築欄・

帝國議會議事堂（東京）
大阪中央放送局（大阪）
小阪町營一團地住宅（大阪）
Grössinsee湖畔の建造物（ドイツ）
Capodimonteのサナトリユーム（イタリー）
Oberwinterthurの第2校校舍（ドイツ）
別棟に車庫と研究室とを有する小住宅（アメリカ）
メルローズの住宅（アメリカ）

・都市計畫欄・

1935年—1936年アメリカに於ける分讓地の種々相

會報……（88）



エンデ及ベツクマン氏の議事堂設計圖



懸賞募集第1等當選圖（渡邊福三氏）

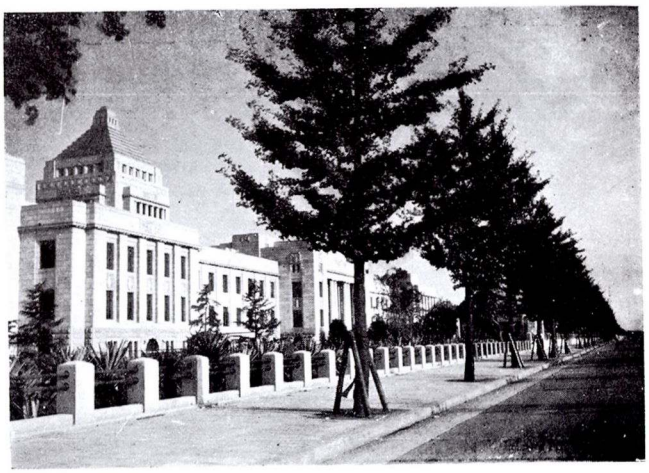


正　面　外　觀

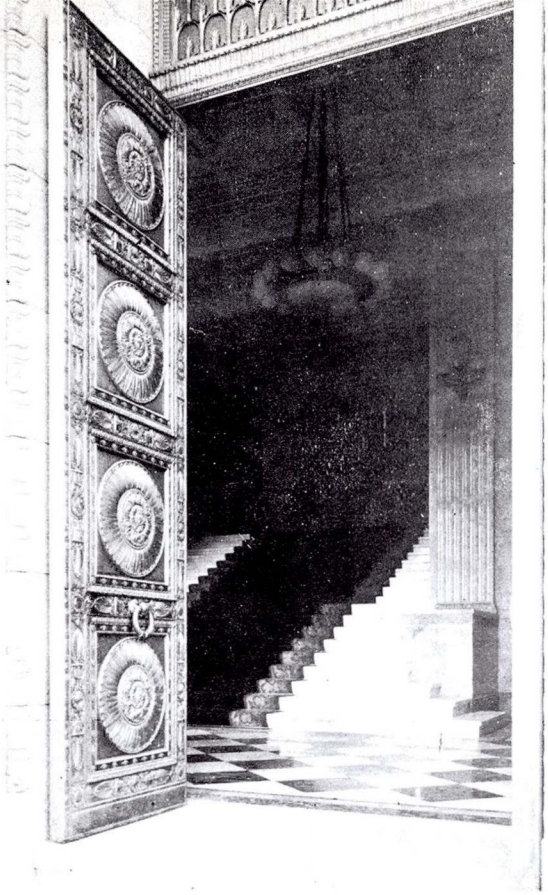
“帝　國　議　會　議　事　堂”　設計監督・大藏省營繕管財局工務部　1



中央玄關



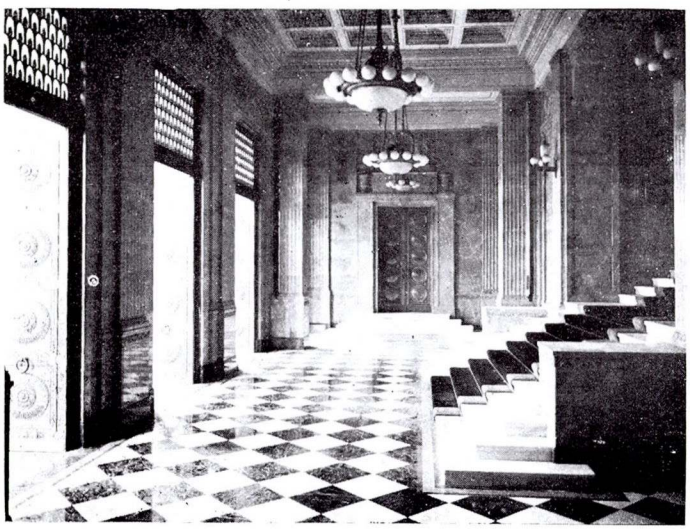
裏門より見たる議事堂



中央正面玄關より階段を望む

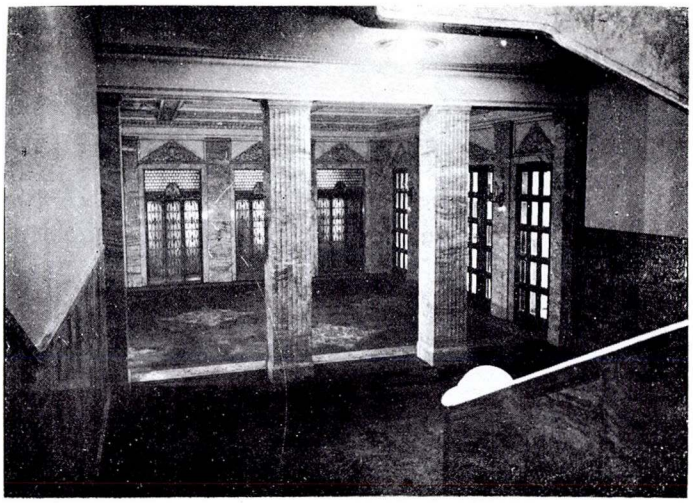


正面中央玄關の柱　高さ48尺・太さ6尺

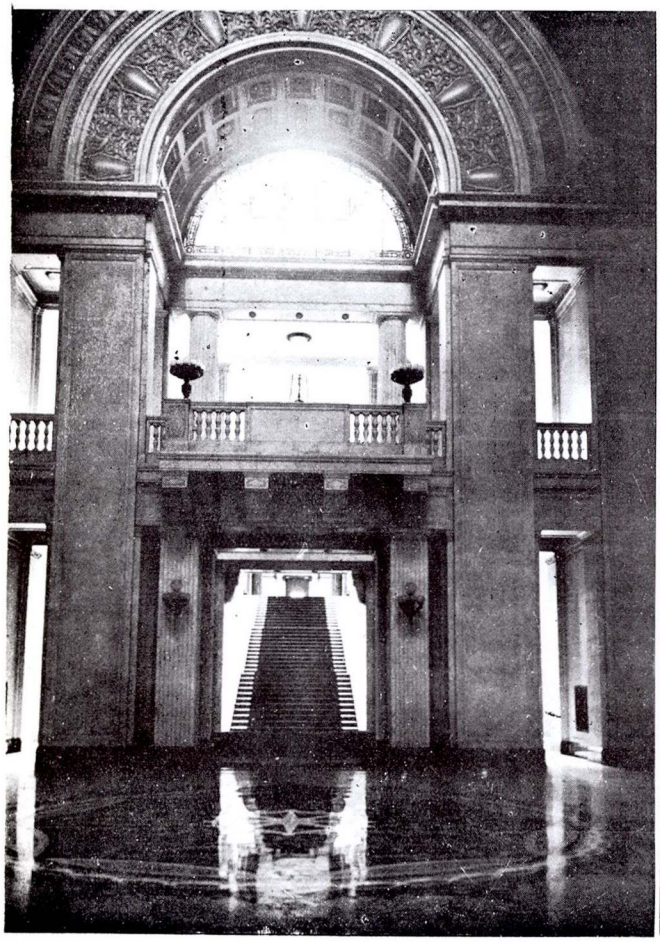


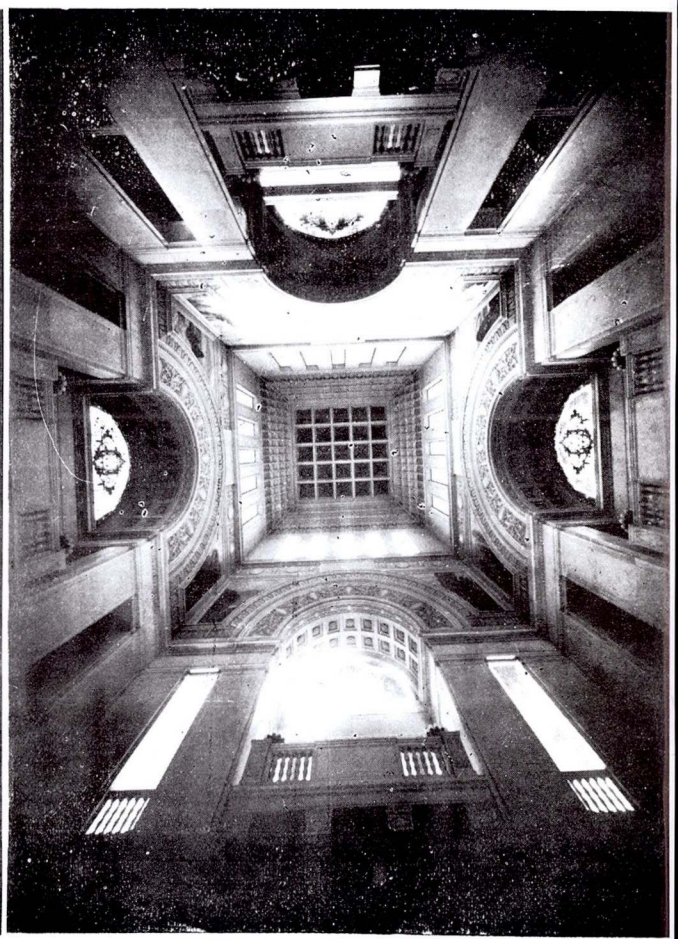
中　央　玄　關

貴族院玄關エレベーター前廣場

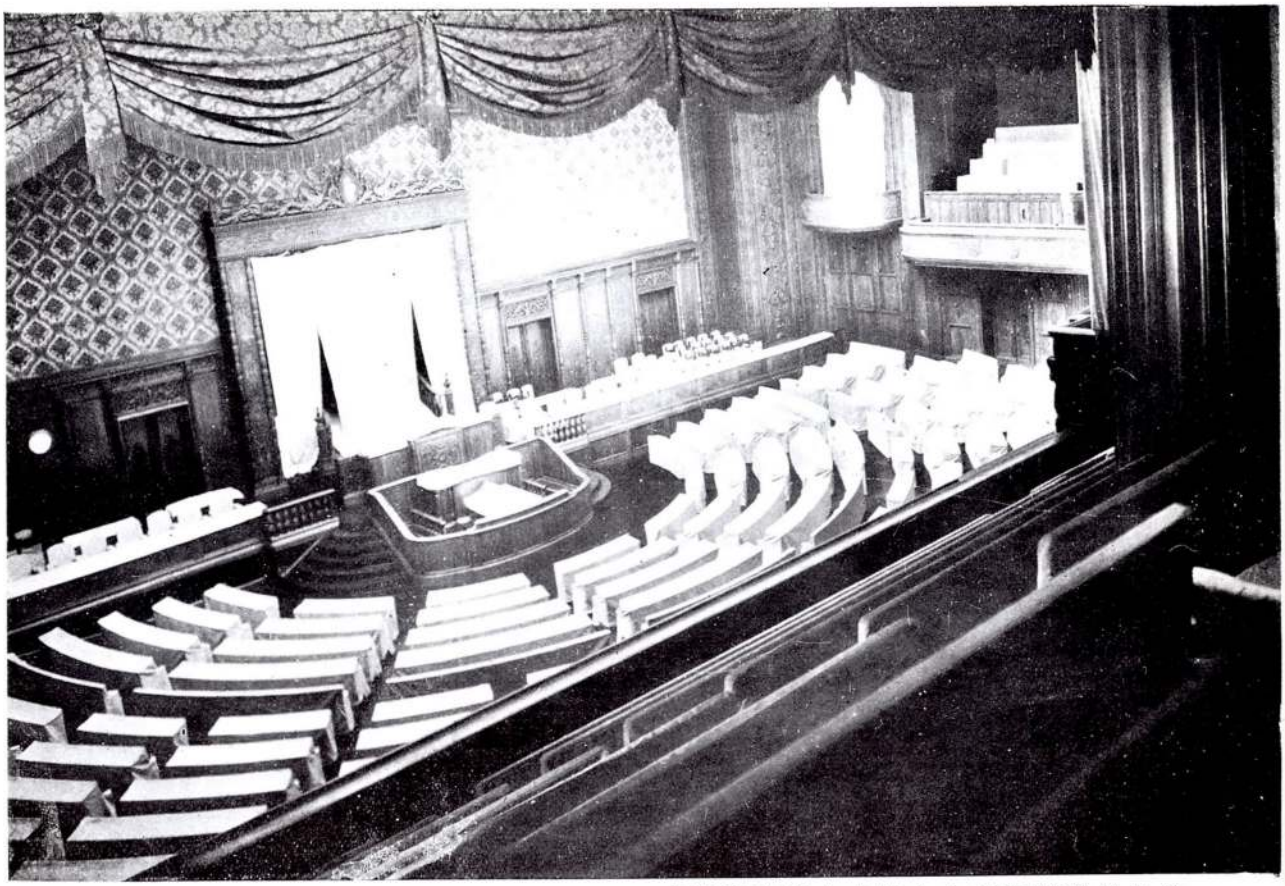


中央ホールより帝室階段を望む





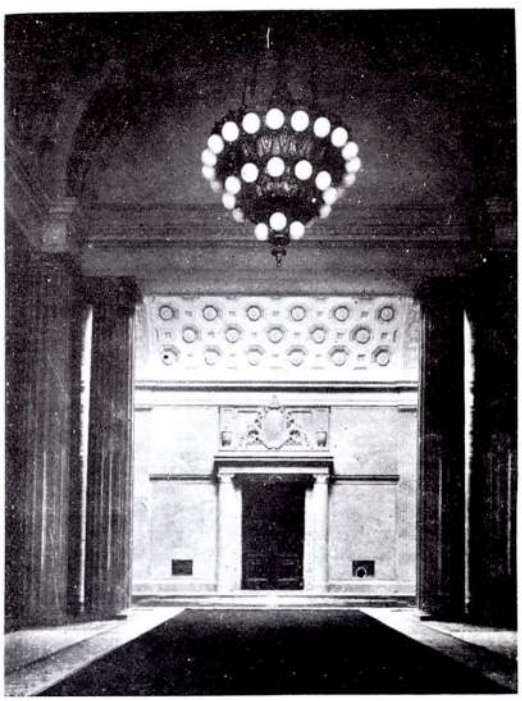
中　央　ホ　ー　ル　天　井



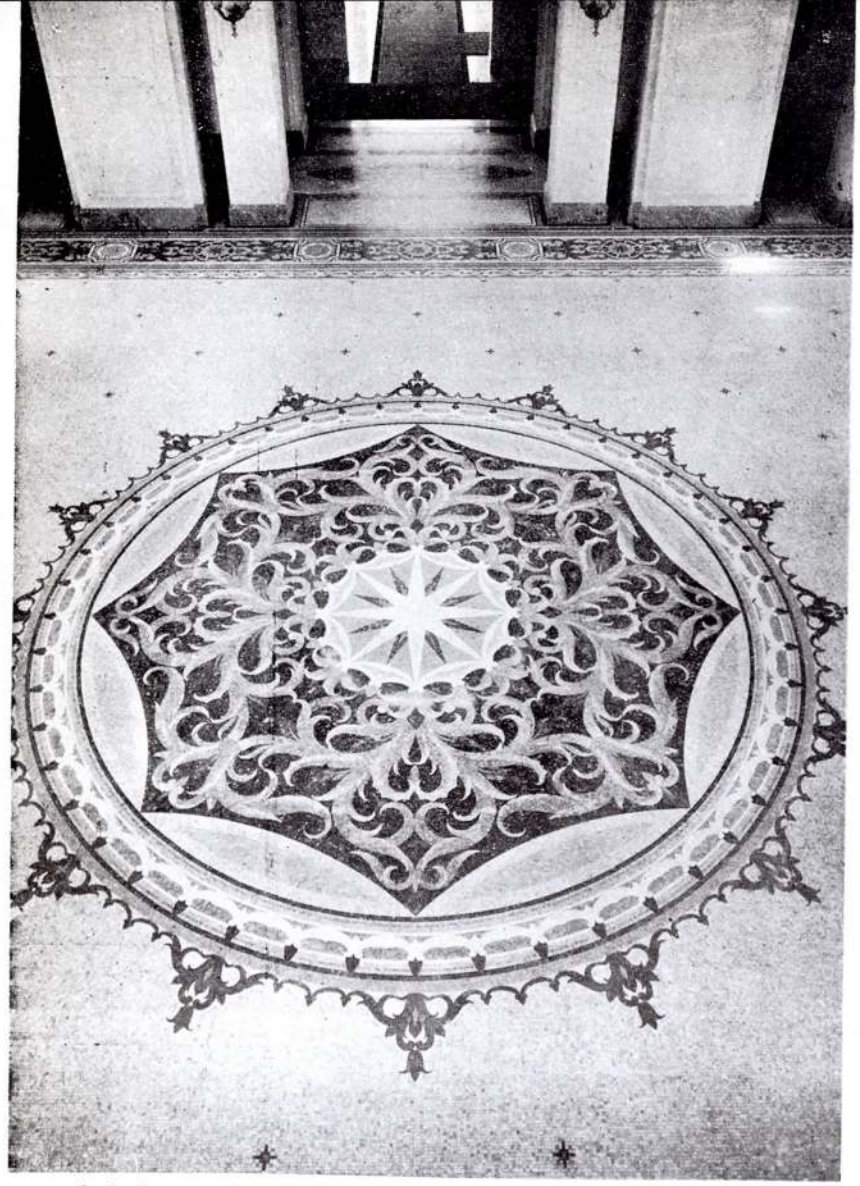
2階傍聽席より見たる貴族院議場全景

日本一の長廊下長さ約二丁



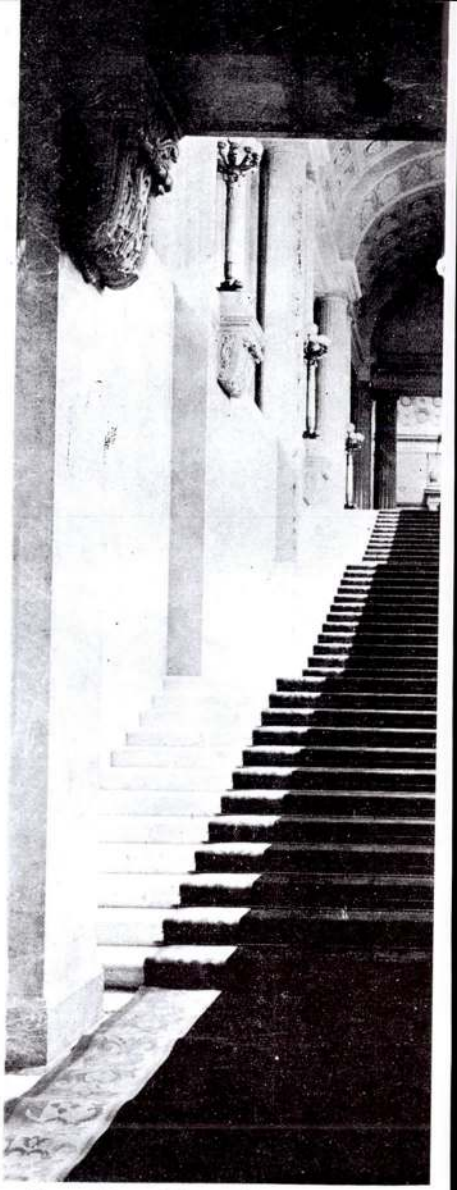


御便殿入口

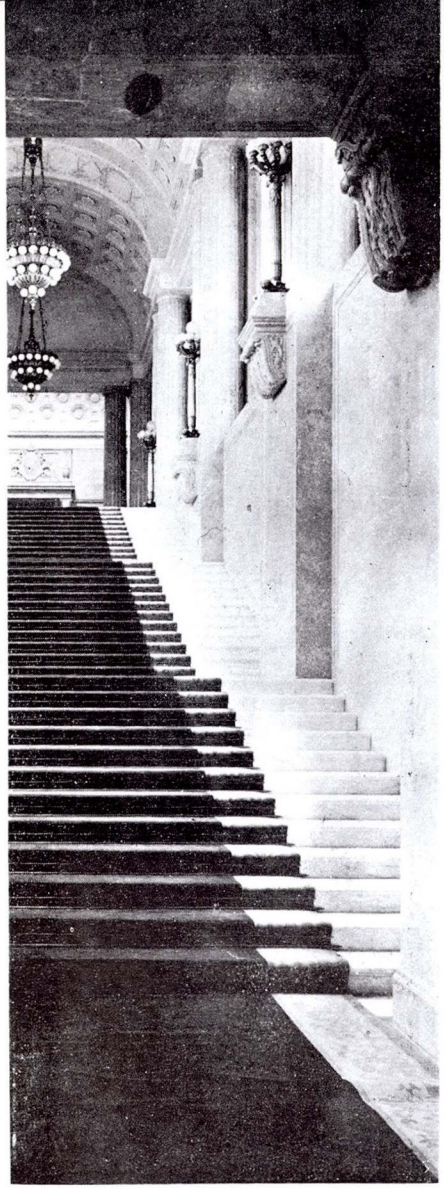


中央ホール床の模様細工

直徑23尺これは6分角の天然石で作られたものでこのホールの床と御便殿前の床の模様細工とで6分角60萬個使用されてゐる。



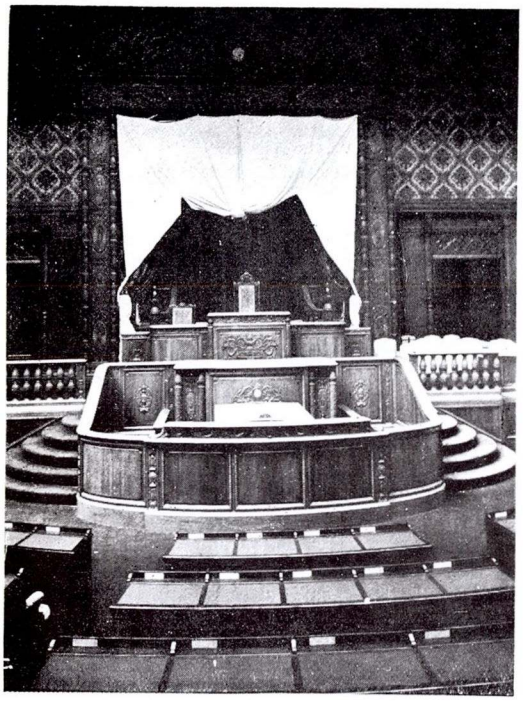
帝室階段



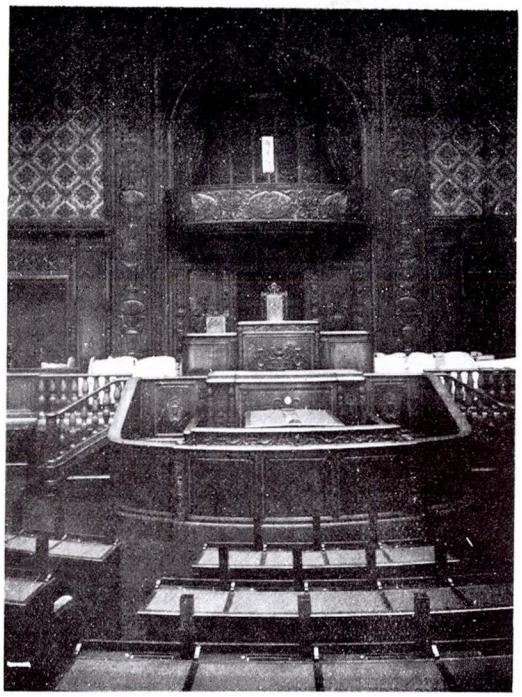


御便殿前廣間

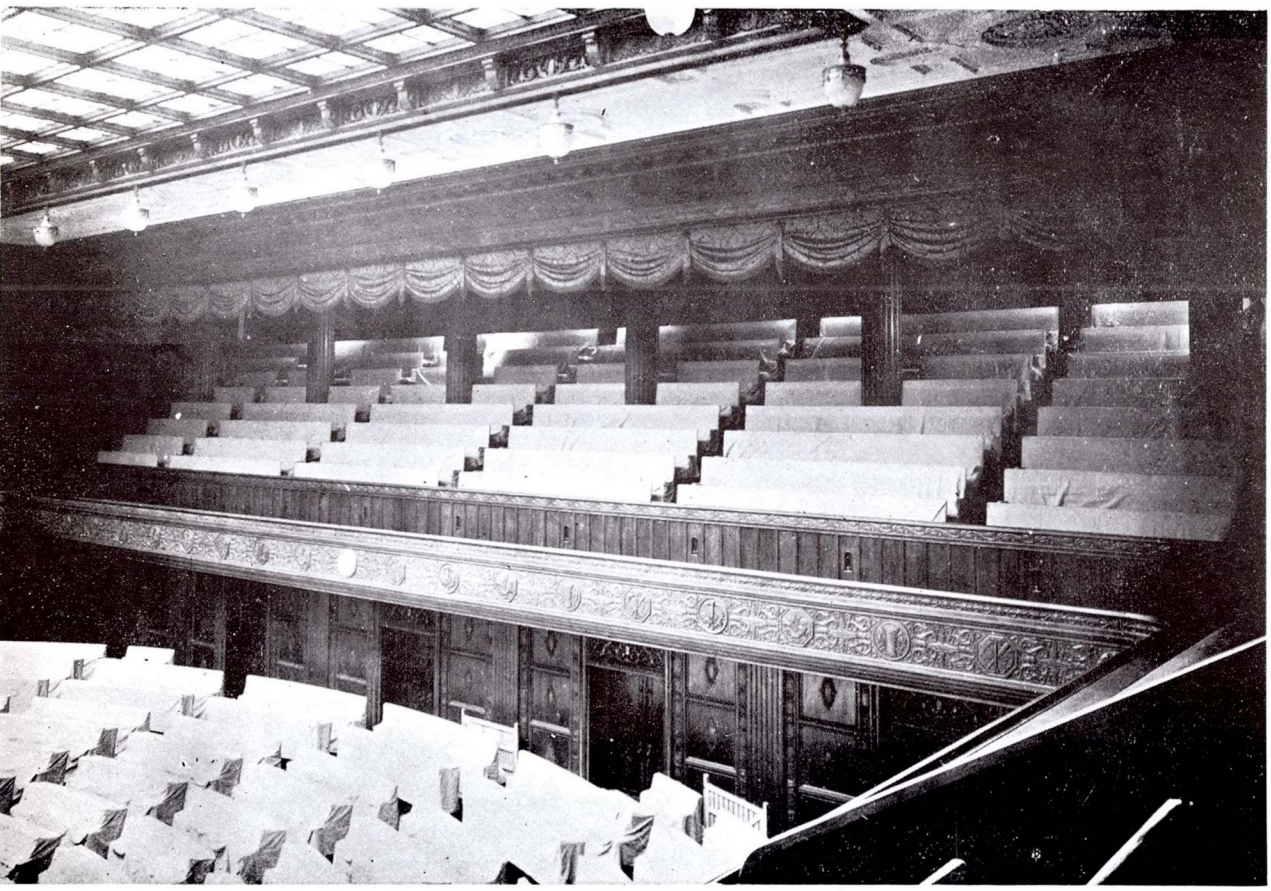
“帝國議會議事堂” 設計監督・大藏省營繕管財局工務部



貴族院演壇全景・議長席・後方白幕のが玉座



衆議院演壇全景・座席は議長席



衆議院正面傍聽席



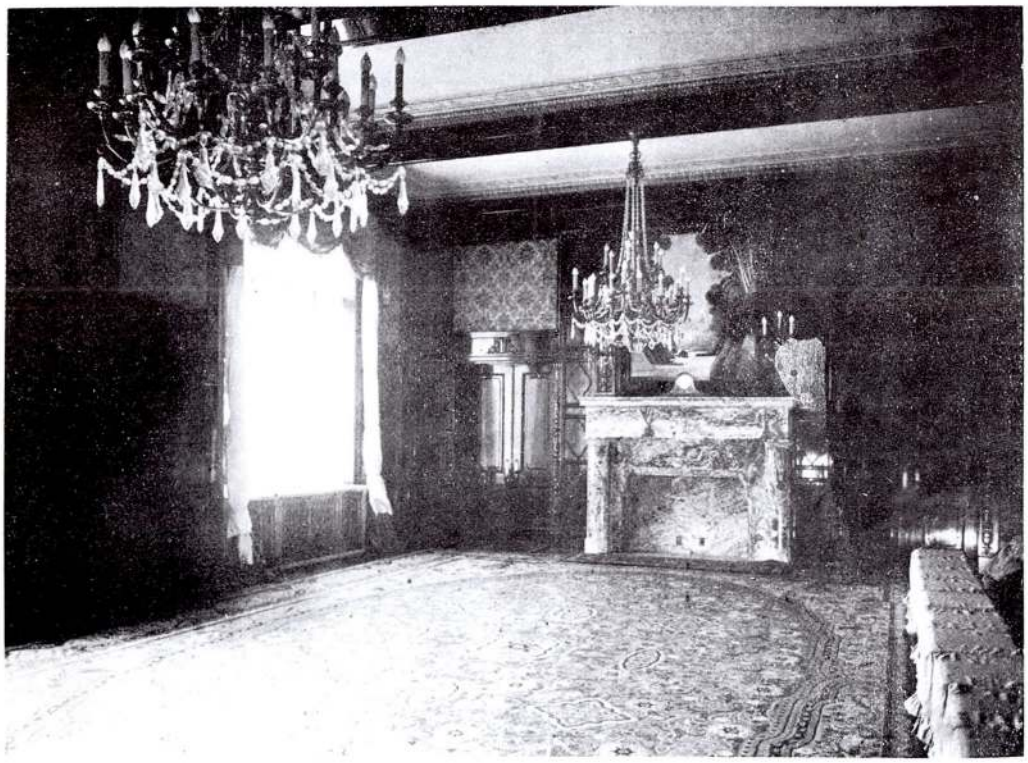
御　便　殿
「帝國議會議事堂建築の概要」より轉載



貴　賓　室

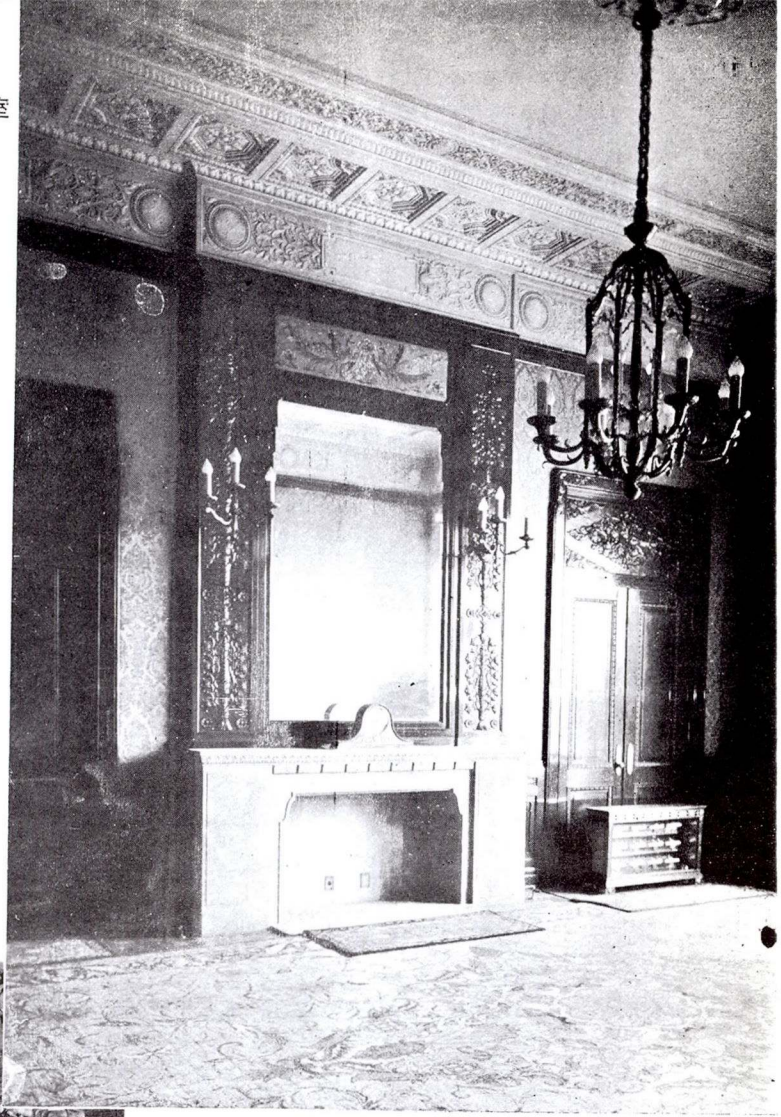


總理大臣室



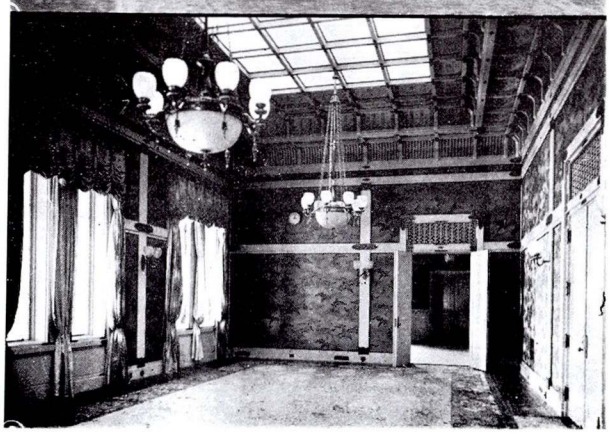
議長サロン

議　長　室



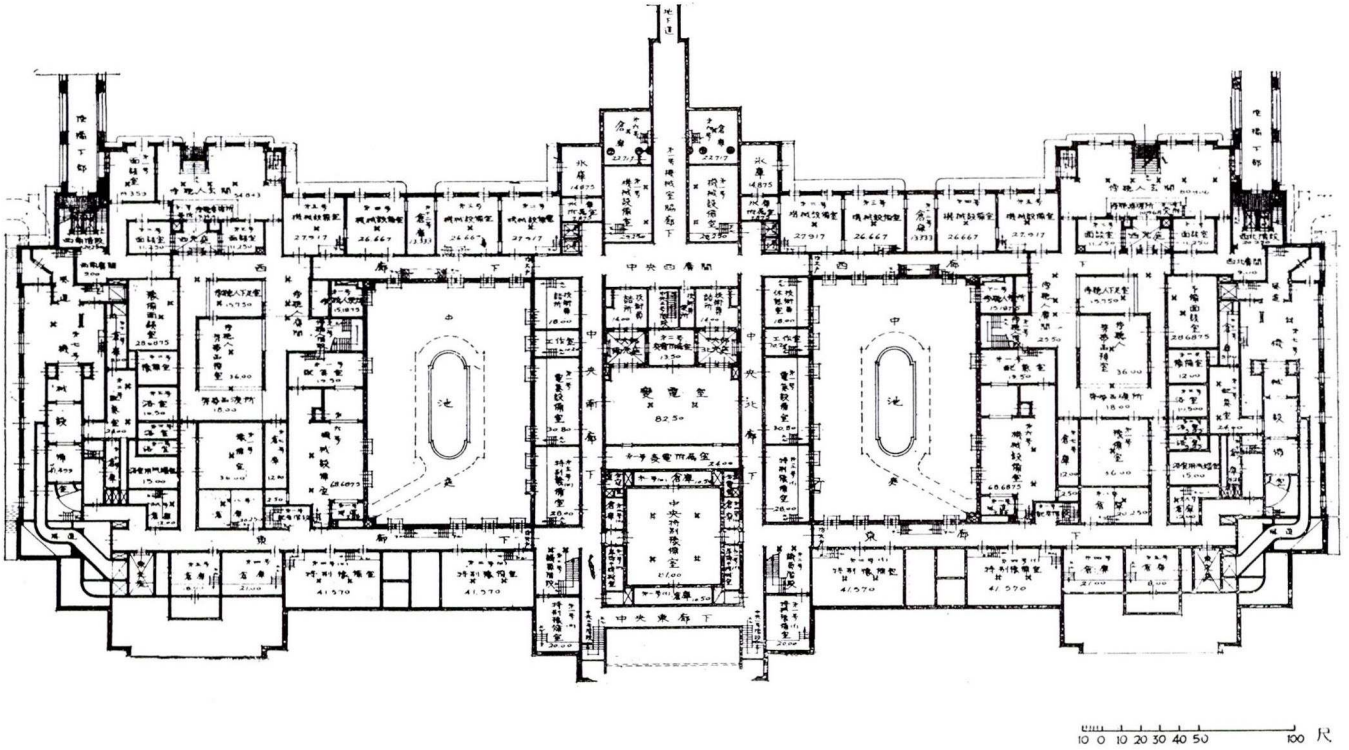


議　院　食　堂



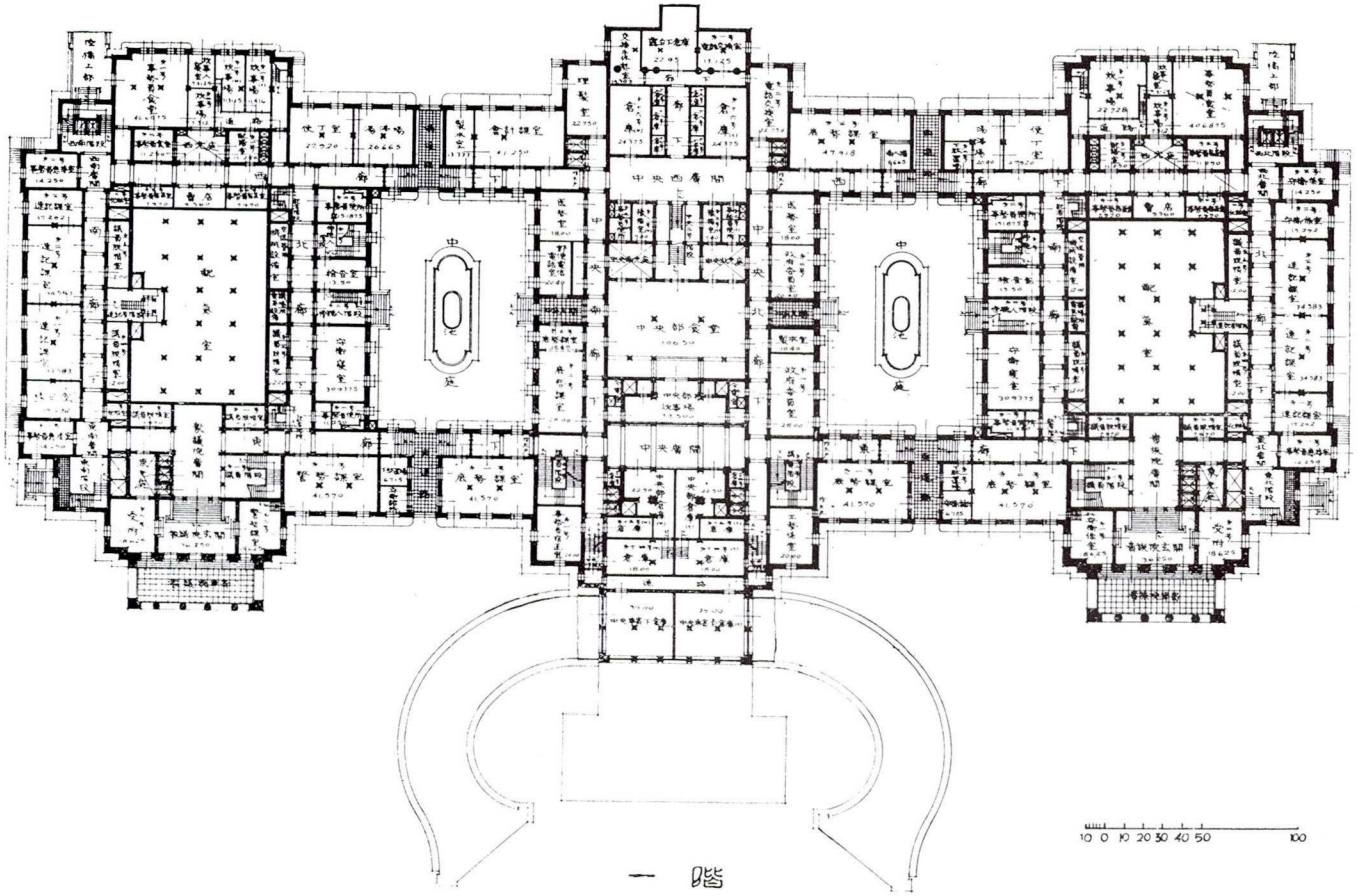
兩　院　協　議　室

本館地階平面圖

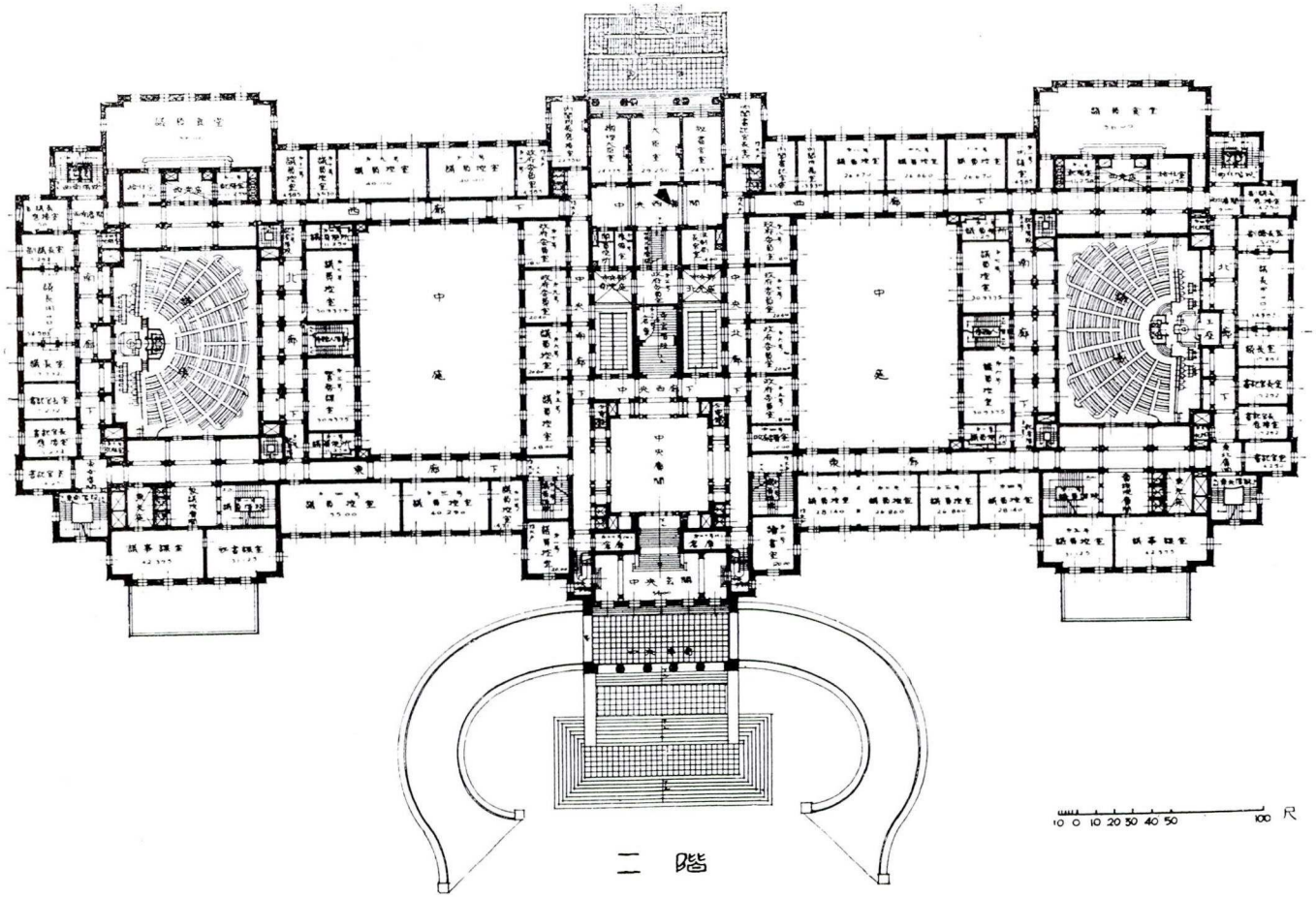


地階 B1

本館1階平面圖

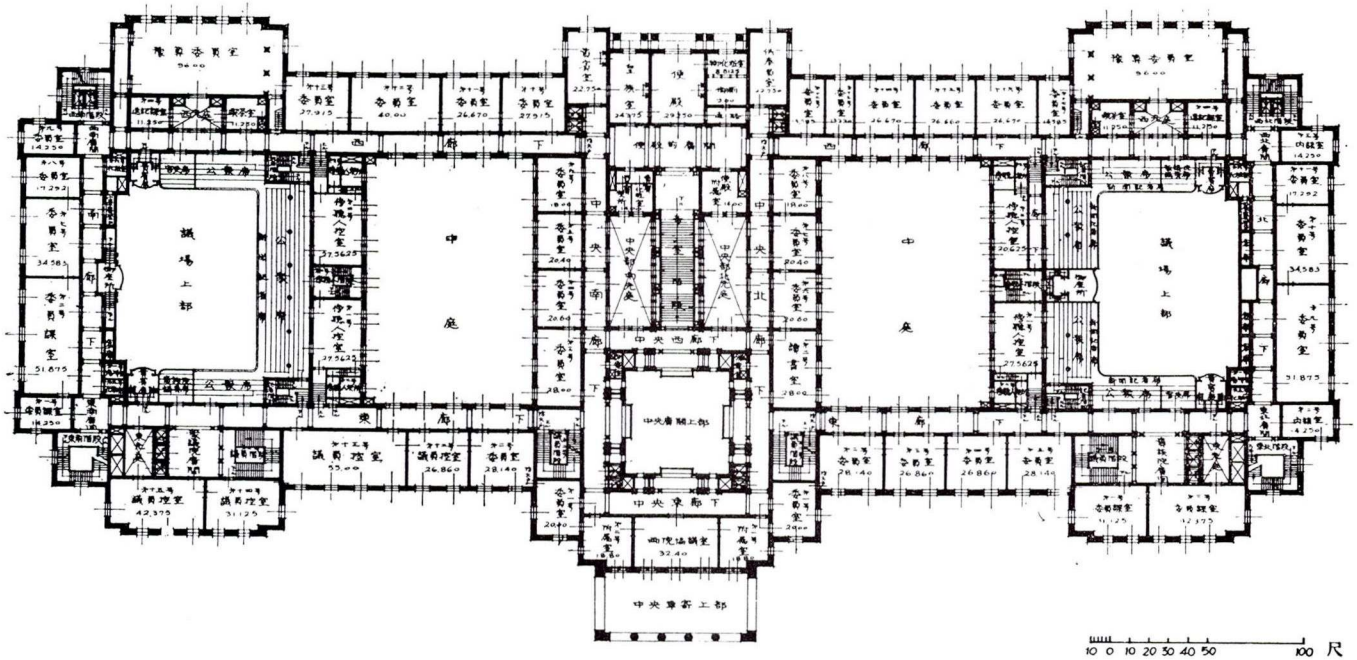


本館2階平面圖

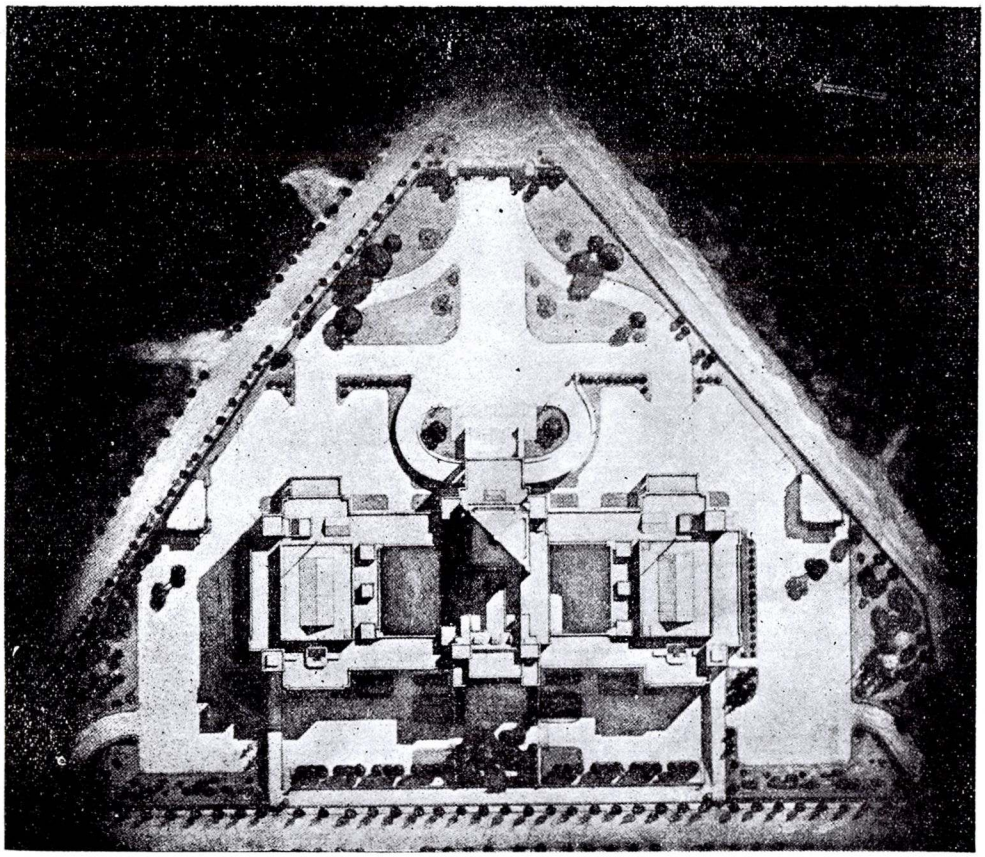


二階

本館3階平面圖


中庭
中央東部下
中央西部下
中央南部下
中央北部下
中央東部上部
中央西部上部
中央南部上部
中央北部上部
中央東部工部
議場上部
公衆席
議員控室
議員席
曲度協調室
10 0 10 20 30 40 50 100 尺

三階



配　　置　　圖

帝國議會議事堂建築概要一覽

敷地坪數	20,946坪67（69,245平方米92）
敷地標高	本館前面地盤　海拔88尺(26米66)　正門前地盤　同67(20米30) 西側永田町通　同98尺(29米69)
本館	
坪數	建坪數(主階)　3,750坪(12,396平方米75)　延坪數　15,780坪(52,1 平方米52)
階數	一般　3階(1部4階)外に地下階　中央塔　9階
幅員	正面長さ　681尺(206米36)　側面長さ　292尺5寸(88米63)
高さ	一般高さ　69尺(20米91)　中央塔高さ　216尺(65米45)
構造	基礎　ペデスタル式コンクリート杭打　壁體　鐵骨鐵筋コンクリ ト造(花崗石貼)　床及屋根　鐵骨鐵筋コンクリート造
總室數（主要なるもの）	390室
議場坪數	貴族員議場　225坪（743平方米81）　幅 105尺　奥行78尺（幅32米82, 行23米64）
	衆議員議場　225坪（743平方米81）　幅 105尺　奥行78尺（幅32米82, 行23米64）
議席數	貴族院　460席(最大限 635 席)　衆議院　466席(最大限 635 席)
傍聽席數	貴族院　770席(新聞記者席共)　衆議院　922席(新聞記者席共)
地鎭祭	大正9年1月30日　上棟式　昭和2年4月7日　竣功式 昭和11年11月7日

116 “帝國議會　　事堂” 設計監督・大藏省營繕管財局工務部



雪　家　田

新　年　を　迎　へ　て

工學博士　片　岡　安

數年來毎年新年を迎ふる毎に來るべき我建築界の隆運に付き大なる期待を持ちながらそれに善處すべき心懸けを高調して來たのであるが、概ね期待に添ふて順調に隆運を辿りつゝ極めて堅實なる向上振りを見て來たのである。これ偏に我國運の隆昌に赴きつゝある影響であつて又我々建築界にあるものゝ努力も與つて力あつたと思はれる。却說本年の豫想

は如何、言ふまでもなく過去數年の順境を繼承して益々堅實なる進展を遂げるであろうと見らるゝが、一面に於て我建築界にあるもの〻責任は從來に倍加することを覺悟せねばならぬのである。今や我國は國際的には正に振古未曾有の非常時であると言はるゝほど國家の全能力を傾到して庶政の一新、產業經濟の立て直し、國防力の極度充實、教育の一大刷新更に進んで國民生活の安定にまでその眞劍味を發揮せんとするのである。この時に當り我建築界の態度は當然それに順應すべき緊張振りを以て臨まねばならぬと考へられる。幸にも我國の建築は今や全く歐米模倣の時代を脫し、その長を採り短を去り更に我國傳統の藝術及現代文化を織り込みたる樣式を生み出し、その構造に於ても我國獨自の耐震法を用ひ、材料に於ては殆んど全部優秀なる國產品を使用し得ること〻なつたのである。又建築に附帶する各種の施設に於ても最近長足の進步を見るに至り何等輸入に待つものを持たぬようになつたことを喜ぶのである。しかるに幸か不幸か我國の都市は過去數百年に亘り木造可燃質の建築物のみを以て構成されて來たので、明治の時代より漸次その改造に着手して來たのであるが、尙ほその大部分は未完成の情態にあることは事實である。現代に於て都市の恒久的堅實性は絕對に必要條件と考へられるのであるから我々は一日も早くこの都市の危險狀態から免がれて安固なる都市を實現せねばならぬ時機に際會して居るのである。我々は我國運隆昌の進展と同時に都市の堅實性を增大し、天災地變に對して絕對安全なる存在を確保すべく最善の努力を盡すを急務とするのである。天災地變の災害を免がれ又はそれを極度に輕減することの急要なるは固とよりであるが、一朝非常時に於ける敵飛行機の襲來を想ふとき、その燒夷彈の少數のものなりとも都市の幾何かの箇所に投下された場合に、その結果の如何に恐ろしきものであるかを思ひ浮べざるを得ないのである。數年來我協會は都市の武裝を高唱し一日も早く不燃性の建築物を以て都市を構成し、その主要部分の重要建築は更にその强度をも增大せしめることは目下の急務であるを强調して來たのは必ずしも我田引水の議論ではない。都市の改造と建築物の重要性を認識することは我國の特に緊急とするところであつて、吾人の國家に奉仕する所以のものまた其點にありと信ずる。新たに年を迎ふるに當り會員一同と共に國家奉仕のこの大目的に邁進せんことを誓ひたいのである。

帝國議會議事堂の建築を語る

大熊喜邦

大正7年6月着手し同9年1月地鎭祭を行ひ起工した帝國議會議事堂の建築其の工成り、昭和11年11月4日中央大廣間に於て修祓の式が行はれ、其の5日畏くも車駕御臨幸長時間に亘る御内覽を賜り、翌6日には各宮殿下台覽の光榮に浴し次で11月7日を卜し竣功式が擧げられた。この議事堂建築の竣成までには相當に長い沿革もあるから、茲に其の梗概を記るす事とするが、本格的な議事堂建築の實現には決して忘れてならぬ方々がある。それは今は故人になられた辰野金吾博士、妻木頼黄博士及矢橋賢吉博士で其の功績は後世に傳へて置かねばならぬのである。又豫算の計上に關しては當時の大藏次官市來乙彦氏の盡力は大なるもので全く豫算の產の親ともいふべき方である。先づこの四氏に對して敬意を表し順次筆を進めて行く。

明治14年10月の議會開設の大詔によつて、明治23年に我が帝國議會が召集されることになつた。そこで議事堂建築の議が起り、明治19年2月内閣に臨時建築局が置かれた。時の外務大臣伯爵井上馨、其の總裁となり議院及諸官衙建築が統轄される事になつて、始めて其の建築に關する機關が設けられたものであつた。これが抑も吾國で議院建築てふ聲を聞いた始である。

この時には條約改正の必要上、獨逸から技術家を招聘しなければならぬ立場にあつたので、「ウヰルヘルム・ベツクマン」「ヘルマン・エンデ」の外、10名程の獨逸建築技術家が遙々來朝した。而して一面には我國から故渡邊讓、河合浩藏兩氏の外、技術家と職工とが建築技術視察と、練習との爲めに獨逸まで派遣された。斯くして議院建築の敷地が今の永田町の場所に決定されると同時に、獨逸建築家の手によつて本議事堂と假議事堂の設計が、作られたばかりでなく、議事堂を中心として、霞ヶ關及日比谷一帶に亘る官衙集中の計畫も立てられ、其の展望圖の美事なものさへも出來た。この頃は今から振り返つて見れば、我が明治建築史上外人技師時代の獨逸時代ともいふべき時であつたから、本議事堂の設計は、勿論今の裁判所や司法省と同じ樣に「獨逸レネツサンス」式であつた。この本議事堂の圖面や展望圖を初め、諸官衙の繪畫は内務、大藏兩省に永らく保存されてゐたが、先年の大震火災で燒亡したのは明治建築資料として惜い事であつた。

然しながら、この獨逸建築家の設計に從へば多大の經費を要し、且つ帝國議會開會の時期切迫の爲め一時假議事堂を建てる事となつて、其の設計が出來た。この設計は「エデン」及「ベツクマン」が日光廟を見學し支那朝鮮を巡遊して、歸國の上送り越した爲めか和洋

折衷の木造議事堂であつた。然し遂に實施はされなかつた。

假議事堂の建築　越へて明治21年更に設計を樹て、其の6月假議事堂の建築に着手し23年11月竣成した。建築技師は獨逸人「アドルフ・ステヒミユレル」並に吉井茂則氏であつたが、意匠設計には獨逸人「ナスチエンテス・チーツエ」も關係した。然るに新築早々24年1月、第一帝國議會開會中不幸にして燒失した。再築は同年10月獨逸人「オスカル・チーツエ」吉井茂則氏などの手に依つて計畫竣成された。これが木造2階建の假議事堂として長く使用されてゐたのだが、大正14年9月18日再び燒失の厄に罹つたので其場に於て復舊計畫を立て、僅か80日足らずの日子を以て晝夜兼行8000坪に近い假議事堂を建て、其の12月の議會に間に合せたのである。眞に破天荒な短期工事で、これが今日迄使はれてゐた假議事堂である。

顧みれば明治24年假議事堂再築中に、豫て歐米諸國を巡廻して歸朝した金子堅太郎氏は、議院建築意見を發表し其の一節に次の樣に述べてゐる。

宜しく日本憲法の記念として、明治聖代を知し召さるゝ天皇陛下の頌德表として、日本美術の集粹點として、萬世不朽に傳はるべき堅固莊嚴なる議院を建築すべし(中略)議院の裝飾に至ては柱、梁、天井、敷物、窓掛、壁紙、其他凡ての裝飾品は、日本美術品を奬勵するの目的と併行せしむるを要す。云々

然しこの後暫くの間は本議事堂建築の議は問題に上らなかつた。

明治30年の議院建築計畫調査會　尋で明治30年5月、內務省に議院建築計畫調査會が置かれ、審議の結果工費見込 700萬圓、工事年限16ヶ年と決議された。32年4月には同省に議院建築調査會が設けられ、茲に議事堂建築は再び問題に上ることゝなつた。調査會では辰野、吉井、妻木の三氏が各間取圖を作成する事となつて其の案も出來上り、工費見込1500萬圓、年限15ヶ年とし意匠設計を懸賞で募集する事に決議はされたが、33年に調査會は廢され、本議事堂建築問題は其まゝ再び休止の狀態とはなつて仕舞つた。

明治43年の議院建築準備委員會　去りながら假議事堂の建築は漸次腐朽の度を增して來た。そこで3ヶ年繼續として大修繕をするに要する經費が議會の協贊を得たが、それを機とし、22議會の終頃、衆議院から本建築の建議が提出されたのである。この結果は43年5月大藏省に議院建築準備委員會の設計となつて、茲に更に本議事堂建築問題が議せらるゝことゝなつた。この委員會に於ける原案は、大藏省臨時建築部で作成をするので時の建築部長妻木博士の命を承け、矢橋賢吉、小林金平、大熊喜邦の三技師が主としてこれを擔當し武田五一、福原俊丸兩氏が參劃したのであるが、この時は我國に於ての建築の技術も、異常に發達し建築に關する學者、技術家の數も頗る多くなつたので、この委員會の議論も世論も亦なかなか熱烈であつた。先づ議院建築調査會が議會に提出された明治41年1月、辰野、塚本、伊東三博士から「議院建築の方法に就て」といふ意見が發表されたもので、其の意見の精神とするところは

議院建築を起すべき機正に熟せり、其形式、手法、構造、裝飾は共に我が國民の學識と技術との粋を竭し集め、以て我が國威を世界に發揚するに足るものならざるべからざるなり（中略）我が建築界は今や如何なる難工事も之を計畫し之を竣功するに於て毫も困扼する所なきに至りたり。斯の如き學術と經驗とを有する我が幾多の建築士に就て、其意匠を募集し、更に其粋を抜き精を撰み、以て適當に之を鹽梅することを得ば、其成績は蓋し完璧に庶幾からん。

といふことで、意匠は懸賞を以て競技に付するを最適當とすると主張されたのである。然しながら其の時の委員會の議案としては伊太利復興式を採用して、これに本邦趣味を出來得る限り加味して議院建築の様式に定めやうとし、意匠設計は競技に依らない事にされてゐた。當時の當局の主腦者は妻木博士である。當路の意氣込は熱烈であつた。民間でも政府の意氣込に刺戟されて、本建築計畫の成立を希望したが、當局が競技に依らない方針であつたから世間の建築家はこれを競技にせよと主張し、建築學會及國華倶樂部は共に建議書を提出し意見書を公表した。而して委員會でも其の會議の半ばに「議院建築の設計は内國一般懸賞競技に附するを適當とす、因て委員會は之を政府に建議すべし」といふ動議が提出されたが、少數を以て否決となつた。かくして様式なるものも「現代國家隆興の精神を發揚するに足るべきものとす」といふ議決を見たのである。だがこの時も財政狀態は本議事堂建築を起すべき經費の支出を許さなかつたので、調査會の廢止と共に再び總てが立消となつて仕舞つた。然し當局者の研究は一歩も踏み止まつてゐることはなかつた。それ以來愈工事に取掛る迄には間取圖でさへ20數回作成してゐる。

茲に再びこの當時を顧れば、明治41年には議院及諸官衙調査費の要求成立して議院及諸官衙敷地のボーリングに依る地質調査が大熊技師を主任として精細に行はれ、43年乃至45年には全國に亘り木材及石材の調査が頗る大がかりに施行され、其成績は「本邦産木材及石材・木材扁」並に「本邦産、石材」として既に刊行されてゐる。してこの時の調査は後年工事着手に當つて非常な資料となつたのである。

大正6年の議院建築調査會　一時休止の姿となつた本議事堂建築の議は大正5年再び其の頭を擡げて來た。翌6年8月には大藏省に市來大藏次官を委員長とする議院建築調査會が設置され、會議の原案は臨時建築課に於て作成するので、時の課長矢橋賢吉氏の命を承け大熊喜邦、小林金平の兩技師及福原俊丸が專ら其任に當つた。而して議院建築の意匠設計は國内一般の懸賞競技に附すること。應募は帝國臣民に限ること。建築様式は應募者の隨意なりと雖も議院として相當の威容を保たしむること。審査員は帝國臣民に限ること。等々別段の波瀾もなく議決された。この時建築學會は原案が一般競技になつてゐるので、建築様式を制限せざることに力を入れて建議した。斯くして11回の會議を開催し議案全部を議了し、工事費豫算750萬圓10ヶ年繼續事業として大正6年の第40帝國議會を通過したのである。

臨時議院建築局の設置　斯くして大正7年6月大藏省に臨時議院建築局が設置され、茲に於て明治19年以來の懸案であつた本建築たる帝國議會議事堂の建築が本格的に施行される段取りとなつたのである。該局の長官は時の大藏次官市來乙彦氏で工營部長矢橋賢吉、調査（設計）課長兼工務課長大熊喜邦、後ち工務（監督）課長小林金平の三技師が技術擔當の主腦となり、經理部長は宮田光雄氏である。而して貴衆兩院書記官長は參與となり顧問の任命があつた。議事堂の建築工事に着手するには二つの準備が必要である。其の1は建築敷地に存在する樞密院廳舍及官舍、馬政局廳舍の移轉である。そこで直ちに其の設計に着手し其の竣功を見る迄には約1ヶ年半を要した。他の1は意匠設計の懸賞募集である。

懸賞募集は大正7年9月16日に二次競技として募集の擧が發表さるゝに至つた。審査員は神野長官及參與と顧問である、古市、辰野、中村、横河、塚本、曾禰、正木、山下、丹羽及矢橋工營部長で審査事務は木本理事、大熊小林兩課長及宮田經理部長がそれに從事したのである。而して大正8年2月15日に 180通の應募圖案を得、審査の結果20人の第1次當選者を出し、この當選者は最後の優秀圖案の作成にかゝり審査の結果10月16日に、第1等渡邊福三。第2等吉木久吉。第3等1席永山美樹。同2席竹内新七と發表されたのである。

斯くして當選圖案を得たのであるが、間取の變更其他各種の事情から當選案はこれを參考にとゞめ新たに設計を樹て重要なる點は顧問會議に附し鋭意其の進捗に努め大正9年議會開會中を期して着工の式を擧ぐる事となつた。

地鎭祭の擧行　古式に倣つて地鎭祭を行つたのが大正9年1月30日で、この時には貴衆兩院議員、國務大臣を初め多數の參列者があつて當時の總理大臣原敬氏が先づ玉串を捧げたのである。こゝに於て事實上の本工事に着手したのだが、次で其年6月26日に鍬入式があつて愈土工工事がはじまつたのである。而して一方には本館の設計は着々其の歩を進めて行つた。意匠設計は技師小嶋榮吉を製圖掛主任とし技師吉武東里、小林正紹以下これを分擔し、兼任技師武田五一氏參劃した。鐵骨鐵筋等の構造部は兼任技師佐野利器氏を指導とし技師齋藤龜之助氏以下これを分擔した。工事場の主任は小林課長兼務であつた。この時白瀧幾之助氏を囑託し油繪を以て大配景繪を作つたのであるが後年の震災で灰燼に歸した。

議事堂の敷地　工事の經過を語る前に議事堂の敷地に就て少しく述べて置きたい。敷地は既に明治20年に決定されてゐたところで、其後市區改正の爲めと最近の擴張に依つて多少變更はしてゐるが、麹町區永田町の高臺にあつて其の面積は 20946 坪餘である。東北に宮城を拜し前面は霞ヶ關離宮を隔てゝ外櫻田町から霞ヶ關一帶に亘る中央諸官衙街を望み、後には永田町の谷間を越えて山王の森は眼前に展開してゐる。立法府の建築敷地としては誠にふさわしい場所である。而して土工事を加へた後の標高は海拔88尺であるが、猶

ほ東方に緩傾斜を爲し西正面はサンクガーデン式になつてゐる。序にこの敷地の昔に溯つて見やう。慶長の昔は只士衆住居と記されてゐるのみであるが、寛永の頃には旗本永田某の屋敷數軒を初め、多くは旗本の屋敷であつた。其の後は何れの時代の繪圖を見ても大した變化はなく、只諸侯の中屋敷が時に割込んで來た位のものである。然し維新の變革の後、一時草莽に埋れてからは、多少の變遷はある。今の敷地の西寄上段の部分は我國民法の起草者である佛人ボアソナードの住宅となり、其の建物は後にメキシコ公使館となり更に馬政局の廳舍として使用されてゐた。其の南隣は永く下田女學部長の住居した女學部長官舍で、北隣はテニス倶樂部のコートとなつてゐた。中段は一時淺野侯の屋敷で、東寄の下段は三條公の邸宅に充てられ後には樞密院の事務所と官舍に使用されてゐた。

議事堂建築の概要　議事堂建築の工事に就て說明をするに先立ち概念を得て置く爲めに建築の概要を記せば次の通りである。

坪　敷……
- 建坪數(主階)…… 3.750坪
- 延坪數……15.780坪

階　敷……3 階（1部4階）外ニ地階

幅　員……
- 正面長……681尺（206米36）
- 側面長……292尺5寸（88米63）

高　サ……
- 一般高サ……69尺（20米91）
- 中央塔高サ……216尺（65米45）

構　造……
- 基　礎……ペデスタル式コンクリート抗打
- 壁　體……鐵骨、鐵筋コンクリート造（花崗石張）
- 床及屋根……鐵骨、鐵筋コンクリート造

建築樣式……近世式

主要室數……390室

議場坪數……
- 貴族院議場……225坪（幅105尺 奥行78尺）
- 衆議院議場……225坪（幅105尺 奥行78尺）

議席數……
- 貴族院……460席（最大限635席）
- 衆議院……466席（最大限635席）

傍聽席數……
- 貴族院……770席（內記者席92席）
- 衆議院……922席（內記者席90席）

議事堂建築の工事費豫算と工事年限は準備工事の分を合せて最初 750萬圓10ヶ年繼續であつたが、其の後種々なる事情で屢々變更が加へられ結局 19 ヶ年繼續事業となり工事費も約2580萬圓になる見込である。

各階の配置　階數は大體地階を除き 3 階、中央部は 4 階建で中央部塔屋には 8 階の部分がありその頂部は展望階にたつてゐる。室數は主要なる室が 390で雜室を加ふれば 449となる。今これを各階別に其の主なるものを列記して見ると次の樣になる。

地階　兩院傍聽人玄關、機械及電氣設備に關する諸室、倉庫等々

一階　兩院玄關、兩院事務局關係の諸室、炊事場等々

二階　中央部に中央大玄關、中央廣間、帝室階段、國務大臣關係の諸室、政府委員室等

兩翼部に兩院議場、議長室、副議長室、書記官長室書記官室並にこれ等の附屬室、議員控室（兩院

合計25室）議員食堂等々

五階　中央部に便殿前廣間、便殿、皇族室等帝室關係の諸室、兩院協議室等

兩翼部に議場傍聽席、傍聽人控室、豫算委員室、各種委員室（兩院合計30室）等々

中三階　新聞記者事務室、機械設備室

四階　書庫、圖書閲覽室、雜誌閲覽室等

而してこれ等の諸室を連絡する廊下の延長は實に1里7町程に達するのである。

最初の土工工事　大正9年6月鍬入式を行つて最初の土工々事に取掛つた。新議事堂の敷地は西側に高い平地はあるが、大體に東に向つて緩傾斜を持つてゐる。本館は其の高い部分に建てられるのであるが、東の正面の地盤と西側の地盤とに12尺からの高差があつて、これを水平に切取らなければならぬと建物下の地業を施すので、掘下げる必要があるのとで、大正9年6月から翌10年6月に亘つて土工々事をやつた。切取り又は掘取つて動かした土量は1萬立方坪以上である。

基礎工事　新議事堂の敷地は永田町の高臺にあるから山の手一帶の地質と同じ様に地表の數尺を除ては所謂赤土で其の厚さも10數尺あるから可なり堅硬であるが、土地の傾斜の關係と地下室の爲め深く掘り下げるので、建物の重量をこの赤土層に支へさせる事が出來ないから、腐朽することの無い「コンクリート」杭を深い下の砂利層から築造して重い建物を安全に支へることにしたのである。杭は長さ27尺乃至35尺で太さ直徑17吋の「ペテスタル」式コンクリート杭で、中央塔の下に 568本其の他の部分に3738本を打込んだ。丁度大正10年3月から始めて11年の初夏6月に打終つたのである。この様にして打込んだ4000餘本の杭が建物の總重量を支へる事になるが、上に建つ鐵骨柱の配置に從つて杭2本乃至10數本宛に組合せ其の頭に厚さ1「メートル」の鐵筋「コンクリート」の礎盤を置き柱を支へる様にした。この礎盤も中央塔の下だけは約14間四方の1枚盤としたので下段が高さ42吋上段51吋で其の上部分を合せると結局3米といふ素晴しいもので、大正13年9月鐵筋組立中の盛事には鐵筋林立してゐる狀態であつた。

鐵骨工事　建築構造の主體は鐵骨鐵筋「コンクリート」で、鋼材を以て骨を組立て壁、床及屋根は鐵筋「コンクリート」造とするのである。而して議事堂建築の方針として眞に已むを得ざるもの丶外は總て國產品を使用する事になつてゐるから、鐵骨も全部八幡製鐵所の製品を使用して、其の工作も亦同所で專屬の職工を採用して大正10年の夏から設計圖の通り造つてゐたのである。こうして出來た部分から海運に依つて箱崎倉庫又は數寄屋河岸等へ陸揚げし建築場へと運搬した。鐵骨の組立工事は大正11年2月からまた別途の請負で部分々々に區切つて施行したのである。而して昭和2年4月中央塔の頂上迄の組立を終つた時を期して上棟式が行はれた。この鐵骨の總量は9810瓲で組立を終る迄6ヶ年を要し、其の後鐵筋「コンクリート」に使用した鐵筋の量は5522瓲である。この鐵筋を全部徑5分のものとして換算すると其の總長さは 886里となるのである。

この鐵骨組立工事中東京帝國大學地震學教室の今村明恒博士に依賴して鐵骨の震動檢測

をして貰つた。而して其の結果を參考として其の後の鐵筋配置に考慮を加へ萬全を期したのである。

外裝石材の採取と加工　新議事堂の外壁面は石材を以て表裝する事になつてゐるが、この外裝石材は建物の外面を保護する使命を持つてゐるから、其の石材も十分耐久性に富んで居らなくてはならない。雨露に對しても磨滅に對しても亦空氣中にある各種の瓦斯の作用に對しても耐久的で寒氣にも強くそれ自身の力も強くなくてはならぬ。其の上色彩の關係もあり產出量も亦頗る豐富のものが必要なのである。こういふ各種の條件から明治43年の全國的の調査を基礎とし理學士小山一郎氏を囑託し更に調査と比較研究及試驗を行つた結果、山口縣德山附近黑髮島產の花崗石が腰部外裝石材とし、廣島縣倉橋島產花崗石が上部外裝石材として選ばれたのである。又兩院中庭通路のアーチ內壁面表裝用としては新潟縣北蒲原郡安田村草水產の帶褐色花崗石が選ばれた。

石材は非常に大量を要するので工事の支障のない樣大正10年から其の採取に着手した。建物の腰部と中庭外裝の全部、空壕壁石、段石、敷石等に使用するものは、山口縣都濃郡大津村大字黑髮島の國有林のものを農商務省から購入し採石請負に付し、之を更に運搬請負に依つて敷地內に運搬し、加工は又別に請負はしめ直營を以て積立た。上部の赤味のある花崗石は大正12年8月から廣島縣安藝郡倉橋島大字尾立所在のものを採取購買し黑髮島產と同樣運搬加工及積立をしたのである。この倉橋村から採取した石材中大きなものには長14尺7寸5分巾3尺8寸5分厚1尺4寸といふものもある。この外裝石材の總量は

黑髮島產花崗石	154678切264
倉橋島產花崗石	180488切421
草水產花崗石	3818切296
合　計	338985切

でこれに大理石の量を加へ一切即ち1立方尺にして積み上げるときは富士山の約30倍の高さとなる。又正面中央部の4本の丸柱は1本物ではないが高さ45尺太さ根元で直徑6尺で1本の重さは24700貫程あり、其上部の鳳凰の彫刻は横48尺高さ8尺で698人の石工が掛つてゐる。而してこれ等の石材は鐵骨の組立に伴つて順々に壁體の鐵筋「コンクリート」と共に積立てたのである。

大正12年の大震火災　九月1日彼の大震災に突如として襲はれた議事堂の建築は幸にして類燒を免がれ、構內に累々たる加工濟石材の少數に損害を受けた外は組立中の鐵骨には些の被害さへも無かつたが、設計中の圖面を始め計算書、模型、標本類は全部灰燼に歸して仕舞つたのである。依つて僅かに殘れる資料を基礎として各自の記憶を辿り、非常な努力を以て漸く復舊する事を得たが、秩序の恢復を待つて遲滯なく工事を進めて行つた。而して大正13年秋には中央塔の基礎である大礎盤工事の施行を終り、昭和2年の初には屋上に突出する塔屋の部分を除き鐵骨組立は殆んど出來上り、其の年4月には鐵骨全部の組立を終つたので茲に上棟式が擧行されたのである。

營繕管財局の設置　談は少しく溯るが大正12年の大震火災の爲殆んど灰燼に歸した諸官衙は、假建築を以て當座を凌いだが、其復興を爲すべき必要に迫られ、其の施行の爲め大藏省に營繕管財局が設置されたので、議事堂建築も亦その所管に移された。その頃の長官は大藏次官で、工務部長矢橋賢吉、工務課長大熊喜邦で小林金平監督課長となり、工事場主任は池田讓次技師、製圖掛主任は小島榮吉技師、意匠設計擔任は吉武東里技師。構造擔任は齋藤龜之助技師で總務部長は太田嘉太郎氏であつた。

上棟式の擧行　中央塔の鐵骨の略出來上つた時、昭和2年4月7日の吉辰を卜し、時の總理大臣各大臣を初め貴衆兩院議員其他多數の參列を以て上棟式が行はれた。中央車寄前に祭壇を中央玄關上に屋上祭壇を設け、塔頂部から引いた木綿綱を矢橋、太田兩部長の指揮に依つてこれを曳き、長官田昌氏は大熊、小林兩課長及齋藤技師を隨へ塔頂部に到り鐵骨に鉚打を行つたのである。この年5月末、工營部長又は工務部長として長年採配を振つた矢橋博士が薨去されたので工務部長には大熊課長、工務課長には池田技師が任命され工事場主任は小島技師が兼務される事となつた。

斯くして鐵骨の組立中から、鐵筋の組立、コンクリート打並に石積を直營を以て進行し無理をしながらも工事の進捗に努力した結果昭和5年初夏には塔の部を除く壁體の全部が出來し、其の夏には塔頂部迄出來上つた。而して震災前から鋭意作成を急でゐた室內造作の設計に基き屋內工事を進め昭和7年初夏には御便殿を初め帝室關係の諸室と兩院議場並に議長室附近の各室の室內工事を略仕上げたのである。尋で全般に亘る4百有餘の室內工事を進め各種設備工事の施行と相俟つて今日の竣成に到つたのであるが、其間工事監督の周到を期し工區を中央部、貴族院、衆議院部に別ち栗原忠一、肥塚照次、中榮一徹の三技師を各主任とし多數の技術者を配屬從事せしめ工事を進めたのである。最盛時に於ては1800餘名の諸職が日々其工事に從事してゐた。而して最近に於ては小林課長退職して小島技師これに代り工事場は齋藤、中榮の兩技師が主としてこれを受持つてゐた。

茲に少しく記して置きたいのは、鐵筋コンクリート用の砂は肥塚技師考案の砂洗滌機を使用し砂利も洗滌し使用した事である。而して竣成迄に使用した「セメント」、砂及砂利の總量は次の通りである。

セメント	27446噸4
砂	5870立坪
大玉砂利	65立坪
小砂利	8440立坪
切込砂利	160立坪
火山砂利	200立坪

室內裝飾石材　室內の仕上げの石材は主として大理石であるが、この大理石に就ては明治43年に脇水理學博士が囑託となり小山理學士と共に全國的に調査したのであるが、爾來年を經たので其の種類も產出狀態も全く變化してゐるので、更に調査しまた業者の提出し

たるものに就ても調査を加へ、適材適所に使用した。又中央廣間壁及階段室仕上げ石材としては武田兼任技師の報告に基き、再三人を派して調査した沖繩縣產出の珊瑚石灰岩…琉球石…を瀨戸島及宮古島から採取して約1萬才を使用した。この琉球石は津田元四郎技師が約1ヶ年間も琉球に滯在し萬難を排して採取したのである。2階廊下の腰は日華石を以て貼つた。これ等石材の使用量は日華石1903切、大理石37種37038切で琉球石は先にも述べた通り約1萬切である。而して石材も總て國產を使用したので我國大理石の產出に異狀な進展を與へたと思ふのである。

構造と造作用の木材　木材も亦國產を選び雜木と雖もこれを活用するの方針だつたので、既に明治43年に調査したが更に調査を施し、欅、檜、臺灣檜、栃、櫻、鹽地、イチイ、柱、クルミ、松、杉等24種173000立方尺程が使用されてゐる。

壁と天井の仕上と敷物　壁と天井は多くは漆喰塗の色付塗裝となつてゐるが、室の程度に應じて壁紙貼と裂地貼とがある。壁紙は國產山路壁紙で裂地貼には、錦、ヨリナナコ、華山織、絹金華山織、絹博多織、緞子、綾地緞子、絹綿緞子、絹綿交浮織、玉糸リンク織、ゴブラン風織、絹レーヨン、絹モケツト、リング織、麻モケツト、紋ビロード等が使つてある。又敷物も場所に應じて絹緞通、千歳緞通、毛緞通、毛絨氈等が使用してある。この壁裂、窓掛、敷物も夫れ夫れ意匠を考案し製作させたものが多く特に敷物は國產品を使用した爲に其の製作技能の向上に寄與したところが多かつた樣である。而してこの裝飾的の部分に關しては山田知雄技師の擔當である。

ブロンズ扉　中央と兩院玄關入口扉、其の內部のブロンズ建具は共に東京美術學校に依頼して製作して貰つた。この頃民間の大建築に使はれてゐたブロンス扉は多くは海外の製作で國產には多少の不安があつた。依つて當局の設計に基き美術學校とが協力して製作したのであるが、美術學校では材質の均等を期する爲め全使用量8000貫を一度に合金して7000貫餘が實際に使用された量である。而して正面の扉は其の1枚が巾3尺6寸高さ13尺で重量は300貫である。この以外のブロンズ扉類は其の後民間技術も發達したので當業者の請負に依つて出來たのである。

模型製作　設計の當初に於て先づ以て本館模型を作成しこれを資料として研究した。中央塔の如きは六七回も模型を作つたものである。同時に敷地の模型、鐵骨の模型も作つたが、何れも震火災にて燒失した。又內外に亘る石材彫刻、木材彫刻、石膏製彫刻、飾金具、透金物類等總て現物大石膏模型を製作して實施に移つたので、其の數は頗る多く、巾9尺長20數尺といふ大物もある。これ等の模型製作には其の掛りを置き囑託佐野昭氏、相曾秀之助技手が主としてこれに從事したのである。又本館配景としては油繪を以て白瀧幾之助氏が作成したがこれも灰燼に歸した。又中央廣間の壁畵は假物として吉武東里、安田清、田中儀一、熊谷年郎、高橋健司郎が描いた。

各室の梗概　以上に記し來りたる所を以て新議事堂建築の大要を知り得ると思ふが、後

段に於て諸設備工事を述ぶる前に、主要なる各室内の梗概を記すこゝとする。

中央玄關　壁と柱とは德島縣產大理石加茂更紗を以て貼り床は埼玉縣產貴蛇紋と茨城白を市松に敷き込み階段石は茨城白を使用してある。小壁と天井は漆喰塗の色付である。

中央廣間　廣さ9間角周圍を加へて12間角であるが、大切な通路の交叉する所なので4階吹抜となつて、上方四周の窓から採光してゐる。天井迄の高さは 107尺6寸6分で廣間周圍の壁柱等は2階迄珊瑚石灰岩で貼られ、それ以上は主として石膏貼りで天井蛇腹は電鑄ペンキ塗である。床は全面大理石モザイツクで便殿前廣間の分と合せてテツセルは160 萬粒程である。而して照明は天井裏と蛇腹内と、周圍手摺と壁のブラケツトに裝置してゐる。

帝室階段　中央廣間から便殿前廣間への大階段通路で左右壁面の腰は德島縣產時烏を以て貼り段石は茨城白である。天井は半圓形で小壁と共に漆喰塗色付である。

便殿前廣間　壁面は帝室階段と同じ大理石時烏を以て貼り小壁は石膏製薄肉模様で半圓形天井と共にペンキ色付である。床は全面大理石モザイツクとなつてゐる。

便　殿　長押付折上げ格天井の國風の意匠で用材は總て檜材、本漆塗で長押下は華山織、小壁は鳥を刺繡であしらつた捩七子、霞は縫取織を以て貼り其周圍には軟錦が廻してある。飾金具は金渡金の肉彫で天井の格間は錦織を以て貼つてある。煖爐上の丸柱と各所の彫刻は總て乾塗製を使用し、入口扉は漆塗の螺鈿入蒔繪で煖爐の石は靜岡產の紅葉石に彫刻を施したもの。窓掛は錦織で床は周圍が寄木張り、敷物は絹緞通を用ひてある。漆塗は特に美術學校に依頼したのである。

皇族室　便殿の隣りで造作は臺灣檜漆塗となつてゐるが、意匠は便殿同様の國風で壁貼と窓掛とは緞子、敷物は絹緞通である。煖爐前飾は福岡縣產の大理石「金華石」である。

貴賓室　造作は臺灣檜でペンキ塗り、壁貼と窓掛とは共に緞子で敷物絹緞通を使用した。煖爐前飾は山口縣產の小櫻である。

兩院協議室　室内造作は臺灣檜を用ひ仕上げは帶黄白色のペンキ塗で長押付折上格天井の國風の手法を採用した。格天井の一部は天井明りとし模様を浮出しにした硝子を嵌め、壁と窓掛とは福岡工業試驗場製作の博多織で飾金具は銅製の煮黑目である。敷物は絹緞通で千歳席通と稱する大熊の創案に依り福岡工業試驗場が國武工場に於て製作したものである。

貴族院議場　巾105尺奥行78尺面積225坪で天井高さ42尺2寸。正面に玉座其の前方に議長席、演壇、速記者席、左右に政府委員席の設けがあり、議員席は460席で半圓形雛段形に構へられてゐる事は型の通りで、傍聽席は上部三方にあつて中央を御座所とし、御座所前を除く前側は全部記者席としてある。記者席の背後に「ニユーマチツク、キヤリヤー」を設け且つ專用通路を作つたのと、速記者席に下階に通ずる特別階段を設けたのは今迄に例のない事である。

造作は總て欅材で摺漆塗。玉座の壁とカーテンは錦織、敷物は緋緞通で、御座所のカーテンも亦錦織である。貴賓席の壁貼は緞子、カーテンは絹リング織で議場正面の大壁は麻モケツト貼付である。議席は櫻材ラツカー塗で張裂は紋ビロード。議場の床は全面毛緞通を以て敷詰たのである。

採光は硝子天井に依り夜間は天井裏 418箇の電燈照明で天井下の釣電燈は停電時にも蓄電池に依つて點燈されるのである。而して議場下に混氣室の設けがあり、議席下のマツシルール型の通風裝置と天井其他の通風孔とに依つて熱空氣が上昇式又は下降式自在に調節され夏季には冷房を行る得るのである。

衆議院議場　貴族院議場と全く同じであるが、正面議長席上に御座所の設けがあるのは新議事堂に於て初めての事である。議員席は466席で635席迄は置く事が出來るのである。議場の欅材には彫刻が澤山施されてゐるが、木材の伸縮を目立たぬ様。また音響關係に効果を得る様特に考慮した結果である。

議員控室　議場と同階にあつて13坪乃至55坪のものが兩院合せて25室。室内の仕上げは總て同一で造作は臺灣檜ペンキ塗。壁貼は絹レーヨン、窓掛は絹綿交緞子を使用し敷物は毛絨氈を敷込んである。放熱器廻りの大理石は德島縣產の曙である。

委員室　13坪餘乃至55坪のものが兩院合せて30室で其の大部分は 3 階に置かれてゐる。何れも同樣な仕上げで、造作は桂と栃材ワニス塗、壁漆喰塗の色付塗裝である。窓掛は絹綿交緞子で敷物は毛絨氈が敷込である。政府委員室も亦同樣である。

豫算委員室　96坪の廣さで衆議院の分には傍聽席が設けられてゐる。室内造作は栃材でクリヤーラツカー塗裝壁貼と窓掛は絹緞子で敷物は毛絨氈、天井は音響の關係を考慮して漆喰塗の上に漆面仕上の加工がしてある。

議員食堂　豫算委員室の下96坪の大さで室内の高い腰羽目等造作はクルミ（滿洲產）材を用ひ澁い色合のステイン蠟仕上となつてゐる。腰羽目上の小壁はゴブラン風綿織で貼り窓掛は綿ゴブラン織を用ひた。床は寄木張りでそこには鋤燒用の電氣差込口が取付けてあり、カウンターの設けもある。又放熱器廻りに使用した大理石は東京府西多摩郡產の「青梅」である。

總理大臣室　位置は皇族室の下に相當し廣さは24坪強、室内造作はチーク材クリヤーラツカー塗で壁貼には絹綿リング織、窓掛には絹金華山織を使用した。敷物は兩院協議室と同樣福岡工業試驗場製の千歲緞通で煖爐前飾の大理石は岡山縣產出の「黑柿」である。

大臣室　位置は便殿の直下で廣さ29坪強、室内造作はチーク材でクリヤーラツカー塗としてある。壁は絹麻交浮織で窓掛には絹緞子を用ひ敷物は千歲緞通である。煖爐前飾は茨城白を選んだのである。

大臣室前廣間の壁面は朝鮮黃海道小靑島產の大理石「黃龍」を以て仕上げてある。

議長室　貴衆兩院共全く同一で室内造作には欅材を用ひラツク塗に仕上げた。壁と窓掛の

裂地は緞子で床は毛氈通を敷込んである。煖爐前飾は兩院の玄關に使用してある山口縣産大理石「鶉」で放熱器廻りは山口縣産大理石「霞」を使つた。

議長サロン　34坪餘の廣さで、室内造作は欅材を使用しラツク塗てある。腰羽目上の壁はリング織、窓掛は紋ビロードで敷物には毛氈通を使つた。2 箇所の大煖爐前飾は岩手縣産出の大理石「紫雲」であるが其の上の刺繍額面は一面は日本新八景の一、他の一面は北齋畫稿の木曾六十九次の一である。又放熱器廻りの大理石には「霞」が使つてある。

副議長室　室内造作は欅ラツク塗で壁貼には氈子、窓掛にはゴブラン風織が使つてあり、敷物は毛絨氈を敷詰めた。煖爐前飾は熊本縣下益城郡豐福村産の「竹葉」で茨城産の大笹に酷似してゐる。放熱器廻りの大理石は「霞」である。

副議長應接室　室内造作は議長室と同一で壁貼は氈子、窓掛は紋ビロードを使つた。敷物は毛絨氈で煖爐前飾の大理石は德島縣「木頭石」を採用したのである。

煖爐上の鏡硝子は未だ國産品が出來なかつたので已むなく外國品を用ひたのであるが今日では國産で間に合ふのである。

兩院玄關　共に全く同一である。壁面及柱は山口縣産の大理石「鶉」を以て仕上げ床は山口縣産の「薄雲」と「霞」の市松敷、段石には薄雲が使つてある。而して入口扉はブロンズ製の扉である。

兩院玄關廣間　壁柱と階段の腰、手摺等總て富山縣黒部峽谷附近から採取した「オニツクス」大理石を以て仕上げた。段石は「薄雲」で小壁と天井は漆喰塗色付塗裝である。而して 2 階 3 階共同樣でこゝには昇降機 3 臺が設備されてゐる。

2 階廊下　兩側の壁は下部の中木に德島縣産「新淡雲」を用ひ、其の上部は大阪府西成郡産出の凝灰岩を薄く挽割り輕く燒いた「日華石」を以て貼つた。入口廻りの額緣は大理石「加茂更紗」で床の兩側はテラゾー敷である。

3 階廊下　兩側の壁は巾木に德島縣荅島産大理石を用ひ壁はテラコツタで貼り上げ、各室出入口の額緣には土佐の「金雲」を使用した。床は 2 階廊下と同一で、小壁と天井とは 2 階廊下共に漆喰塗の色付塗裝である。廊下の中通りは絨氈敷である。

機械的の諸設備　近世科學の進歩は我が議事堂建築の内部の諸設備に、世界の議事堂中最も新しいだけそれだけ最新の知識を傾けさせねばならなかつた。然かも長期に亘り繼續事業なので將來實現可能と思はるゝ裝置や機械に對する見透をも必要とし且つ其の後の科學の進展に從つて隨時變改をも加へねばならなかつたので、そこに可なりの苦心も努力もあつた。この機械的設備の計畫に關しては當初囑託福原俊丸氏が關與したが兼任技師北浦重之氏の計畫指導を以て戸田一見、木下功一の兩技師が機械設備及衞生設備を分擔し多數の技術者と協力して設計及實施に當つたのである。今この設備の主要なるものを記せば次の通りである。

煖房裝置　煖房裝置は直接煖房（蒸汽）と間接煖房（熱空氣）の二種を室の用途に從つて適

當に採用したもので直接煖房の中には換氣を併用した室もある。

間接煖房の室は、帝室關係の各室、議場、各大臣室、豫算委員室、各委員室、中央廣間。

直接煖房換氣併用の室は、議員控室、議長副議長用諸室、內閣用諸室、書記官長及書記官用諸室、讀書室及圖書閱覽室、議員食堂及中央部食堂。

直接煖房の室は、政府委員室、各事務室、其他一般の各室。

といふ風に分類して煖房されてゐるが、間接煖房中議場は他の室とは全く單獨な裝置で後に記す換氣裝置中加熱器を附加したもので小屋組內には鐵管放熱器を配置して場內所要の熱量の補足と同時に屋根硝子面の結露を防止する樣にしてある。又帝室用各室と議場を除く間接煖房の諸室は一般換氣用風道に夫々補助加熱器を取付けて其目的を達する樣にしてある。

直接煖房は眞空式低壓蒸汽煖房で放熱器は換氣を併用する室は地階を除くの外全部窓下に隱蔽し其の他は細柱型放熱器を露出させてゐる。而して間接直接兩煖房共に自動溫濕度調整裝置を取付け放熱器又は加熱器內の蒸汽を調節して室內溫度を任意に且つ一定に保たしめる樣にしてある。

これが爲には西方道路を隔てた附屬地內の低所に汽罐室を建設し高壓用水管式3臺の汽罐を据へ煤煙の防止と燃料の節約を計るため自働燃炭裝置が設備されてゐる。而して蒸汽管は地下道に依つて本館設備室に連結してある。

換氣裝置　議場と其他の各室とは夫々單獨な裝置で各裝置共に加熱器、空氣洗滌機、扇風機を備へこゝで先づ水を以て洗滌し加熱器で熱し更に適當な濕度を與へ溫濕度を調節したものを扇風機で間接煖房をする室と直接煖房をする室の中換氣併用の室に送り込み室內空氣の交換をするのである。議場用換氣裝置は議場內に於て1人每時1800立方尺總計每分45200立方尺を送り得る容量である。換氣風道は2系統で1は議場天井硝子面周圍、後部傍聽席天井面、各階入口欄間に設けた「レジスター」に連結し、他系統は傍聽席腰掛下、議席腰掛下、政府委員席側壁面巾木上に備けた「レジスター」又は「マッシルームベンチレーター」に連結してある。而して換氣の外に機械排氣の施設を加へ必要に從つて換氣入口、排氣出口を前記の二系統の轉換に依つて自在に變へ得る樣に出來てゐる。空氣は構左右の植込の中にある空氣取入口から、地下風道に依つて機械室へ導くのである。

各室用の換氣裝置は各室共每時4回乃至6回換氣し得る丈けの總計每分53000立方尺の空氣を送り得る容量にしてある。換氣口は各室入口欄間又は壁面の床上9尺內外の位置に設けた「レジスター」をこれに充て、尙廊下側間仕切巾木上に「レジスター」を設けて自然換氣に充てある。豫算委員室は特に議場に倣つて天井面と床巾木上に「レジスター」を取設け別に機械排氣を附設して上下何れよりも換氣と排氣を爲し得る樣にしてある。

而してこの各室の換氣には中庭の池に空氣取入口を設けこれから地下風道に依つて機械室へ導く様になつてゐる。

排氣裝置　特に多數集合する議場と豫算委員室とは前記の通り機械排氣附加してあるが、猶臭氣、水蒸氣、有毒瓦斯の發散する憂ある室と地階で外氣に接する窓の無い室及倉庫等には室の性質に應じて室容量の5回乃至30回に相當する排氣をなし得る設備が施してある。而してこれを兩院夫々12系統に分け其の排氣量に應じての扇風機と電動機とか備へてある。

冷房裝置　機械換氣をする各室は夏季に於て鑿井の地下水を利用して冷空氣を送る様になつてゐるが、必要に應じては氷を地下水に添加する方法を採用してゐるので氷庫、氷融解設備、冷水槽等が設けられてゐる。

給水設備　給水系統を飲料用と雜用との二系統に分ち飲料用としては市水道を使用し、雜用に對しては鑿井水を使用するのである。

排水設備　各階の水洗便所汚水は化粧室、炊事場等の普通排水と全然別系統とし、各階便所内に汚水管を立下げ各便所汚水と其の附近の手洗排水を纏めて之れに連結し、市下水渠に直接放流するのである。各階湯沸室、化粧室等の排水は夫々附近の分を合せて外部に排出し雨水と共に埋設配管に依り排水してゐる。又地階機械室の排水は直結渦卷ポンプを以て自働的に運轉して外部へ排出する様にしてある。

防火設備　地階機械設備室に50馬力電動直結タービン式消火ポンプ及ガソリン機關直結タービン式消火ポンプが設備してある。水源は市水道水と鑿井水の兩者を利用し兩院53ヶ所の消火栓に給水するのである。

昇降機設備　兩院廣間、中央廣間、西廣間、西南及西北各階段室には合計18臺の乘用昇降機が次の様な配置で設備されてゐる。而して各昇降機の速度は毎分250尺及125尺の二重速度である。

兩院廣間	15人乘	6臺	1階より3階
西廣間	17人乘	4臺	地階より4階
中央廣間	13人乘	2臺	地階より7階
同	13人乘	2臺	地階より4階
西南階段	13人乘	2臺	地階より屋上
西北階段	13人乘	2臺	地階より屋上

又貨物昇機は兩院1階2階各配膳室。3階喫茶室間合計6臺が設備してある。

空氣輸送管裝置　この裝置は眞空式で兩院議場内新聞記者席背後の傍聽席仕切羽目に記者5名に付1個の割合で計18個宛の發送口を設備し、輸送管に依つて1階中央受送室内の受入口に連結され、中央受送室内に更に4個の發送口を設備し、輸送管により中3階新聞記者通路兩隅の受送室にある受入口に連絡されてゐる。この裝置に關しては早くから見本品を取設け音響の研究をしたもので全く無音とするの創案を得て使用したのであ

る。この裝置だけは其の當時國產が無かつたので米國製を使用した。

眞空除塵裝置　地階機械室に兩院夫々15馬力排氣機及集塵器を設置し、排氣主管を地下天井下に配管し、各部から竪管を分岐し1階以上の各廊下階段室等要所の巾木に取付けた吸込弁に連結させたもので、吸込弁の數は兩院を通じて 173個所である。而して兩院共3 竪管2ヶ所即ち6ヶ所の 吸込弁を、同時に使用するも、差支ない機械の容量になつてゐる。

機械的設備　としては以上の外、メールシュートの裝置、給湯設備、瓦斯設備等があるが、說明する迄もないから總て省略する事とする。

電氣的の設備　議事堂の建築は19年の長期に亘る繼續事業なので、電氣工事に於ては當初の設計に於てもかなり進んだ時勢の見透しを必要とし、又相當の可撓性をも持たせて時代の進展に即する改變を隨時加へねばならなかつたので、かゝる立場から獨創的のものが多く弱電流設備に於て殊に然りとする。次にこの電氣諸設備の概要を記す事とするが、これが設計施行は囑託密田良太郎博士の計畫指導に依り川邊、田代寬兩技師が擔當し多數の技術者と共に設計に研究に非常な苦心をして實現せしめたのである。

電源　建物の性質上給電には絕對の確實性を必要とするから、主要なる電氣負荷に對する停電を防止する方法を講じ、麴町變電所より3300ボルト三相交流電氣の引込。久保町變電所より3300ボルト三相交流電氣の豫備引込。交流停電自働的に電氣負荷に接續し得る蓄電池電源等の方法を採つたのである。この蓄電池電源は配電用の諸開閉器の操作をなし、弱電設備のあるものに常時電流を供給する事をも目的とするのであるが、夫等は蓄電池の容量に比して極めて微少なものであるから、蓄電池電源は常に全充電の狀態に於て交流の停電に備へられるのである。この蓄電池の充電には 40 キロワット、130アムペアの水銀整流器を用ひてある。交流電壓は 200 ボルトで誘導電壓調整器に依つて直流側電壓 50—310 ボルトに調節する事が出來、電話用蓄電池の充電にも、兼用されるのである。

變電室　變電室は建物の地階中央にある。この室に於て行はるゝ事は、(1) 3300ボルト三相交流電氣の引込。(2) 煖房汽罐室、附屬家、庭園外燈等への高壓配電、(3) 一般電燈用變壓器に於て單相3線式 200ボルト電氣に變電及其館內各所への配電、(4) 議場電燈用變壓器に於て3相3線式 200ボルト電氣に變電及其の配電。(5) 動力用(電熱兼用)變壓器に於て3相3線式 200ボルト電氣に變電及其の配線。(6) 蓄電池電源の充電及其の放電、(7) 變電室內電燈の制御、等で從つてこの室內の主要設備は、以上に要する高壓受配電盤、低壓配電盤、變壓器又水銀整流器、充電裝置等である。而してこの室に於て使用される開閉器遮斷器類の數は、高壓側に於て19、低壓側に於て 150の多きに達し、又別に室の中央に遠方監視制御臺（ベンチボード）を置てあるが、この様な大規模のベンチボードは他に其の例を見ないのである。

配線　給電線は變電室から地階廊下の床下にあるダクトを通り、本館内12ヶ所のライザーダクトに入り、各階毎に散設した65ヶ所の分電盤に入るのである。各分電盤から平均20回路の分岐配線が各種の負荷に達してゐる。地階各所の電動機に對する給電線は別に地階天井下に電線管露出によつて配線され、各機械設備室の電磁式制御配電盤に給電されるのである。地階動力幹線を除く外の殆んど全部の配線は埋設電線管工によつてゐる。而して以上に述べた配線に要した電線管は4分3吋乃至3吋の太さのもの合計25萬尺で、電線長さは約63萬尺であるが、弱電設備の分を合せると電線管の總長は優に60萬尺を超過するのである。

電燈　電燈器具を取付けた總數は4815具で電球の總數は7939箇、點滅器 857箇、燈用挿込栓口1684である。電燈器具の型式は (1) 事務室は單一グローブ、(2)便殿、大臣室、議長室及附近の諸室、各委員室、議員控室、議員食堂、圖書閲覽室、主要な廣間等はシャンデリヤ及ブラケット、(3) 一般廊下は單一グローブ、(4) 中央廣間廻りはシーリング、(5) 階段はシーリング、プラケット等である。

特殊照明としては議場の人工天窓照明、中央廣間には人工天窓照明、人工側窓照明等で議場の分は、天井裏 418箇の電燈があつてこれを4組に分け變電室のベンチボードで操作するときは、照度を4段に調節する事が出來る様になつてゐる。この外天窓周圍に750ワットのグローブが20吊下げてある。

電熱　議事堂内の煖房は總て熱空氣及直接煖房なので、電熱としては見るべきもの無く、マントルピース内の補助煖房用ストーブ16臺、給湯用電熱湯沸器6臺が設備されてゐるのみで、この外には深夜の豫備煖房と食堂電氣焜爐用として挿込栓が取付けてある。

電動機　機械設備の運轉の爲め1乃至50馬力の電動機 120臺千馬力が主に地階と屋上家に置かれてゐる。而してこの大部分が電磁開閉器によつて制御され、地階の中央にある技術員詰所にある遠方監視制御臺で總轄されてゐるのである。又消火ポンプ用電動機50馬力2臺は本館内53箇所にある消火栓位置から制御監視されてゐるのである。

開會報知電鈴　本會議開會の時刻に之を全院内に普く知らせる爲めの電鈴で、書記官長室から遠方制御に依つて配電室にある主開閉器を操作する様になつてゐる。而して貴衆兩院何れかを區別する爲めに鐘の打數を異らしむる様にしたもので、それには周波數變換裝置が採用されてゐる。

召集電鈴　採決投票に際して議場に於ける議員の定數を缺く場合に更に出席を促す爲めの電鈴で、各議員控室に取設け議場内書記官長席から各黨派別に選擇して鳴らせる様になつてゐる。

通報裝置　議事、日程等の進行狀態を主要な室約90ヶ所に通報する爲め「質疑討論」等々12種を表した文字板を任意に選出して現示するものとした。選擇の操作はセルシン電動機を使用してその廻轉軸延長上に圓筒を設けて周圍に文字板を貼付け廻轉子の回轉角度

を任意に制御する事に依つて所要の文字板を選出し、之を窓口より現し同時に壁内の照明燈を點じて文字を明瞭に照し出すのである。

この外に議場内事務當局者の席に打合せ等の時に使用する招呼燈裝置が設けてある。又演壇並に議長の擴聲裝置もある。

豫算委員會休憩表示裝置　本會議通報裝知に準じた目的に使用するもので同様の各室に設けてあるが、この裝置では「開會中」「休憩」「散會」の3項のみの通報である。これも表示轉換の都度豫告音響が出る様になつてゐる。

招呼裝置　各委員室に委員課の職員や守衞等を呼寄せるために所要室に招呼表示燈を設け、呼出側の押釦には監視信號燈を具へ、被呼者側で應答釦を押すと表示燈と共に監視燈も消へる様になつてゐる。

委員會開會休會表示裝置　各委員室に於ての各種委員會の開會及休會中を關係事務室に表示するもので、豫算委員會のものと同様のものが使つてある。

電話設備　官廳用(私設)電話は約 300箇でこれ等相互間と院外との通話のため、自働交換機、中繼臺及局線40回線を設備した。

電氣時計設備　直流式有極連絡時計裝置で各院に親時計1箇を置き、一方より修整電流を受けて常に同期運轉をさせ必要に應じては孰れか一方の親時計にして全院の子時計を動かし得る様にしてある。子時計は殆んど埋込型又は卓上型で其の外觀は各室との調和を考慮し、ブロンズ製又は眞鍮クローム渡金等の枠緣を用ひてある。

火災報知設備　各要所に散在裝置してある報知機に依つて貴衆各院に設けたる受信機にその個所を表示すると同時にこれを警視廳消防部に自働的に中繼移信するものである。

登退廳表示設備　國務大臣其他40名の登院退出を主要な室50室に常に表示せしめて置く設備である。

所在表示設備　國務大臣等16名の院内に於ける所在を豫め定めたる50室別に、常に秘書官や内閣事務當局に知らしめて置く爲めの設備である。各室に點滅スヰツチを又表示室にはランプ表示器を設けた。表示器は縦に人名横に室名の欄を設け小型電燈で裏面から照し表示するのである。

招呼裝置　一般事務用並に警備用に使用する呼鈴裝置が必要とする個所に設けてある。

溫濕度測定　帝室用各室、議場、豫算委員室等は熱氣煖房を行つて居るので、其の室内の溫濕度を空氣調和室で測定する爲に乾濕法に則した直示型濕度計を用ひてゐる。

この外にも電氣的設備はあるが重要なるものでないから茲には說明を省略して置く。

附屬建物　本館の西側道路と敷地とには10尺餘の高差があるので、この高さの差を利用し且つ土留を兼ねてそこに奥行4間長さ99尺5寸建坪數 411坪28の附屬建物がある。又貴族院の北と衆議院の南とに各87坪餘の供待所がある。煖房汽罐室は大正6年の議院建築調査會に於て構外適當の地にこれを設くる事に定められてゐたので、西側附屬地の低地にこ

れを設け其の坪數は30坪の石炭庫を合せて 138坪である。而して地下道を以て本館と連絡せしめたのである。

陸橋と地下道 煖房設備の爲に中央部に地下道1本があるが、別に貴衆兩院の地階から各1本の陸橋を設け地下道となつて西側の附屬地に達する道路が設けてある。この陸橋と地下道は將來附屬地に建つ議院圖書館と兩院議員專用廳舍及新聞記者事務室に連絡するもので、兼て西側附屬建物への連絡ともなり將來の計畫として殘されてゐる兩院食堂の一構に接續するものである。

築庭 本館を中心として附屬家と陸橋が兩翼を張り兩足を伸した樣に配置されてゐるからは、一大官衙としての築庭が整備されねばならぬが、其の築造は第2期工事の1として將來に殘されてゐるので、西正面中央のテラス前を除ては經費の許す限りに於て形を整へるだけの築庭工事をしたのである。而して築庭の方針としては廣大な乘用車置場と通路とに特別な考慮を加へ且つ建物に調和する樹種を選み明朗な庭園とする事を期したのである。この築庭の工事には楠岡悌二技手が從事した。

門、門衞所及外構 何れも本工事として施行すべき豫算が計上されてゐないので、假設的の工事として造られたものである。從つてこの本物は將來の造營として殘されてゐるのである。

諸職の延人員 大正7年以來19ヶ年に亘る帝國議會議事堂の建築に從事した人員は頗る多數に上つてゐる。今其の工事場に於て就業した諸職の延人員を記せば、11月末迄の直營諸職工の見込數を合せて實に次の通りである。諸職の種類はまた頗る多數であるから便宜上建築、機械、電氣に關するものに三別した。

建築	直營	1.142.532人	計	2.321.857人
	請負	1.179.325人		
機械	直營	11.416人	計	100.559人
	請負	89.143人		
電氣	直營	91.148人	計	120.461人
	請負	29.313人		

總延人員2542870人となるのである。

而して請負工事の件數は非常に多數に上つてゐるが其請負者の數のみで約 350餘名になつてゐる。

工事の監督は監督課長の指揮を承け先にも述べた通り工事場に於て工區を分ちてこれに從事してゐたのであるが、本局內に於ても亦工事に關する內的事務が中々に多いので、それには監督課長の命を承け萩原久吉技師が主となつてこれに從事した。又工務課に於ける豫算積算の事務は工務課長の命を承け初め片岡眞技師が擔任してゐたが同氏退職後は下元連技師がこれを受持つてゐるが其間暫らく伊部貞吉師が受持つた時もある。

19ヶ年に亘る帝國議會議事堂の建築の經過と工事の狀況は、多少冗漫に亘るの恐れはあ

つたが以上に述べ來つたところを以て其の梗概を知る事が出來ると思ふから茲に一先づ筆を擱くが、將來の參考として竣功當時に於ける關係者中其の主要なる地位にある者を記せば、營繕管財局長官川越丈雄氏(前長官津島壽一氏)、參與貴族院書記官長長吉、衆議院書記官長田口彌一の兩氏。顧問中村達太郎、丹羽鋤彦、福原俊丸、曾禰達藏、横河民輔、伊東忠太、塚本靖、小林金平（元監督課長)、北浦重之（元兼任技師）の諸氏。

工務部長大熊喜邦、工務課長池田讓次、監督課長小島榮吉、意匠設計掛吉武東里、小林正紹、構造及强度計算掛齋藤龜之助、豫算及積算掛下元連の各技師。及電氣掛囑託密田良太郎氏。

工事場擔任中榮一徹、機械掛戸田一見、木下功一、電氣掛及川邊、田代寛の各技師。模型掛佐野昭囑託等である。而して事務系統では總務部長江口順一(前部長關原忠三)、總務課長森本靖男（前課長山田鐵之助）の諸氏等である。

以上に記すところ、明治43年の委員會以前は記錄を調査して記し、43年の委員會以向は自身關與してゐるので事實を卒直に記したのである。

議　院　建　築　雜　話

中　榮　一　徹

議事堂建築に關しては、既に營繕管財局編の「パンフレット」又は講演等によつて充分に語られて居るから、私は幸ひ工事に關係し得た、何年かの間に見聞した事柄の内、多少共興味有り相に思はれる雜話を語つて、貴重な紙面の一隅を汚させて頂く事とする。

○

抑も議事堂本建築の議は明治19年來の懸案で、大正6年機熟し、案成つて第四十帝國議會に工事費豫算が、通過する迄の三十餘年間には、屢々本建築に對する要望が起り、金子堅太郎氏等による「議院建築に關する意見書」の發表、辰野、塚本、伊東三博士による「議院建築の方法について」の決議發表等あり、政府當局にあつても、再三、議院建築に關する調査會、準備委員會の設置廢合が有り、一方、敷地の地質調査、全國に亘る木材及石材の調査等が行はれて居たのである。それが愈大正7年6月に大藏省に臨時建築局が設けられて、議事堂建築實施の第一歩を踏出し、諸種の準備工事成て大正9年より本工事に着手し、10有9ヶ年の歳月を閲して、今秋目出度く竣功を見るに到つたのである。

○

大正7年着手當時の工事費豫算は、750 萬圓、工事期間は準備工事の分も合せて、10ヶ年、繼續事業であつた。夫が、物價の騰貴、普選に伴ふ規模の擴張や政府財政の都合等で度々年限の延長、工事費の增額又は減額があつて、結局實行豫算總額約2580萬圓年限は昭和11年度まで19ヶ年繼續事業となつたのである。

之を一昨年3月に營築を完成し、昨年11月全部完成を見た、丹那隧道工事の、最初の工事費豫算 770萬圓、工期7ヶ年繼續事業が、種々の事情により、大正5年の準備工事着手からすれば19ヶ年、大正7年東西兩口より隧道掘鑿に着手してからすれば17ヶ年、工事費2600萬圓を以て完成したのと比較すると、期せずして最初の工費豫算、工期豫定と云ひ、完成の工期、工費と云ひ、全く似通て居るのを見るのであつて、一は本邦憲政の殿堂、規模施設に於て本邦隨一の建築工事、一は多量の高壓地下水、惡質斷層等の惡條件に打勝て自然を征服した本邦隨一の大難工事で、性質情況は全く異ふけれども共に大正昭和に亘ての、隔期的な二大工事に此の様な、數字的の類似を見るのは偶然とは云へ、興味あることと云へる。

（丹那隧道工事に關しての數字は、鐵道省熱海建設事務所編纂の丹那隧道工事誌によつたのであつて、該誌によると昭和9年3月を以て完成として工期16ヶ年となつて居る。）

便殿と皇族室とは、日本風の御室で造作は檜を用ひ、潤蠟色の本漆仕上扉は漆塗、高蒔繪に螺鈿を配したものであつて、漆塗の施行は乾漆彫刻等と共に東京美術學校によつて爲されたのであつた。

美術學校當局は其任の重且大なるを痛感されて、此塗裝に着手するに先立て1日、校長初め關係者一同數十名が、明治神宮に詣で、恭しく玉串を捧げて無事重任を果し得る様、祈願を込められたものであつた。

昭和劈頭の漆工藝代表作として、後世迄も輝かしい、業績を殘すであらう此便殿、皇族室の漆塗は、此心意氣此意氣込みで初められたものであつた。

○

兩院議場の造作は總て檜材、摺漆塗になつて居る、あれだけの面積に摺漆をしたことは、塗裝業者も初めてであつたらしく、私達も見本塗の際にどの程度まで漆の色が「すけ」て來るかの見極めがつけ難くて困つた。下地の色付にしても、現在の色を出すのに、之でいいのかと思ふ程濃い色付にしたが、漆をかけて見ると未だ足りなかつた。

「漆に喰はれるんだ」と職人達は云て居た。

目止めが漆の極端な吸込を避けて、或程度迄「カセイン」で固める様になつて居た爲でもあらうが、摺込で行く漆が半分も殘らないで徒らに礪礫を汚して居た様な場所も出來た。

塗裝の時季がよかつたので乾燥が良く別に室(むろ)を造る必要もなかつた。

○

昭和6年の暮に東京高等工藝學校の手で、御座所の御椅子、御卓子等が出來た。其内で御卓子の甲板だけは白漆仕上の注文になつて居た。勿論漆に「リトホン」か何かの白色顔料を入れて仕上げるより外に手はないのであるが、塗り上たものが思ふ様に白色には成らない。漆が「すけ」て來れば白色が生きて來ることは解るが扨どの程度までに上るかは解らない、しかし白漆としては他に方法も無いので其儘にして置いたのである。處が夫を最近になつて見たら、少し「クリーム」味を帶びたおつとりとした大變好い色に成つて居た。矢張り時が經たなければと思つたことである。

○

衆議院の南側で現在自働車置場に成てゐる邊りに地均前迄道路があつた。夫が附近の人家と一緒に構内へ取入れられて、所定の高さに伐取つて行くと、豫め注意して居た、瓦斯管、水道鐵管、に尋で昔の水道木管が二通り出て來た。此邊りでは現に本館の裏側でも舊道路に沿つて出て居るし、三宅坂附近でも發掘されて居るので、昔の水道管の出たことは別に珍らしい事では無いが、唯其内の一本が、東京市の水道管の眞下、4、5尺の處を全くそれと平行に走つて居るしかも昔はトンネル式にでも掘つたと見へて、市の水道管から下には伐り下げた跡が見へないのである。地均しをした所だけでは、前後どれ程の距離を兩者が平行に走て居るかは不明であつたが、兎に角市が水道布設の際に偶然に重なつたもの

か、又、何か目安でも有つて、態と重ねたものか、折が有つたら一度確めて見たいと思つて居る。

○

エチオピヤから外相達が日本視察に來た時、1日工事中の議事堂を參觀に來たことがあつた。私達は出來上つた室々を案內して步いて、此建物が總て日本國內の材料で出來て居ること、全く日本人の手で建てられて居ることを力說したのである。外相達は此說明を通譯によつて聞いて、一々頷いて居た。

そんな關係もあつて、伊エ戰爭最中にも私は特別の注意を拂て其成行に氣を付けない譯には行かなかつた。そして、ヘルイ外相の記事などが新聞に出る度に、私は衆議院の演壇に立つて黑い顏に愉快相な笑を浮べて居た、外相のあの顏を、女人夫が音頭取りながら足並揃へて蛸突きをしてゐるのを、如何にも愉快相に眺めて居た、あの顏を憶出すのであつた。

國破れた今日、更に日伊協定成つた今日、あの人達は將してどんな感慨に耽つて居る事であらうか。

○

「一位の木を伐ると血が出る」と之ふ。一階の應接室の造作材に一位の木が使はれた。岩手縣下の國有林から營林署の手で伐り出されたのであつて、樵夫達は、熊の出る茨の中を道を伐り開きつゝ、運び出したとのことであつた。目通り5尺もある立木が澤山有るが、いづれも眞は空虛で、外側5、6寸の所が精々利用出來るに過ぎ無いので、額椽、巾木等の長物、巾廣物の木取りには大變骨が折れた。それでも次々に人工乾燥を終へて現場へ搬入された材料は、夫々羽目笠木額椽等に刻まれて行つた。其工作場を見て步いて驚いたのである、水に濡れた邊りがまるで血を流した樣に眞赤なのである。私は其處に居た職人に「どうしたんだ」と聞いた。彼は「何此木から出るんですよ」と事も無げに云ふ、成程、鋸屑、鉋屑を水に浸して置くと其水が眞赤に成るのである。

「一位の木を伐ると血が出る」

請負人は岩手縣下に原木を探し出す迄信州の山の中や飛彈の山奧を、大分苦心して探したとのことであつた。

○

栃材が大分使はれて居る、三階の各委員室には羽目板に豫算委員室には造作全體に用ひられた後者の仕上げは極く薄色付のクリヤーラツカー塗である爲、栃特有の斑が綺麗に出て居る。元來栃材の斑は白太でなければ出來ないので、巾木も柱も額椽も總て白太で木取つて、人工乾燥も充分施して加工にまはしたのであつたが、出來上つてから日數が經つにつれて次第に狂ひが出て來た、人工乾燥が充分に行つて居るからこんな筈ないと思ふのだが或は捩れ或は曲り一つとして滿足で居るものが無い有樣となつてしまつた。長さ5尺位

の巾木でも上下左右に夫々5分宛も捩れが出て來て居る木が動くのである。之には皆茫然として終つた。そして早速一部をベニアに變更して貰らはなければならなかつた。

或日參觀に來た外交官達に豫算委員室で、此處の造作材は栃ですと說明した時、一人が「マロニエか」と云つた、私にはこの言葉は何んとなく情緒深いものに聽こえた。確か「パリー」の並木も「マロニエ」であつたと思ふ。しかし現實の「マロニエ」は仲々生やさしいものではなかつた。斑を見るのには白太だけで經めなければならないので伐つても伐つても所要の數量に達しない、美濃と飛彈の國境で原木を伐り出して居た人達は雪の來ない內にと可成りあせつたらしかつた。そして山に詰めて居た係の一人は遂に神經衰弱に成つて終つたと聞いて居る。

○

全體に亘て37種類の大理石と、24種類の木材とが種々に使用されて居る。中には此處に使ふだけがやつと經まつたに過ぎ無い樣なものもあつたが、多くは其後益々良いものが多量に出る樣になつて、各方面の建築に利用されて居る有樣である。又此建物に使用する爲に、新たに發掘されたり、新たに發見されたりした大理石もあつたが夫れ等も今日他の建物にどんどん使用されて行く所から、新材料の用途開拓には此建築は可成の役割を演じて來たのであつた。

又、ブロンズ製品、緞通絨氈等の織物類もすべて國產に俟つた爲にあれだけに經めるのに當事者の苦心は大變なものであつたであらうが、今日より見れ此建築各種の建築工藝技術の進步に對しても重要な一役を買つて居たと云つて差支へないのである。

昭和十二年に對する私の期待

葛野壯一郎

期待といふ事は兎角はづれ勝で有る。『當て事と何かは向からはづれる』と俗諺にもあるが全くその通りである。何事によらず、餘り期待などは爲ない方が、宜いのかも知らない。

然し一面から考へると、人間は個人としても亦業界に在つても、何か知ら期待無しには生きて居られないので有る。1日には1日の期待、1月には1月の期待、1年には1年の期待即ち心待と言つたような物が有つて、明日にも何か素晴らしい事が起つて來るような心持を持つて居るからこそ何うにか其日が送れるといふもので有る。期待の當る當らぬは向ふの御都合次第として、大いに努力し大いに期待す可きでは無いかと私は考へる。はづれ勝で有るから期待をかけない等といふのは、全く氣力を缺いた人間の考へる事である。今日は今日、明日は明日と萬事風待主義の生き方では、個人としても、業界に在つても、進歩發展といふ事が無くなつて了ふので有る。

さて昭和12年に對し、吾人は如何なる期待を持つて進む可きで有らふか。建築の數さへ有れば、吾々の仕事は充分有るのであるから、其れ以上は望まないといふ營業至上主義で行けば或はそれでも宜いのかも知れない。勿論吾人としても、仕事の數のより益々多からん事を希望する點に於ては決して人後に落ちないので有るが、只仕事さへ多ければ其れで宜いとは考へられないので有る。建築界の向上躍進といふ事は、單に計數の上から仕事の數の多いと言ふ點のみでは言へないと思ふ。それは商賣人の言ふことで有る。仕事の數も多いが其上に善い建築が多いのでなくてはならぬと私は信ずる。建築界の向上躍進とは、善い建築が次から次へとどしどし出來上つて行く事で有らねばならぬ。是れは誠に分り切つた事のようで有るが、此點をはつきり意識して努力して居る建築家は案外すくないかと思ふ。斯く言ふ自分の如き事務所建築家として働いて居る者にあつても、設計料に成りさへすればと言つたような、頗る淋しい考へが兎角起り勝で有る事を自白せざるを得ないので有るが、是れでは困るのである。

昭和11年を顧みても仕事は相當有つたように見受けられる。勿論一部分には閑な向も有つたらふが、大體に於て殊に一流業者の如きは、設計施工を論ぜず、皆非常な活躍を續けて居たらしく見受けられるので有る。吾邦は今や明治維新に次ぐ第二の維新期に入つて、國の内外を問はず大いに積極的躍進の實を擧げんと努力して居るので有るから、あらゆる事業の發展に伴ふ建築が寂れる筈は無い。相當な數量に於て、各方面に計畫せられ實施せ

られつゝ有る事は事實であり、此傾向は更らに昭和12年にも引續いて層一層活躍す可きで有り又左樣させねばならぬ事と信ぜられるので有る。

然し吾人技術に奉仕する者としては平靜に考へる時、仕事の數や量は多いが其れに反して善い建築の案外少ない事を痛感せざるを得ないので有る。善い建築とは何んな建築で有るかと問ふ人が有るかも知れないが、善い建築とは善い建築であると說明する以上私は言葉を知らない。兎に角建築は盛んで有るが創作的な優れた物が少ないので有る。少なくとも私は常に其感を懷いて居る。或は私の見ない建築で、もつと善い建築が澤山に出來て居るのかも知れないが、不幸にして私は其れを知らない。遺憾ながら私にはやつぱり善い建築は甚だ少ないと考へざるを得ないので有る。

全體建築に限らずあらゆる工藝技術に關するものゝ近年著しく盛んで有る事は、國運の隆盛を表象するものとして吾人の甚だ心强さを感ずるところで有るが、其一面甚だ遺憾なのは、何れの方面を觀てもあまり優れたものが無いと言ふ事を間違なく言ひ得る點で有る。繪の展覽會などを見ても、數は多いが是れといふ逸品は頗る少ない。何れもドングリの背くらべで有る。其多くは先人の踏襲か模倣か、自ら大いに新らしいとして行つて居る物が、實は少しも新らしく無いのが多いのである。獨創的な優秀さと言つた物を見出すのに甚だ苦しまざるを得ない。新らしいと言ふ事は獨創的な新鮮味を持つ事で有つて、新らしい物の模倣は決して新らしいのでは無く、寧ろ古い物の一つに數へざるを得ない。此點殊に新建築に參與する新人に大いに期待したいと思ふので有る。

善い建築が少ないといふ事はもともと注文者が悪いのであらふか、それとも又設計家が無能なのか。其何れかは知らないが兎に角左樣した遺憾の多い事は、吾等技術人にとつて最考慮す可き問題であると考へる。何でも彼でも圖面さへ調へば其れで宜いと思つて居るような注文者等に會つては、技術家の立場は悲慘なもので有る。是れではいくら善い建築を造らふと思つても出來る筈は無いので有る。又是れと反對に設計料になりさへすれば宜いと言つたような技術者に逢つては、注文者はたまつたものでは無い。是れ亦決して善い建築の生れる所以で無い事は明らかで有る。

時代の影響と言ふような點をも一應考へて見なければならぬ。現在は洋の東西を問はず、世の中が何となく騷々しく、共產か專制かと言つたような大きな思想的動搖の浪にゆられて居る時代で有るから、人間の心に本當の安定と言ふものを缺いで居るのでは有るまいか。建築も亦社會的現象の一つで有る限り、此大きな思想的動搖に影響されずには居らないで有らふ。世間が騷々しく人心が兎角落付を得ないと言ふ樣な時代は、建築の如き靜的な仕事には餘り都合の宜い時で有るとは言へない。建築は其數に於ていくらも有るかも知れないが、然し本當に善い建物といふ物は斯うした時には生れにくいので有る。過古の建築史を眺めて觀れば是れ程明らかな事實は無く、澤山の善い建築の殘された時代は、世が太平で國民の心に底力があり、平和を樂しむ心の最盛んで有つた時である。

吾邦としても元より世界の大勢の影響を全然受けぬと言ふ譯には行くまいが、特種の國體と地位は此大きな思想的動搖から吾人を安全地帶に遠ざけて、建國以來の強い傳統的精神の下に一路驀進す可く運命つけられて居る。此事實は吾人にとつて誠に幸福であり、技術家として其製作は此時代を彩り、此興國の大精神を具現するもので有り度く、又左樣有らねばならぬと思ふ。私が言ふ善い建築とは此範疇に屬する物を意味すると言つてよいので有る。世界が何とあらふが日本は日本である。吾々建築家も亦其臣民の一員として、此心掛を以て大いに驀進す可きで有ると私は信ずる。

一般に近年建築の規模が大となり贅澤となつた事は著しい事實で有る。明治時代から大正初期にかけての建物を取扱つた者からすると、其變り方の甚しいのに驚ろかされるので有る。此事實は日本の經濟的發展を表象するものとして、吾人の大いに悦ばざるを得ない點では有るが、然し規模が大となり立派となり贅澤になつただけでは、建築が善くなつたと言ふ意味にはならない。反つて貧弱な明治や大正初期時代に、意外に善い建築が出來たのではなかつたかとも思はれるので有る。當時尚ほ全然歐米模倣の域を脫し得なかつたとしても、設計の衝に當り現場に從事する者の心構へが、現在よりは遙かに眞劍で、力の入れ方が違つて居つたように私には感ぜられる。貧弱ながらも其處には技術家の生々した生命が打ち込まれて居たように思ふ。一本々々積み上げられる練瓦や石材にも、技術家の努力が積み込まれて居たと私は感ずるので有る。

建物の數が多く其規模が大となれば、自然とそれが營利化せられ機械化せられて、是れを設計し施工する上の人々の心組にも自ら違つたものが無ければならぬかも知れない。然し是れを造り上げる其根本精神に於ては、少しの變りも有つてはならぬと私は信ずる。何處までも誠實で、技術家の生命が其れに打ち込まれてこそ、眞に立派な善い建築は出來るので有る。今日の技術家にして果して斯う眞面目に考へてやつて居る人が何人有るであらふか。私は自分を初めとして、此點甚だ遺憾を感ぜざるを得ないので有る。

一般に吾々日本人は、きようで模倣上手で小手先がきく爲めに、かんじんの仕事に生命が打ち込まれないと言ふ缺點は有りはしないか。善い建築とは技術家の生命が打ち込まれた建物といふ事である。生々と呼吸をして居る家で有る。其れは決して死物では無い。是れに接し是れを利用する人をして、何物かを感得せしめる力あるもので有る。間に合せの設計や營利一遍の施工では、左樣した建築が生れる筈は決して無いので有る。吾人は深く思を此所に致さなければならぬと信ずる。

晩近吾邦の建築は構造工學方面に於て異常な發達をしたと言つてよからふ。殊に大正末期以來、進歩の著しい事は特筆に値する。此事實は歷年相次ぐ天災地變の恐る可き刺戟に因るところ大なりとは言へ、是れに對して多數此方面の學者技術家の懸命な努力の賜として吾人の大いに感謝せざるを得ない所である。然し是れとても今日凡べてを盡せりと言ふのでは無い。局部的な事柄に付いては驚く可き精密を極めて居るが綜合的の構造學と言ふ

様なものには尚ほ貧弱を免れないと、其筋の專門家も論じて居る通りで有る。構造方面の鐵やセメントの浪費は餘り彼是れ言ふ人が無いようで有るが、實は非常な額に達して居るのでは有るまいか。此方面に於ても尚ほ今後の大なる研鑽に期待す可き點が多々有ると考へる。

現狀に於て吾が邦の建築界は、向後3年や5年で衰へるものでは斷じてない。時に消長は有つても、國運の隆盛に伴つて多々益々繁忙を極む可きものと私は信ずる。此意味に於て昭和12年度も亦相當に仕事の數も多く、建築に關聯するあらゆる業者は相應に繁忙を極めるであらふ。只吾人は忙しいと言ふ事は大いに結構であり、多々益々辨ずるのは元より望む所であるが、是れに伴ひ如何にして善い建築を生む可きで有るかといふ考慮と熱意を以て進み度いと思ふ。願はくはよい建築がどしどし次々に誕生せん事を期待して止まないので有る。(了)

昭和十二年への期待

伊部貞吉

(一) 技術家の社會的大同團結を提唱す

輝しい新興日本の姿は技術界の全貌を通じて始めて認め得られるのであつて、我國現在文化の隆昌、國運の伸張に寄與した技術界の偉大なる功績は千古不滅のものがある。

殊に、現下の非常時局に際し高唱される國防充實、產業開發、國民生活の安定、貿易の伸張等の重要國策は一つとして其の實現を技術界の活潑なる活動に賴らないものはないのであつて技術家の責務も亦重且大なるものありと言はねばならない。

從つて、技術家たるものはその重責に鑑み、益々技術の研鑽、技能の練磨に力を竭し併せて人格の向上を計り、汎く社會に貢獻するの識見と抱負とを持たねばならない。

更に、技術家は自己の狹い專門的分野に蹲居する通弊を改め各種技術者が相互に理解を深め、相扶け、相率ひて大同團結を計り社會的活動に便ならしむることを必要とする。現在、技術界は各種專門の分野に於て學會、協會を有し更に之を統一綜合する機關として日本工學會か存在し學界に至大の貢獻をなして居るが、他面技術界の主張に權威と實力とを賦與すべき社會的運動を企圖し又は之を統制する强力なる機關を缺いて居ることを大に遺憾とする。尤も、此種の目的を持つて古く生れたものに日本技術協會(元工人俱樂部)並に工政會の二つがあるが、團結の範圍狹小なる爲め、現在何れも活氣ある活動をなし得ざる狀勢にあるが如く認められる。斯かる狀勢に對處する爲め、本春帝都に於ける工業大會並に農業大會の開催を機とし、技術家を横斷的に糾合する全技術家大會を開催せむとするの議が識者間に起り、各方面有力者の大々的贊同を得て實行に移らむとした模樣であつたが、偶々二、二六事件に遭ひ此の劃期的計畫は實現するに到らなかつた。然し、技術に關する各種の社會運動を計畫統一する爲め、名實共に大同團結を結成せむとする氣運は既に各方面に漲つて居るから、我々は此の好機を逸せず此の大目的に向つて邁進すべきである。

要するに、庶政一新を目的とする現下の國策は何れも綜合的技術を基調とし、技術家の獻身的努力に依つて其の具體的實行が期待されるのであるから、技術家は之を單なる政策として政治家のみの手に委すべきでなく、其の主張すべきは大に主張して技術に對する社會の理解と認識とを高め以て公正なる輿論を喚起し、國策遂行を是正すべき重大責務を有するのである。而して、技術家は此の社會上の責務を分擔する爲め社會的大同團結を結成し、之に依つて社會的運動の合理化並に統制化を計ることは當然の歸結となる。

永く社會の下積に置かれ、奴隷的に頤使された技術家は一切の泣言を止め、更始一新の

意氣を以て一致協力國家百年の大計に副ふべく社會的活動を開始すべき用意を持たなければならない。

(二) 好景氣を迎へて建築家の覺悟

建築界の動向は經濟界の景況の「バロメーター」をなすといふ。關東大震火災後急激に發展した我が建築界も、昭和2年の最好景氣時を頂點として次第に下り坂に向ひ、再度世界的經濟界の不況に伴ひ事業の沈滯不振、失業者の續出等永い間悲境に苦しむで居つたが、昨年末頃よし少しく活氣付いた徴候を生じ、本年に入つてからは好景況が一層顯著となつたことは、建築技術者の拂底、失業者の皆無となつた狀勢に徴して明かである。更に新年度に付き之を按ずるに、新聞紙の報道する所に依れば12年度の國の豫算は30億餘圓の巨大なる額に達し、その內には國防充實其他の國策に關する相當巨額の營繕費が包含される關係上各官省の建築事業も近年珍らしい活氣を呈することが今から考へられる。加之 4年後に擧行される豫定の「オリムピック」大會、萬國博覽會並に之に附隨する各種の施設は實質的には如何なる程度に斯界を景氣付けるか疑問であるが、兎に角建築界に對しても華々しい出來事である。又、民間に於ても軍需工業の勃興並に產業の伸張に隨伴する建築事業も相當長期に亘つて盛に起ることが想像される等今後の好景氣來は斯界の爲め寔に慶賀すべきであるが、同時に此の機會に於て我々建築家は單に賑やかな甘い夢のみを見ることなく大に自省自肅を必要とするのである。由來、工業技術家の中で、土木家と建築家程世間から下品に見做されて居るものはないのである。それには幾多の事由があるであらうが、第一には土木建築の請負業者は不正、不當の手段を弄して暴利を貪る不德義漢であるといふ觀念が、今尙ほ世間の人の腦裡から脫けない爲めに、延いて建築家までを一律に人格の低い者と色眼鏡を以て見る偏見が社會に多いからである。特に、最近頻發した土木建築に關する疑獄事件は建築家に對する社會の偏見を益々釀成し、社會の信用を一層失墜せしめた感がある。確かに昔時の請負業者には技術的並に道德的に良心の麻痺した惡性の者が多かつたことは事實であるが、時代の進運に伴ひ請負界も次第に廓清され惡性の業者は其の後を斷つに至つたのである。而も、世智辛い世相に際し、複雜微妙を極むる建築工事に於ては、暴利を貪る餘地が全然無い譯である。

然るに、其の業者を中心として斯界に幾多の過誤を生ずるは如何なる理由に因るか。自分は敢へて請負業者の提灯持をする譯ではないが、請負業者が其の責務の大なる割合には甚だ弱い商賣である爲めに各方面から傷め付けられ、其處に不純な事態を發生するのではないかと思ふ。故に業者も自省自肅を計ると共にもつと強くなり不當なる權勢に對抗する丈けの實力を養はなければならない。それと同時に建築家も自ら敎養を高め人格を向上して請負業者を善導し、之を擁護して業界の肅正を計り、業者に對する社會の誤れる觀察を是正するの重大責務を自覺しなければならないのである。

更に建築家が社會から低く評價される原因の一つとしては、民間建築家が仕事の獲得に

熱中するの餘り、技術者たるの權威を打ち捨て徒らに他人の技能を誹謗し、商賣人氣質から、凡ゆる術策を弄して激烈なる競爭裡に狂奔するの醜狀を社會に映ぜしめることである。斯くては、知らず々々の間に建築家が社會の信用を失ふことは勿論のこと、延いては建築技術そのものに權威なきが如く誤解されるのは當然の結果である。尙ほ、斯界の先覺者又は指導者たるべき建築家の中には、自己の主義主張に生きるの途を忘れ、賣名的に賴まれゝば如何なる仕事も引き受けるといふ風に抱負もなく、節操もなく、識者の顰蹙を買ふ者があることは、單に斯界の空氣を混濁するのみでなく、建築家全體の品性を低下視される重大原因をなすものと考へる。要するに、昭和12年以降少くとも數年間は建築界の好景氣が豫約される今日我々建築家も請負業者も各自省自肅を新にし、操守を固くして信念に生きるの途を講じ、一致協力斯界の名譽回復の爲め全幅の努力を傾注することを要望するものである。(完)

本號執筆者紹介

(五十音順)

伊部貞吉	工學博士、大藏省營繕管財局工務部技師
池田宮彦	長谷部竹腰建築事務所技師
石川純一郎	竹中工務店技師
大熊喜邦	工學博士、大藏省營繕管財局工務部長
大倉三郎	京都帝國大學營繕課長
片岡安	工學博士、本協會會長
葛野壯一郎	葛野建築事務所主
龜井幸次郎	大阪府警察部建築課、技師
新名種夫	大阪市營繕課設計係長、本協會常務
田邊平學	工學博士、東京工業大學教授
角尾篤彦	大阪三越家具部主任
中榮一徹	大藏省營繕管財局工務部技師
中村綱	都市計畫愛知地方委員會技師
內藤亮一	兵庫縣建築課技師
林豪藏	橫濱高等工業學校教授
古塚正治	古塚建築事務所主、神戶高工講師
矢田鐵藏	大林組住宅部技師

1月號

昭和十一年を顧て

林　豪藏

○

昭和11年を顧て、建築に關するトピツクスの中から 2、3 取り上げて、私の感想を記して見やう、私が學窓生活に入つてから早くも5年近くになる。學校といふ所は妙な所で、活社會からは兎角遊離し勝ちで、其れが又いい所なのかも知れないが、時に淋しくさへ思ふ事がある。ここに書くことも、視野狹く且つピンボケとなる點は御許しを願ひたい。

○

最近新議事堂が竣功して、我々建築仲間のみならず一般世人のトピツクの一つになつてゐる。寧ろ新聞雜誌の記事などによつて、一般社會の人の方が多大の感興を惹いたものの様である。蜒々長蛇の列を作りながら1時間半位も待つてゐる參觀或ひは見物の連中が毎日2萬人はあつたと言ふ。一般に豪奢といふ評判であるが、專門家の立場からすれば必ずしも然うと許りも思へぬ。その坪當り1000圓を僅かしか超過してゐないのを見ても判る。その總額2千數百萬圓といふけれども、巡洋艦一隻の値段に過ぎぬと考へれば敢て驚くに足りぬ。然し是れだけの建築すら今迄日本に無かつたことは一面情無い狀態とも言へる。古い時代はいざ知らず、日本に初めて所謂建築らしき建築が出來た譯で、余は議事堂の出來上つことそれ自身よりも、建築といふ仕事の意義を廣く世人に知らしめたといふ意味に於て祝福したいと思ふ。

然らばこの議事堂が其れ程すばらしい出來榮えかと言ふに、余は是亦未だ必ずしも然りとは思はない。少くも世界一流の名建築に伍して堂々傑出せるものとは稱し難い。傑作は作つて何時も出來るものとは限らず偶々生れ出づるものであるからだ。然し確かに力作と言ふに足り、日本文化を代表する建築と稱するに恥しくない。殊にゼセツシオン以來の建築思想的影響を——即ち舊來のルネサンスの羈絆より先づ脫せんとする意圖を、その成功不成功はとも角として——隨所に散見し得るのは、我々にとつては又別の意味で甚だ興味深いものがある。宛かも機能主義表現主義の擡頭する直前期の思想形式であつて、將來の建築史にとつても好個の標識となるであらう。

所で問題としたいのは、この建物のアクセスの事である。この建物を帝都の市街景觀に取入れるに當つての都市計畫的用意の問題である。是れが如何にも惜しいことになつてゐる。一體かかるモニユメンタルな建物には、その前面にその威容を發揮せしむべき充分なスペースと距離が必要であり、遠くその全容を望見し得べき廣場或ひは大路の類が都市計

畫的に必要である。かくて初めて建築的効果を全からしむる事が出來る。然るに現在では此の用意は甚だ不充分と謂はねばならぬ。白い高塔だけは市内各所から眺め得るが、肝心のファサードは其の門を入り敷地内に立つて初めて之を得るのである。私は甚だ不滿足に思ふ。宜しく櫻田門外より直路新議事堂に向ふアクセスを設け、櫻田門外のみならず遠く日比谷の通り、或ひは濠を距てて帝劇邊りなどからも望み見得らるる様にすべし。現在參謀本部のみが正面に聳立し、折角の議事堂が奥に引込んで隱れて見えぬのは、時節柄如何の感を催さしむる。素より私はアンチミリタリストでも何でもないが。

○

オリムピツクの日本へ來ると決つた事も、各方面に少からざる刺戟と興奮とを與へた様子だ。競技場及大會の形式などの研究と並んで、當然押し寄せるであらう所の數萬の外國客を如何に收容するかの問題があり、更に日本の光輝ある文化を如何にして世界に紹介すべきが、如何にせば日本をよい國に見せる事が出來様かの問題があり、それに附隨して、女學生のサイン問題があり、銀座街頭の電柱を徹去せよとの意見があり、廣告に課稅すべしとの說があり、更に進んでは西洋人は澤山肉や卵を食ふから今から用意しないと品不足に陷る、須らく養鷄を盛んにすべし、とか何んとか中々賑かな事である。

今度のオリムピツク招致については、純粹なスポーツ愛好精神といふよりも、オリムピツクによつて一と儲け仕様といつた氣分の方が各方面に強く流れて居るかに見えるの少々苦々しく思ふ。一體觀光局邊りの外客誘致態度といふものは、譬へ 100萬圓の投資で1000萬圓の收益がありとするも、何處となく如何にもサモシイ客引根性が見え透いてる様で、内心不愉快に感ずるのは私一人のみの僻見であらうか知ら。日本は1週間で見られますと言ふ様なパンフレツトで宣傳に努める前に、日本にはもつと内容を充實せしむべき幾多の事柄があり、又外國に日本を知らしむる意味からならば、他にもつと適切な方法がいくらもあり、ゲイシヤ、キモノ等の話は先づそのガイドブツクより抹殺すべきである。

○

是に關聯して面白かつたのは、明年第5回巴里博覽會に出品すべき日本館建築の様式を如何に定むべきかに就て俄然捲き起つた建築様式上の論爭である。要は當局側の要望するフヂヤマ・ゲイシヤイズムに對し、實際設計を委囑された若い建築家達——今時の若い建築家仲間にかういふ事を依頼し且つ期待する認識不足振りもさることヂら——の主張、眞の日本的なるものはかかる外形的なものではなくて、もつと内在的であり、さうした過古の日本に固執する要はなしと言ふ、尤もな主張との間の喰違ひである。是れに今日の機能主義には思想がないとか、想像性がないとか言ふ論が加はり、是れが新聞に載り雜誌に表はれ、私の様な建築に關心を有する者にとつては面白い意見が鬪はされた。然し一般大衆にはチンプンカンであつたらしく、興味を惹く迄には至らなかつた様子だ。建築家自身の間でも、かかる一見判り切つた様に見える事柄も、さて實際問題にぶつかつて色々議論し

合つて見ると、自己の理論と感情、及び實際に之を表現する技術との間に、幾多の内省し清算すべきものを持つた様子であり、結果に於て無駄ではなかつた様だ。

結局坂倉準三君が日本館を引受けてやる事になつたが、此の人は建築科出身ならざる建築家で、コルビジエーの弟子だと言ふから、この結末は一段と面白いものになつた。聞く所に據れば「尖鋭なる機械文明を持ちながら、卓越せる精神文化を併有せる日本」を尊敬する佛蘭西人は、博覽會場中でも非常に目立つ絶好の位置を日本館の爲めに用意してゐるとの事である。

○

さるにても世は非常時とは言ひ乍ら、かくの如く建築に關して自由に論議の出來る世の中をこそ、有り難いと思はないと罰があたる。哀れなるはナチスドイツの現狀である。新聞によれば「ドイツでは藝術の鑑賞は許すも、その自由及匿名批評は絶對にまかりならぬ。ただナチス的思想と心情を有する特定の人士であつて宣傳省の特別許可をうけた官許批評者のみに批評の自由が與へらるる」と言ふのだ。嘗つてはその潑剌たる清新さと汪溢せる活氣とを以つて全世界をインスパイヤした其の新興建築も、今やゲツベルスの鼻息を窺つて萎微退嬰の一途を辿ることとなつた。近着の獨逸雜誌が極度に詰らなくなり、嘗つては余等の學生時代、心血を躍らしめた例へばヴアスムートの如き雜誌も、平々凡々花も實もなき迄凋落したのも故ある哉。一國の文化は權力統制によつて一時的强力にはなるが、進歩はその瞬間にとまる。藝術はその最も鋭敏なバロメーターである。

古來國家興隆して其の文化の大をなせる者を見るに、滔々たる外國文化を取入れ、之を醞釀育成して初めて、馥郁として芳香を放つに至る。ローマ然り、唐然り、然して今日の時代も正に是に當ると思ふ。之叢爾たる人間の狹い見解から、强いてその進路を局限せんとするは、正に自ら縛るものであり、既にその進運停滯の兆ありと謂はねばならぬ。大國民たるもの宜しく奔放不羈、清濁併せ呑んで然かも我を失はざるの大度量を養ふべし。兎に角、藝術統制、就中建築統制は我々としては眞平だ。

○

最後に防空建築、防火建築促進運動に就いて一言する。慧眼なる建築協會が、いち早くその必要に着目して、その實現に邁進せらるる意氣と熱とには、萬腔の敬意を表する。今日の錯雜せる世界情勢、殊には一觸即發とも謂ふべき現下の狀況に於て、不燃燒都市の完成は1日も忽せにすべからざる國家の急務である。にも拘らず、世人平然として默過して居る所以のものは、其れで安心して居る譯に非ず、知らないのである。知らざるに非ず悟らないのである。或ひは悟つても諦めて居るのであらう。

毎年各地に於て防空演習が行はれる。各都市それぞれ多額の費用を費し、青年團の活躍、防護團の演習、實に勇ましく目覺ましきものがある。時に感激の涙さへ催す様な場面がある。然し大局に立つて平靜に是を觀察する時は、是等素より効果無しとは言はぬが、

畢竟兒戯に類するのみ、少くも本を捨てて末に趨れるものである。スペイン内亂の首都爭奪戰は、餘り永引いて見物人が退屈する位なものだが、その一面耐火的都市の威力を想ひ見るべきである。

明年度の豫算30億を超え、内軍事費は約14億と稱せられてゐる。邊境多端の折柄その膨大なるは大いに理由ありとして、都市防空化に關する費目の一つもあるを聞かぬ。當に大不思議と謂ふべし。今我に假すに1億圓を以てせよ。すなはち戸數にして約3萬、人口にして約 12、3 萬の者を收容し得べき、耐火耐震にして防空的なる建物を新築することが出來る。是を3階奥行4間のアパートの如きものと假定すれば、その間口合計は約20里に達するであらう。更に此の資金を適當に運轉活用するものとすれば、大阪市の防火地區の完成など瞬く間であり、六大都市の防空市街實現も實に易々たる業となる。是れ筆より机上の論ではあるが、出來ない相談ではない。

東京横濱には、震災建築復興助成金と言ふ結構なものがある。燒失區域内の防火地區に耐震耐火の建物を建てんとするものは坪當り約50圓迄の助成金を國庫から補助する仕組である。所が、東京での事は知らぬが横濱では、年々仕拂はれる助成金額の年平均は、僅か數萬圓に過ぎぬ。是は一面横濱市が震災の傷手を非道く受けて、その復興の遲々たることを示すと共に、政府は實に申譯的な助成金を以つて事足れりとし、都市の防空化乃至防火地區達成に就て、積極的熱意の不足せることを語つてゐる。

宜しく聲を大にして叫ぶべし。事聊か我田引建の嫌ひが無きにしも非ずであるが、事國家の安危に關することであるから、少しも恥づるには及ばない。堂々天下に訴へて實現を期すべきである。

回顧——希望——偶感

——新日本的創造に就て——

大倉三郎

京都帝大東部構内の西隣に道路を距てゝ最近その明貌を現はした二つの建物がある。日獨文化研究所と日佛學館とである。何れも日獨又は日佛兩國間の文化交換發展に資せんとする國際的事業をその背景とするこの二つの建物、いつも通行の途上親しく仰ぐこの二つの建物を、手近の一例として擧げることのお許しを得て、いさゝか最近の偶感を記してみやうと思ふ。

この二つの建物は本誌にかつて紹介された如く、建物としては小品であるが、何れも有名建築家の手になる京都では異色ある立派な建築である。日獨の方は水平に長い2階建、緩勾配の屋根と印象的なその大棟とその棟飾の形、深い軒の出と淡灰色の單純な面をもつ外壁など、その形といひ色といひ莊重の中に根強い理智のきらめきを感ずるところは、全く北歐風の印象であると思はれる。之に反して日佛の方は3階建の陸屋根、外壁は勿論、隅から隅まで眼覺める様な純白色の仕上で、外部に小圓形の柱型と各窓の左右に上下の纖細な條を入れた視るからに、輕快で暖たかそうな透明調、細部の輕妙な取扱ひ、しかも2階の蛇腹の上に花壇を設けて時に白色の中から可憐な紅點々が見える様は、思ひ切つて日獨とは相反した南歐風のフランス式を少くとも觀念の上で彷彿とさせるのである。更にその圍障に於ても一方は唯低い一直線のマッシブな粗面練瓦積に暗色の一枚板扉であるに對して、一方は白色の柱型、赤瓦の柱頭、効果ある綠の鐵格子など、全く二つの建物の特色を更に強調して感ぜられるのである。

この二つの建物が高いコンクリートの塀と小路を以て、之れは宛も獨佛國境を示す如く一線を劃して隣り合つて建つてゐる姿は、まるでドイツとフランスの文化的特性を並べた如く、全く興味ある對照を感ぜずして眺められないのである。

兩者共我國の有數の建築家にして日頃敬慕する兩氏の作になるもので、こゝに徒らなる臆測を逞ふすることは許されないが、かゝる國際的關係を有する建物はその性質上、依賴者の中の外國人側の注文や希望がある程度に於て、意識的にか又は無意識的にか現はされてゐることは想像できるのではなからうかと思ふ。聞くところによれば日獨の方は幾分日本式を加味せよといふ希望があつたそうであるし、日佛の方は特にフランス式を強調した色々の具體的注文があつたとの事であるが、とにかく依賴者と設計者と一致融合してかくまで輕りと特色ある建築が吉田の一角に兩國文化の精華を發揮して、行人に無言の言葉を

投げかけてゐることは、大なる喜びであり、啓發されるところ又多いのである。しかし特に自分の興味深く感ずる點は、何れも日本建築家の設計になるこの二つの建築が、心持ちの上でドイツ及フランス兩國の民族的特性乃至雰圍氣を遺憾なく具備され、發揮してゐることである。

この場合これは設計者の個人的好みであるとか、傾向であるとかではないと思ふ。全く設計者のその勞作過程の中に、無意識的に取入れられた兩國の個有文化の特性が、自然に發散されたのであると思ふ。兩國個有の國民性が設計者の建築内容に對する忠實なる考察と、鋭敏なる感受性によつて極めて自然に發露されたものであると思ふのである。

外國人の眼から見ればそんな感じは起らず、むしろ日本的だど云ふかもわからないし、又個々に離れて見れば左程でもないかも知らぬが、尠くとも相隣つてゐて對比出來る位置に於て見れば、まことに兩國個有の特性が著しく觀取されると思ふのである。

ドイツとフランスの民族的特性の差違は、獨り建築に限らず、美術工藝等にも、各時代各種類の文物を通じて見出されるところであるが、今こゝではそれに觸れる要はない。唯明かな民族的文化の特性が發露されてゐるといふことは吾々の學ぶべき點が多いと思ふのである。

☆　　☆

今年來朝した某國使節の洩らしたといふ感想談なるものがある。日本は不思議な國だ、軍艦であるとか、重工業であるとか、現代最新の科學の應用が先進國同様又はそれ以上に發達進歩して眼覺ましく活躍してゐる一方、凡そこれとは緣遠い存在であるところの個有のゲイシャガールとか、歌舞伎とか、歌俳諧などが、單に存在するばかりでなく、同様に盛んに行はれてゐることは、他では考へられない不思議であると言ふ。

こうゆふ見方からすれば成程日本位各種類の異つた文物を、而も極端に相反したものを同時にもつてゐるところは少ないかもしれない。

古來日本は幾多の文物を外國から輸入した。各時代に亘つて大陸から夫々の文化を輸入して、しかもそれを完全に攝取し、消化して個有の文化を豐富にし培養してゐる。この點に於て日本人は特殊の能力をもつてゐるとさへ言はれてゐる。而も繼承された個有の文化は失ふことなく完全に保有し乍ら、同時に多くの異色あるものを攝取して自家藥籠中のものとしてゐる。

宗教がさうであつた、佛教が輸入されて盛んに興隆しても、個有の神道は完全に存在してゐた。神佛の係爭が度々起つてゐるのも、それは宗教自體の對立の爭ひではなくして、むしろ政治上の勢力爭ひが單に宗教を道具として使つたものに過ぎなかつたのである。神佛混淆の一時期があるが、それは日本では單なる變態的の現れとしか考へられないもので、直ちに元の兩立に還つてゐる。

文學がさうであつた。漢字が盛んに一世を風靡する時代に日本文字は依然として個有の

發展を續けて來たのである。美術工藝に於ても同樣に多元性が認められる。

有名なタウト氏の言葉の中にも、日本の建築の多元性に就て、專制者藝術としての日光廟と貴族自由主義としての桂離宮を擧げてゐる。古來日本個有の神明造の伊勢神宮と、佛教寺院や書院造りなどが、同時に又自由思想の現れとしての茶室建築などゝ共に、同じ時代にしかも同じ權勢者を背景として存在してゐることは、日本人の多元性を示すものとしか考へられないと思ふのである。

しかしそれが現代程複雜な多樣性をもつてゐることは、古來歷史上更になかつたところであらう。音樂にしても、演劇にしても、古來の能狂言や、歌舞伎、世話狂言から、新劇やオペラ、レビューに至るまで、あらゆる凡そ種類の相反したものを同時にもつてゐる。文學にしても、スポーツにしても、美術にしても、さうである。工藝の分野に於ても、日本個有の持味を盛つたものが、新しく輸入された外國の味をもつたものと何等の隔てもなく、並び賞用されてゐる。新しい用途に應じた新しい工藝品に個有の持味を盛つてゐるかと思ふと、之とは反對に輸入の味を古來の要具に應用してゐる。此等が又ある程度にだんだん不自然さから抜け切つて、消化されて、新しい一つの雰圍氣を醸されつゝあるところに妙味がある。しかし此等の個有のものと、新しい輸入品とが、ある別々の人々に片寄つて利用されてゐるのではなくて、同一の人々が同時に多樣に持つてゐるのである。

この現象は日本人の多元性の故であつて、少くとも現代日本の文化の特徵であると片付けてしまへばそれまでゝある。しかし之が常態であるかどうかと考へるところに理想も起り、發展性が賦與される。古來日本はいつもこの經驗を嘗めてきたのではなからうか。

☆　　☆

今日は統制流行時代である。尤も所謂統制とは政治的のある一定の目的に向つてのそれであつて、物それ自體の本質によつてなされる統制とは異なるであらう。經濟の統制とは政治的見地からの統制であつて、經濟の原則に從つてする理ではない。都市計畫に於て建築物の高さや規模が一定の制約をうけるのも、それは建築の意匠上の原理によるのではなくして、都市行政上の立場から建築物を統制することである。

統制はそれ故に物の自然性、自由性を否定し制限する。

文化の形態も亦統制をうけるであらう。現に個有文化の保存といふ點に於て、强力な統制主義が行はれつゝある。之に反對することはない。建築、風物等に關しても日本個有のものを繼承し、保存して後代に殘すことは必要缺くべからざることである。之は古來個有の美を今日の多元複雜性から救ひ、あくまで一元的統制の下に保存せんとする國家的事業である。

しかし之は骨董的取扱ひとして初めて可能性を有するのであつて、今日の活動的社會の發展性を有するものに、その方向を規定するものではないのである。繼承せられた個有の美に吾々は尊敬と思慕の熱情を捧げても、それは結局骨董の美であつて今日吾々の生活の

要具ではないのである。むしろ今日の活動的社會にさらされた吾々の眼からは、その美を感ずることさへある程度に於て努力と躊躇が要る。龍安寺の庭の美は外國人には解らないといふ、しかし今日の日本人はその點に於ては既に、同じ様に外國人に過ぎないのではなからうか。それは公園や運動場と違つて、吾々の生活の要具でもなければ、凡そ今日の大衆生活とはかけ離れたものであるからである。古典日本の表面的な人爲的統制では新しい日本的創造は困難であらう。

今日の文化の複雑多元性を吾々は悲觀しない、むしろ樂觀してよいと思ふ。新日本的創造はその雜多の中にこそ芽生へつゝあるのではなからうか。歷史上に於て日本は幾多の文物を外國から輸入して、そして日本的なものを發展し保存してきた。文化は交流し、交換することによつて、初めて獨自のものを益々發展せしめる。そして個有のものを生かすこゝとは、それは骨董的個有美に執着することではなくして、あらゆる凡そ相反した文化を攝受して、發展性あるものを生かし進めることである。

日本的なるものゝ進展保存は、即ち外國的なるものゝ自由攝取にその原動があり、純日本的特性なるものゝ發展性があるのではなからうか。古來繼承の個有日本的なるものゝ盲目的排他的尊重は、結局純日本的なるものゝ沈滯、死滅を來すに等しいものでなからうか。

ドイツもフランスもかつてそうであつた如く、そこに新日本文化の純粹なる統制が自然的に結成せられねばならないのである。終り

防　空　建　築

——昭和12年の問題として——

田　邊　平　學

非常時の波に乘つて、『防空建築』と云ふ言葉が、次第に人々の口に上る様になつて來た。

然らば防空建築とは果して如何なるものか？　海外に於ける防空建築研究の情勢は如何？　我々の認識乃至努力に不足はないか？　昭和12年に於ける重要なる問題として、自分はこれ等の點に就て少しく述べて見度いと思ふ。

1. 防空建築の目的

防空建築とは一體どんなものか？　どんな大きな爆彈が命中しても大丈夫な様に、途方もなく厚いコンクリートで家を造つてその中に住むことか？　それとも地下に穴藏を掘つて逃げ込むことでも教へるものか？　否、防空建築は決してそんなものではない。定義的に云へば、國民防空に屬する事項中、特に建築又は土木的立場から、工學的に處理し得る事柄を總括したものが即ち防空建築である。その直接の目的は、云ふ迄もなく空襲時に於ける敵の投下爆彈に對して、建築物自身の蒙るべき損害を可及的小ならしめんとすることに在るが、その要求する所は、例へば空襲時に危險なる高層建築の制限であり、爆彈の威力を增大する虞ある中庭の類の禁止であり、防空室（避難所）としての地下室の整備であり、僞裝・遮蔽の攻究であり、都市の綠化であり、更に進んでは耐震・耐火建築の奬勵指導であるのである。

今一例として、高層建築の場合を論じて見やう。高層建築は空襲時に當り唯1發の命中彈によつて、多大の損害を蒙る虞あるのみならず、上層が破壞された場合には、落下し來る破片によつて最下層までも破壞される危險が多く、又居住者の多數なる點から見ても、地下に防空室を設けることが困難であつて、防空的には特に不利なるものと目されてゐるが、この點は平時に於て衞生上の見地又は火災等を考慮した保安上の見地から、高層建築が望ましからぬものとされてゐるのと完全に一致してゐる。

又都市計畫上の問題に例をとれば・政治・軍事・交通・通信等の中樞となるべき官公衙其他の重要建築物を始め、大工場や一般市民の住居を集團的に配置することは、空襲時に於ける危險率を高める所以として、防空上最も避くべきものとされてゐるが、ドイツのSiedlung を始めとして最近各國の大都市に見る多數市民の郊外移住の顯著なる傾向は、偶

然にも其の結果に於て、防空建築が要求する都市分散の條件を滿足せんとしつゝあるものである。

これを要するに、防空建築なるものは突飛な建物や無理な構造を要求する様なものでは決してない。寧ろ理想的都市の實現に向つて拍車をかける性質をさへ持つものである。從つて防空建築に關する施設は、幸にして戰爭の勃發を見なかつた場合にも、決して徒勞に終ることなく、平時の施設としても充分に意義あり、價値あるものであることを充分に心得て置かねばならぬ。

2. 海 外 の 情 勢

現在防空に關する研究の最も進歩せる國はドイツであるとされるが、防空建築に關する研究も亦ドイツに於て最も目醒しい進歩を遂げつゝある。

先づこれを文獻の方面から見るに、1934年に夙くも防空建築を標題とした最初の單行本として Hans Schoszberger 氏の "Bautechnischer Luftschutz" が公刊されてゐる。本書はドイツ人一流の學的良心を以て防空建築に關する諸外國の文獻を極めてよく蒐集し、これに批判を加へると共に、多數の資料を整理分類して、防空建築なるものに一つの學的體系を與へ、更に進んで今後の研究問題が那邊に在るかを指摘したもので、防空建築に關心を有するものゝ必讀すべき良書である。同じく1934年刊行の Dr. Ing. Knipfer 及び Erich Hampe 兩氏著 "Der zivile Luftschutz" 中にも防空建築に關する專門家の數々の貴重なる意見が載せられてゐる。未だ防空建築專門の雜誌は發行さるゝに至つてゐないが、民間防空に關する研究の發表機關として最も權威ありとされる。"Gasschutz und Luftschutz"、『ドイツ防空協會』の機關雜誌 "Die Sirene" 等々の中にも建築關係の重要記事が殆ど每號の様に見出されてゐる。

防空建築の問題に最初に着眼した人の1人はドイツの Jobst Siedler 教授であつて、夙に1928年に本問題に關する意見を發表してゐる。諸外國の雜誌に防空建築に關する各種の問題が見え始めたのも凡そ此の頃からである。更にドイツ Dresden の工業大學に於ては1933年以來 Högg 教授が中心となつて『防空學講座』を開設し、非公開ではあるが、防空建築の問題が相當徹底的に講義されてゐると傳へられる。

最近に於けるドイツ政情の變化は防空機關の整備充實を一層の急務たらしめたが、防空建築の研究もこの氣運に乘じて愈々隆盛を加へ、同國に於ては既に1933年以來、前記『防空協會』を筆頭として、工業協會、コンクリート協會、鐵鋼協會等の有力なる諸團體が、何れも本問題を取上げて、着々として研究を進めつゝある狀態に在る。

ドイツ以外の諸國に於ても、公表こそされてゐないが、防空建築の問題は何れも眞劍に研究せられてゐる模様であつて、新聞雜誌等に現れる斷片的な記事から窺つても、建築家が率先して既に相當廣範圍なる研究を完成し、若くは現に遂行しつゝある事實に就ては最

早疑ふべき餘地もない。

これ等の研究結果や、世界大戰當時の經驗を基礎として、或は『防空法』の形式に於て、又は官廳其他の諸團體に於ける『服務規定』乃至『訓令』として公表された防空關係の文書も頗る多いが、これ等の中にも防空建築に關する事項を取扱つた貴重な文獻が少なからず見出されてゐる。

3. 我 國 の 現 狀

飜つて我國の狀態を見るに、防空の問題が一般に宣傳さるゝに至つたのは極めて最近の事で、正直な所、滿洲事變突發の昭和6（1931）年以來と見るべきであらう。特に建築家がこの問題に對して重大關心を持つに至つたのは、翌昭和7年の上海事變以來で、上海市內建築物の投下爆彈による被害狀況が各方面から報告された事が、その直接の導火線であつた樣に考へられる。

其後昭和8年8月に實施された關東防空演習、翌昭和9年7月の近畿防空演習等が一般市民の防空知識向上に効果あつたと共に、特に我々建築家に對しては、都市武裝の重要性を認識せしめ、防空建築研究の必要を痛感せしむる上に與つて力あつた事も亦否み得ない所であらう。事實に於て「建築と社會」、「建築雜誌」、「土木學會誌」等の有力雜誌に、斷片的ではあるが、防空建築關係の記事が見え始めたのは、この頃から以後の事に屬する。

民間に於ける防空建築研究の具體的なる現れとしては、建築學會に於ては昭和7年に設置せられたる『時局に關する委員會』が主として此の方面の問題を取扱ひ、日本建築協會に於ては特に昭和9年の近畿防空演習以來設置せられたる『都市武裝委員會』がこの問題に對して熱心に研究を進めつゝあることは讀者の熟く知られる通りである。東京工業大學建築學教室に於ても昭和8年以來原田積善會の援助を得て『防空建築研究室』なるものを設け警視廳建築課の同志と密接なる連絡をとつて、微力ではあるが、本問題の研究に一臂の力を假しつゝある。

今期の議會には『防空法案』が上程されると聞いてゐるから、我國に於ても防空法が實施される日が近いことゝ豫想されるが、內務省方面でも都市防空計畫と併行して、都市建築物の防空對策が鋭意攻究されてゐると傳へられる。聽ては現在の市街地建築物法中に示されてゐる建築構造設備よりも一層嚴格で、且つ多分に軍事的色彩を取入れた防空建築規定が制定實施されるものと豫期してをつてよいであらう。

防空建築に關する研究、特にその行政的方面に就ては、上記の如く我國に於ても官民各方面から眞劍に進められつゝあつて、洵に慶賀に堪へぬ次第である。然るに問題解決の基本となるべき肝腎の工學的研究の方面は如何であらうか？　例へば重量100kgの爆彈が我々の都市に投下されたと假定する場合に、現在の鐵筋コンクリート建築は果してどの程度まで徹徹され又爆破されるか？　又假りに多數の輕燒夷彈が上空から散布されたと假定す

る時、我々の木造家屋はその屋根を如何に侵徹され、内部を如何に燒かれるか？　而してこれに處すべき對策は如何？　これ我々の最も知らんと欲する所であるが、今日この種の問題に對して正確なる解答を與へて呉れるものは甚だ尠い。

防空建築に關するこの種の問題の研究並に解決は、民間防空の見地より當然建築家の擔當すべき領域に屬する。若し建築家のみによつて解決することが困難な場合には、軍部の協力援助を得なければならぬが、常に建築家が主體となつて事に當るだけの覺悟と實行力とが必要であると信ずる。

我々は建築物に對する災害としての地震、颱風乃至火災等に對しては、即に多くのものを體驗し、これ等の災害に對しては闘ひ克つに足る充分なる對策を確立するに至つてゐる。空襲による投下爆彈は建築物の災害としては、我々には全然未經驗なる新手の敵である。然し投下爆彈に對して、耐彈的に建築物を構築することは、たとへ容易でないにしても、決して不可能ではない。この點は諸外國の文獻が筆を揃へて確言する所であり、諸外國の研究も亦この信念の下に進められつゝあるものと考へられるが、我々も亦防空建築特に耐彈建築の可能性を確信するものである。

防空建築なるものを、單に非常時の波に乘つて生れた一時的の流行物であるかの如くに考くてゐる人がありはすまいか。少くとも何か無理な注文を並べ立てた架空的な事柄で、到底手の出しやうも無いものであるかの如くに考へてゐる人達が、建築家の中にも相當多いのではあるまいかと案ぜられる。

防空建築なるものゝ眞の意義乃至目的は那邊にあるか？　諸外國に於ては既にこの問題が如何に眞劍に、且つ徹底的に研究せられつゝあるか？　不充分乍らもその一端はこの小文によつて理解して頂けたことゝ思ふ。

特に火災に對して危險なる木造都市を擁する我國は、防空的に見て、他の何れの諸國にも見られぬ一大弱點を有してゐる。防空建築は我國にとつて正に緊急解決を要すべき國家重要の研究題目である。希くば建築家諸士が本問題に對して一層認識を高められんことを！　而して今後の本問題の研究に向つて大いに努力邁進せられんことを切望して止まぬ。筆者も及ばず乍ら驥尾に附して駑馬に鞭つ覺悟でゐる。敢て昭和12年の問題として、年頭に本題目を掲げた所以である。

都市計劃に並考して都市防空要塞化を提唱す

古塚正治

戰爭は回避せらる可きでは無いらしい。それは只だ時の問題だと云ふ見方が一般の如うである。勿論物の見方はこれを二樣にも三樣にも考へれば考られるのであるから一概には然う判斷は下せない。私の見方は日本帝國に限つて必しも戰爭を捲き起さないで濟むのではないかと云ふ考へを持つてゐる。且つて大正13年頃に私は或る席上で戰爭回避論をとなへたことがある。夫れは日本の軍備完成によつてのみ平和が維持出來ると斷定したのであつたが其の持論は今も確固として變りはない。

國と國との戰爭は其の相對國の力の平衡狀態に於てのみ保持せられるものの如うである若しも一國が他國より一日でも早く、また一つでもより多く軍備の充實化が完成すれば力の平衡狀態は破れて驕て戰爭に導かれる可能性があるものと信じてゐる。それは宛も地震の原因と其の發動とに酷似してゐると考へて誤りないのではないだろう？。要するに近き將來に戰爭の起否如何の問題は所詮其の國家の軍備充實と其の完成以外に方策が無いだろうと云ふのが私の考へ方である。

また且つて私の滯歐當時華噸會議で日米開戰論の喧しかつたとき、果して日米戰爭起るや否やの質問をうけたとき、私は言下に絕對に起らないと主張したものである。當時私の主論は日米開戰すれば日本は尠くとも戰費六百億を要し、米國は其の三倍と見て一千八百億の戰費支出を覺悟しなければならないだろう。私の主論は只だ此の一つの事實に於てさへ兩國は絕對に開戰に導かれるものでないと主張したものである。寧しろ開戰したと云ふ氣持で全國民が奮起一番戰費の金利年６分と見て年額36億宛の支出に甘じて軍備の充實が、所謂孫氏の兵法にある戰はずして勝つの由緣だと主張したものである。當時の歐米各國の國費負擔力に比べて日本には未だ、餘裕がなければならない筈だと素人の私にも信じ切つて居たのである。國防の完成は軍部のみに待つ可きではない。國民一致協力進んで研究し、協力して１日も早く完成す可き義務がある。私の都市要塞論提唱も古い議論ではあるが、此の建前から生れ出てゐる譯である。

本論は元來防空大阪論として立案したものであるが、廣くこれを見れば都市の防空完成の一案であり、換言すれば都市防空要塞施設の急務にして重要なる由緣を述べんとする一案である譯で其の可否の如何、詳細の論は別として提案に就き說明して見ようと思ふ。

現在我が國に於て行はれつつある防空演習は、主として都市住民の空襲に對する心懸け



と動作の演習であつて、日本の最も不得意とする方面、即ち消極的な防護の練習であるから餘程うまい統制と訓練とがなければならないことは今更ら言を要しない。けれ共私かに考へてみるに果して實戰下に於て能く演習丈けの効果が齎らされるか何う？。實際比較的科學方面に無知識な國民の多い日本の都市に於て、敵機襲來に遭つて果してマドリードの市民のとつたノンキな氣分になり得るや否や、コヽにも果して日本魂を發揮して何れ丈けの効果が修められ得ると云ふのだろう？。冷靜に吟味して見るとき私には夫れは何う考へても第三段の構への如うに想はれてならない。日本人には日本人らしい魂……敵と刀を交へて一人たりとも生き殘らん限り敵に對抗して行こう……悠う云つた構へがピッタリと合致するのではないだろう？。

上空への對抗……地上では如何とも出來ない相談である。だから防空演習のとき取る市民の訓練は第三段の構へとしか考へられない。夫れでは三段構へに就く以前により適切な第一段なり第二段の構へとは如何？。これが私の提唱せんとする都市防空要塞化論を高唱する由緣に他ならぬ。

飛行機に對しては飛行機を以て當ると云つた積極的防空施設を第一段の構へとするならば、高射砲や照空燈を以て敵機に對抗し射撃し、墜落せしめて一歩も都市に迷ひ込ませない手段と施設とを以て第二段の構へと考へて見たい。斯くし尙ほ萬一の場合の構へが第三段の構へである可きだと信じてゐる。私見の範圍に於て第一段の構へなり第三段の構へは軍の指導に俟つて着々準備が完成せられつつあるものの如うに考へられるが、果して私の

言ふところの第二段の構へと云ふ問題に就いては何の程度に迄で進められてゐるのだろう？。ここにも私の提唱せんとする理由があるのである。

兎にも角にも敵機の空襲が都市の上空に達したとしたら、そして假りに其時これを射落すことが出來たとしても、其の被害は極めて大なるものであることに想到しなければならない。其の積んでゐる爆彈なりガソリンの爆發は上空に於てのみ爆發するものでないだろう。或は返つて地上に落下と同時に其の多くは爆發するのではないだろう？。若しも此の想定に誤りないとしたら、其の被害や想像以上の大なる慘禍を齎らすものだと考へるのが常識では無だろう？。要は敵機をして一歩たりとも都市の上空に飛來せしめない丈けの完全なる防備の急設に俟たなければならない結論に達する。それ以外に都市は飛行機に對して安堵たり得ないと云ふ譯である。私の提唱する都市防空要塞化は要するところ敵機をして都市上空に達せしめない施設の常備完成を急がうと云ふ提案である。

假りに例を大阪市にとつて私案による要塞化論を試みるならば、圖上假りに道頓堀川御堂線の交點のあたりを中心と定めて半徑5キロの圓を畫き、次第に同半徑の圓を外方へ畫き出す、そして其各交點の位置を以て高射砲座の位置に當てて見ようと云ふのである。

圖中黑點の位置は即ち右各圓周の交點であり私の假想する高射砲座の位置を示したものである。茲に圓半徑を5キロとしたのは高射砲の射程有効距離を假りに2萬米と考へての場合であつて實際は素人の私には了らない問題である。要は射程の四分の一を半徑とする圓周と定めて見た迄でである。

斯様に陣地構築を平素しておくと云ふ便益は宛も要塞砲が海上軍艦に對して驚く可き正確なる命中率を持つと云ふことと同様に、各陣地間の連絡動作、命令の統合、運輸系統の合理化。射擊の集と適確さ……等を考へ合はすとき如何に有効なるものかを想像出來如うと想ふ。實際、實戰化に當つて都市が煙幕様の不透明性氣體を以て掩護せられると假想したとき、高射砲座が其の掩護氣體外にあつて有効適切なる防備機能を發揮し得るだろうと云ふことも想像し得られようと考へる。

偖て然らば其の實現化の難否を一應考へて見る要が起つて來る。これは全然專門的なことで私共の云々す可き問題ではないが、現在の高射砲の程度なれば差して大なる施設を要するものとは考へられない、精々混凝土の小規模の砲座と云つた程度のもので有効だろう。砲座間の路面連絡は都市計劃道路網計劃に附隨して考慮するとしたら、これまた特別の大なる經費を嵩むと云ふ程度でもあるまい、實際都市計劃の問題は平時に於ける產業と國民保健の上にのみ立案せらるべき單なる計劃ではない、今日の如うに科學兵備の進展の前には一朝有事の際に於ても有効適切なる機能の一部を負擔、加味せらる可き重要なる意義が存在する。斯様に考へて見たとき一砲座構築に要する最大の經費も恐らく5、60萬圓を出るものとは考へ得られない、假りに大阪市が私の提唱に從ふものとして三十數ヶ所の設備を完成するとして其の要するところは僅かに二、三千萬圓以內の費用に過ぎないだろう、これを自後四ヶ年乃至五ヶ年計劃として實施するとせば年額三百萬圓乃至五百萬圓の費用である。大大阪が此の負擔に堪へ得るや否やそして軈てあると假想せる空襲に對して此の負擔が大大阪市民の生命財產を保護し安堵たらしめ得るとしたら更により大なる任務である產業報國の意義に有効適切なる施設としたら正に一考せらる可き重要案件であると提唱するものである。　（昭和 11. 12. 5 日記）

最近の建築に現はれたファッシズムの傾向

新名種夫

1

日獨防共協定の成立が發表せられ、續いて日伊政治協定の締結が傳へられて居る。

スペインの内亂に於いて、人民戰線の政府軍と反政府國粋革命軍との兩者に對する世界各國の態度にも、右か左か、國夫々の思想的色彩が判然と覺取されるのである。

こうした事實は、今日の世界が共產主義的な國家と、ファッショ的な國家との2つの色彩にはつきりと2分されつゝあることを示すものであるが、兩者の何れも自由主義的な立場を捨てゝ、獨裁的權力の下に軍備を擴張しつゝ、軍備に依つて確固たる國家的基礎を築くべく努力しつゝある點に於て、ひつくるめて、獨裁的軍國主義時代と言ふべく、思想的に全く相反する立場にある兩樣の國家が、この點に於て全く一致して居るといふ事實は、現時代の反映としての、現代建築の傾向を論ずるに當つて、充分注意すべき事柄であらうと思ふ。

2

筆者は昭和12年後の建築の傾向として、世界に於けるこの獨裁的、或は統制主義的軍國時代の反映としての現代建築のファッショ化に就いて述べんとするものであるが、順序として、先づ今日世界のファッショ的國家の雙璧ともいふべき獨乙及び伊太利の、最近に於ける建築の動向に就いて述べることから始めやうと思ふ。

第一に獨乙は何うであらうか。

思へば1927年のシュツットガルト市ワイセンホーフの住宅博覽會は、建築に於ける「機能主義」の最高潮に達した時であつた。

ミース・ファン・デア・ローエ、ピ・オウト、ヴイ・ブールジョア、ブ・タウト、ア・ゲーシユネック、ル・コルビジエ、ワ・グロピウス、ル・ヒルベルスアイマア、ハ・ペルチツヒ、リ・デツカア、マ・タウト、ア・ラーデイング、ヨ・フランク、マルト・スタム、ペ・ベーレンス、ハ・シヤロウン等各國一流の建築家達が、過去の個性的設計より脫却し、建築の合理的經濟的解決に基礎を置いて設計施工したこの博覽會に於ける住宅群は、全く機能主義建築の最高峯であつたと言へやう。

だが、この頃を境として、獨乙に於ける機能主義が漸くその勢力を失ひはじめたこと

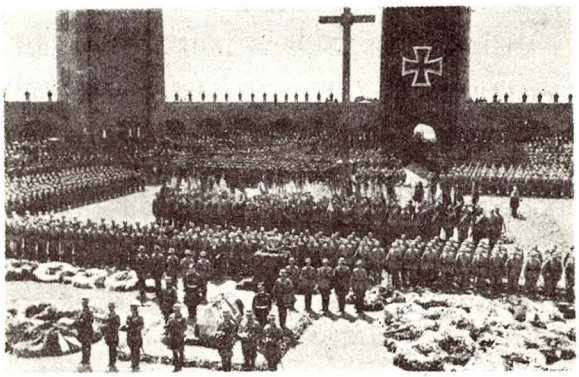
は、既に3年後の1930年には、同じ新建築思想に基いて經營せられて居たバウハウスの當時の指導者ハンネス・マイヤーは、指導原理に對する疑惑の爲に退職を餘儀なくせられ、續いて1932年には、これは墺太利ではあるが、工藝に於て同じ道を歩んで居たウィーナーウエルクシユテツテが遂に閉鎖の已むなきに至つた等の事實に見るも明かであらう。

この機能主義衰退の原因としては、依つて來る幾多の背景が數へられるであらう。

だが、その中の最も大きな原因として、獨乙に於けるナチスの勢力の擡頭を擧けなければならない。



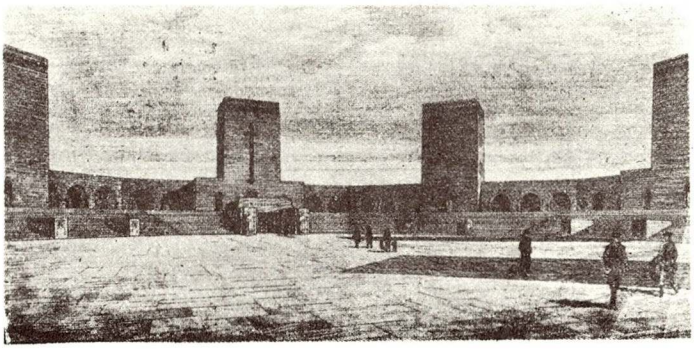
第1圖・獨乙航空省廳舍



第2圖・ヒンデンブルグ墓所（葬儀の實況）

1932年の總選擧の結果に依つて政權がヒツトラーの手に落るや、バウハウスの徹底的な合理主義はナチスの思想と相容れずとの理由を以て、マイヤーの後任ミース・フアン・デヤ・ローエの時、バウハウスは遂にナチス政府に依つて閉鎖を餘儀なくせられ、續いて同等氏がベルリンに退いて經營を始めた私設バウハウスも解散の運命に遭ひ、又1933年にモスクワで開催される筈であつた第4回國際新建築會議には、獨乙の建築家は凡て出場を禁示せられ、爲に同會議の開催が不可能になつた等。

第3圖・ヒンデンブルグ墓所



かくて、ナチスの機能主義、合理主義等に對する彈壓は、實際はそれ等の排擊を目的としたものではなかつたのではあるが、共產主義及び猶太人排斥等と混同された結果、遂にハンネス・マイヤー

を露西亞に、ブルノ・タウトを日本に、エリツヒ・メンデルゾーンを英吉利に追ひ、一時世界の建築界を支配した獨乙建築の機能主義も、ここに全くナチス政權の重壓の下に窒息を餘儀なくされてしまつたのである。

それに代つて、獨乙の建築の上に偉力を振ひ始めたものがナチスの形式主義的傾向であり、ここに述べんとするファツシズム建築への傾向である。

抑もチユートン系の民族は、民族的に形式尊重の性向を持つものであるが、ナチスがこの民族性を、民心收攬の上に如何に有利に用ひつゝあるかは、ハーゲンクロイツの旗印の林立を背景として、腕を大空高く指し上ぐるヒツトラー、その前面の廣場に熱狂する群衆の寫眞を見たものは容易に首肯し得る所であらう。

建築の形式化が先づ獨乙から始まつたと考へられるのは此民族性からでも肯定し得る事であるが、最近獨乙建築の急激なファツシヨ化は、何よりもナチスの採つた政策に依るもので、輕快にして明朗であつた獨乙の建築は次第に重厚にして鈍濁なファツシヨ的形式主義建築に變りつゝある有樣である。(第1圖、第2圖、第3圖及卷末[Grössinsee湖畔の建築物]參照)

3

次に伊太利は如何。

ファツシヨの本家である伊太利に於ては、ムツソリニは決して建築の合理化運動に彈壓を加へはしなかつた、否寧ろ、新材料の生產、構築技術の改革等の課題の下に、建築技術の合理化を助長しやうとしたことは、ナチスの合理主義的建築思想壓迫に對して興味ある對照を示して居る。

ここには勿論1つの理由があるにはある。それは建築の樣式に於て古來纏綿たる傳統と矜持とを有する伊太利では、機能主義建築の發達が他の諸國に比べて非常に遲れて居たといふ事實である。

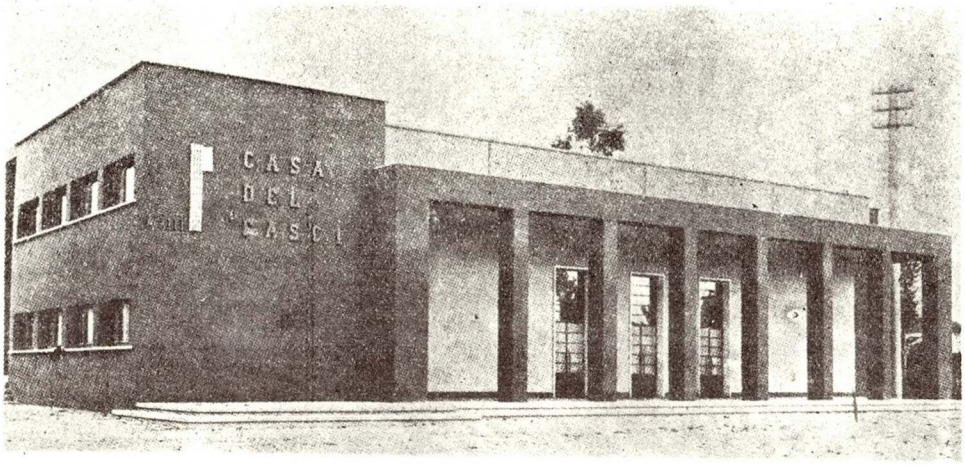
從つて、この根強い傳統を捨てゝ合理化に依つて經濟的建築を提供するといふことは、貧乏な伊太利に取つて寧ろ必要な要求であつた。

1933年ミラノに開催せられた第5回トリエナレ博覽會に先立つて、ムツソリニは新興の建築及び工藝に就いて、若き伊太利の建築家達に次の如く言つて居る。——

「過去の遺產の改築だけではなく、新しい藝術の創造、それが我々の課題である」と。

この言葉に依つてトリエナレ博覽會の建築設計に際して、伊太利建築家達のとつた態度は次の宣言中に示されて居る。

「現代建築はその解釋に於ても、形式及技術に於ても、1つの改築期に到達してゐる。それは今日の習慣に根ざした形式を改更して、建築の新しい美學を將來するにある。建築の改革には3つの意味深い原因があつた。1つは永い間の洗練を經た一定階級の圈內に於ける多樣の進化發展。1は事實としての構築技術の變革、それは新材料の使用と新しい建築要素から來るものであつて、新材料の生產、構築技術に於ける機械の改造等の大きな影



第 4 圖・フアツシヨの家

響。なほ1つは新建築が常に依つて以て建つ所の目的への適合。

で、1932年ミラノに於ける現代建築博覽會では、建築の形式技術條件に對する重要且つ完全なる解明を、各國の藝術家の表現を通じて示さうとするにある。ここでは各國から集つた指導者達の作品を以て全世界に亘る國際的な、現代建築の興味ある示例を見るであらう。それ等の見本によつて見る時代に適應した建築のパノラマは、即ち一時代の文化の鏡を見ることであり、今日の規準を見ることであるともいへる。若き伊太利の建築は多くの將來を約束する」と　（藏田氏「現代建築」より）

だが、ここに注意しなければならないことはムツソリニの演舌の中、「新しい藝術の創造」といふ言葉が使はれて居ることであり、その反應として宣言文中に現はれて居る、「建築の形式技術條件に對する重要且完全なる解明を、各國の藝術家の表現を通じて示さうとするにある」と言つてゐる點などである。

單なる合理主義、機能主義より導き出される建築技術上の結論以上に、新しい藝術的創造を要求した所に、純粋な機能主義と異る立場があり、そこにこそ建築に於けるファツショ思想表現の餘地、否ファツショ思想表現の企圖があると見られるのである。

第 5 圖・カセルタの記念アーチ



だから、伊太利最近の建築進展の跡を見るに、最初若い伊太利建築家達を技術的に指導してゐた、「新建築の常に依つて以て建つ所の目的への適合」を目標として、

純粋に機能主義的な建築が作られたのは極めて僅かの期間であつて、最近は技術的であるよりも思想的に新しいファッショ藝術創造へと、次第に方向轉換が始められてゐるのである。

かくて、機能主義的建築に對する獨乙の積極的抑壓と、伊太利の消極的助長と、その建築に對して向けられる政策としては、全く相反するものであるにも關らず、伊太利の建築も亦、現在獨乙の建築が既に或程度の域に達して居る所のファッショ的形式主義的傾向への道を歩みつゝあるのが現狀である。(第4圖、第5圖參照)

4

飜つて我建築界を一瞥しやう。

我國現在の情勢は純粋な意味で決してファッショではない。

併しながら多分にファッショ的傾向を帶びて居ることは否まれない事實である。

本質的に合理的たらざるを得ない構造及び設備等の純技術的方面は別として、形式上、合目的性以外に多分の思想的政治的要素の混入を見始めたことは、最近我國の建築にも特に目立つて來た現象である。

數年以來古い建築家の一部に於て支持せられ、實施せられて來た東京軍人會館、帝室博物館及び滿洲國の諸官衙建築等に見られる「本邦城廓風」とでも稱すべき1群の建築は一見我國に於けるファッショ的建築の代表の如く見られ勝ではあるが、これ等は根強い思想的背景を根底として發生したものではなく、一部の保守的形式主義的建築家の、思想からではなく形式的から出發した變態的設計であつて、我國建築のファッショ的傾向の傍系位には見ることが出來ても、その主潮では決してない。

今日我國のファッショ建築の發生は、1つは建築に於ける唯物的合理主義の行き詰りにもその原因があるのであつて、技術的根底はあくまで合理的に而も形式的表現に於て今日の國體中心、國家統制主義思想の反映があるのを特徴とする。

獨乙に於てもナチスの排擊したものは建築の技術的合理主義ではなく、實は當時の新建築思想の根底をなしてゐた唯物的建築思想であつたのである。

この意味で、今日の建築はファッショ的傾向にも關らず、技術的には尙やはり機能主義の上に立ち、その表面に於ける形式的表現にのみ思想的特徴を現すものであると言ひ得られるかも知れない。「但、この表現の爲に建築の技術的合理性の一部を犧牲にしなければならないことはあとにも述べる)。

我國の建築のファッショ的傾向が最近に計畫せられた技術的合理性を最も多く要求して居る建物に見出されるのは、少くともこの意味に於て決して不思議なことではない。

第6圖及び第7圖は何れも最近行はれた懸賞競技に於ける當選案で、兩者共にその構造設備等に於て近代科學の粋を集めて建築せらるべき筈のものであるが、その外觀に於てフ



第　6　圖



第　7　圖

ァッショ的傾向への暗示を多分に持つ様に思はれるもゝ例である

5

では、ファッショ的建築の形式的特徴は何んなものであるか。

前項にも述べた如く、ファッショ的建築も技術的には充分合理主義の上に立脚し、その上に國粋的思想の形式的表現を企圖したものであるが、この爲には必ず建築の合理性の幾分かの犧牲を必要とするが故に、嚴密にはやはり合理主義の放棄であり、建築の權力に對する順應或は敗北である。（これは恰も、ファッショと反對の立場に立つ共產露西亞の初期に計期せられたタトリンの記念塔が、第3インターナショナルの主義表現の爲に純粹な合理主義を採らずして、寧ろ表現主義的手法に依つたのと方向は反對であるが同じ行方である）。

そこで最後に、建築の外觀上には、これが何んな形となつて表はれてゐるかといふことになるが。——

第一は、合目的の爲に以前には「必要」の指示する儘に自由に扱はれてゐたプランが、形式の統制的表現の爲に、少くとも臨劃は古きシムナトリツクな様式に還りつゝあるといふ事實である。ルネツサンスに於ける如く古典の復活を目的としたものではないが、結果に於て一脈相通ずるものが認められる。（プラン、從つて外觀に於ても）

それから、第二は輕快明朗な形狀色調を捨てゝ、重厚鈍澁な調子が加味されつゝある點である。

この爲に、使用材料に於ても從來のコンクリート打放し、又はモルタル仕上の美學を捨てゝ、石材その他の大きなブロツク張仕上の莊重が要求される。

ベルリンのオリムピツク大スタデイヤムは、最初コンクリート打放しの計畫であつたものを、ヒツトラーの一言に依つて石張りに變更された事實は、この間の消息を察知し得て

面白い報告ではないか。

この第一、第二の特徴は、何れも獨裁主義、統制主義の反映であり、又その主體である權力の表示でもあると見られる。

更に第三の特徴は、機能主義的建築が全く建築の科學的解決の基礎の上に生れたものであつたが故に、形式的に各國相通じたもので（インタナショナル）あつたのに對し、ファッショ的建築の形式は各國の國民性を最も多く反映する性質のものであるから、第一、第二の共通的特徴の中にも多分に民族的國民的特異性を保有するものであるといふ點である。

これ等の諸點を最近表はれた、建築のファッショ的傾向の特徴であるとして、ここに注目すべきことは、最近露西亞の建築中にもこうした傾向を有するものが數多く發見せられる様になつたといふ事實である。

これは、この小編の最初にも述べた如く、露西亞も亦事實に於て獨裁的權力の完全に統制する國家である所へ、その指導精神が建築の形式に表はれる程度までに、國家主義的傾向を帶びて來た結果であると考へることは、今日尚早計であらうか。

（1936・12・6）

「日本的」建築の再吟味

中村綱

1. 日本の特殊性と「日本的」の意義
2.「日本的」建築の內容と建築家
3.「日本的」建築2面相

1.

特に「日本的」と云ふとき、それは米國的、支那式或は外國的と云ふ様な言葉に對して用ひられるのであつて、之は何かしら他とは違つた特色ある事を前提してゐなければならぬ。然らばその日本の特色とは何を指して云ふか。我が國の產業・文化・藝術・觀光等の發展の特殊性に關して云はれるものである事は勿論である。之を歷史的に見れば平安朝風な風俗、鎌倉文化、德川時代の習慣等何れも日本的であらふ。しかし今日建築界に於て論議されてゐる「日本的」を論ずる場合、日本の產業・文化・藝術・觀光等の今日の發展段階の特殊性に關聯せしめなくてはならぬ。では如何なる點に特色があるか。

我が國は諸外文明國に比し著しくおくれて文明に馳せ參じたのである。そしてその際舊套をぬぎ捨てる暇もなく新服をまとひ出したため、世界の一流文明國となつた今日、依然として古臭い匂ひを漂はせてゐるのである。產業は大いに發達し世界の文明國を亞然たらしめてゐるにも拘はらず、國民の大部分である農民は昔ながらの小農式農業に呻吟してゐる。大工場は最新の科學を汲入れて驚くべき生產能力を示してゐるにも拘はらず、國內の多くの工場は家內工業でその雇傭關係は宛もギルト制にも見られる如き徒弟制度が多い。資本は巨大となり世界的に進出してゐるにも拘らず、地主は半封建的な地代に執着してゐる。文化的施設は世國のどの國にも劣らず進んでゐるにも拘らず、國民の大半まだ二重的な舊習に惱まされてゐる。大建築は世界の建築技術の最高峯に到達してゐるにも拘らず、勞働者住宅は昔ながらの棟割長屋である。この新しさの中に漂ふ古臭みこそ現代日本の特殊性ではあるまいか。

更に我が國は領土獲得競爭におくれたため國家の生命線たる產業の資源をなすべき殖民地の領有を充分にする事が出來なかつた。國內は土地がやせてゐて天產物に乏しい。故に先進文明國と平和の戰爭をなす上での武器は諸外國が殖民地の搾取の上にあつたのに反して、我が國は國民の我慢に賴るより致方なかつた。我が國民は世界に類なき低い生活に甘んじて國運を進展してきたのである。今日世界市場に巨大なる波瀾を捲起してゐる日本商品の進出こそ、我が國民の血と汗による國家への御報公の現はれなのである。然るに今日物質文明の發展と共に我が國古來の美風たる無私の心持が薄れ、國民は個人主義的となり階級の對立を生じ外國の危險思想さへ侵入し、勤勞階級は自分らの賃銀の不當を鳴らす

様になり、中堅をなすべき中間層においても思想の動搖があつて、國家の基礎を危くするに至る恐れを生じたのである。ここに於て國民思想の基準を皇室中心に發達してきた明治維新の當時へ戻し、長と部下或は雇主と傭人の關係が親子の如かりし昔へ戻さうと希ふ聲は識者の間におこり、國家の政策としても日本精神・國體明徴又は皇室中心主義等の名の元に古への逆戻りを策するに至つた。建築界に於ける「日本的」の要求もこの國家の政策の意識的或は無意識的な反映に外ならぬのである。

2.

然らば建築に於ける「日本的」とは如何なる內容であるか。今日多數の建築家が從事してゐる鐵骨鐵筋構造の巨大建築物の建設は確かに建築技術の粹であり現代建築の花である。しかしながら今日建築される建築の何%がこの高層建築であらふ。震災後急に高層建築等の增えた舊東京市に於ける昭和5年の統計でさえ全建築數の約85%が木造である。まして他の都市或は農村に於てはかかる巨大建築は無に近いのである。故に量のみから見れば巨大建築は日本の代表的建築ではない。坪當單價50圓位低層長屋住宅こそ日本の代表的建築である。暖房換氣施設の缺除せる通風採光の不充分な、構造の粗惡な、敷地の狹隘な、衞生上不備な、然しながら世界の最低生活に辛うじて堪えられる如き木造長屋住宅が都市と云はず農村と云はず日本全體から見た現代建築の代表者である。數に於ては少いが質に於て立派な巨大な近代建築が今日日本の代表か、或は質は劣るけれど數に於て壓倒的多數である昔ながらの長屋住宅が代表か。或る人は云ふであらふ、「漸次粗惡なるものは優秀なものへ變化してゆく。木造平屋の長屋住宅も遂には鐵骨鐵筋の高層建築に建てかへらるべきである。そしてこの巨大建築こそ現代日本のシンボルである。」と。又或る人は云ふであらふ。「さびのある雅のある茶室建築こそ日本建築のシンボルだ。そして桂の離宮が日本的建築の最高峯だ」と。だが日本の國民が充分に設備せられた高層共同住宅に、或は風雅な茶室風な建築に住む日が來るであらうか。高層建築はやはり商業建築又は公官建築に限られ、茶屋建築は金持の道樂の範圍外には出ないであらふ。然り、今日日本の建築家は資本の利潤の奴隷か又は金持ちの道樂の太鼓持ちである。タウト氏が日本の建築家は吉原女郎だと惡罵したのも思當る節がある。今後建築家は我が國の社會的並に自然的制約に應じた國民の住宅問題を研究してこそ始めて眞に「日本的」建築の本質を知りうるであらふ。

3.

曩に懸賞募集に於ける「日本的」が問題となり、今日又外國博覽會の日本館建築の「日本的」が問題となつてゐる。之等二つの「日本的」の社會的意義並にその形式に就ては以上に述べた如く同じものであるとしても、その効果或は影響については全然別である。第一型は外國の文明にかぶれるな、日本は日本古來の日本精神を以て進めといふ國家の方針

の反映である。故にその採用された建築は博物館とか官公署と云つた様な半紀念的建築に限られてゐる。だが斯る建築物に「日本的」を導き入れて日本精神鼓吹に効果ありや否やは甚だ疑問であり、又今日迄建築された「日本的」建築が果して「日本的」か否かは更に更に深い疑問である。「日本的」建築の第二型である外國博覽會の日本館に就ては全く別の觀點をとらねばならぬ。之は我が國の産業、文化、藝術、觀光等の宣傳に主なる目的を有する。かかる廣告的建築は人目を惹くといふ事が最も必要だ。そのためには外國的の中にあつて唯一つ日本的な存在は確かに効果的だ。だがその日本館は建築技術や材料が高度に發達してゐる現狀、産業や文化を表象して居り、その建築に盛られた手法が我が國の藝術の床しさを表現して居り、更に我が國へ觀光客を誘致するためによき風景を紹介しなければならぬ。しかし廣告的價値と外客誘致上の効果に重きをおけば、我が産業文化の正しき表現が粗になり、我が産業、文化を正しく表現せんとすれば、廣告的價値が低下し外客誘致上の効果も薄れるといふヂレンマがある。都市といはず、地方といはず、國といはず生産力の增進こそ眞の發展であり、觀光的發達は寄生的なもので、我々が努力すべきは飽くまで前者にある譯だ。野蠻國はその特異な自然的風景並に未開な從つて奇異な風俗習慣を看板にして外客を呼ぶ。我國の觀光事業當事者の中にもこの種の人のあるのは甚だ遺憾である。我が恥しい處を見せておこぼれに與らんとする程情けない者はない。博覽會建築に於ても充分この點に注意しなければならぬものと思ふ。（暴言多謝）

鋼構造の行くべき道

池田宮彦

鋼材の節約　我國の如く鐵を海外より仰がねばならない國にあつては建築用鐵骨は特に節約を工夫せなければならない。さりとて鐵骨構造、或は鐵構造を廢止してすべてを鐵筋コンクリート造を以て代用せしむることは先づ不可能であろう。ことに我國の高層建築に於ては地震による災害を考ふるとき一層其の感を深うするのである。

鐵筋コンクリート造は其の理論に於ては一應充分でありと考へられ之れに對して非難すべき點はないと謂ひ得る迄に行き屆いて居るが其の施工の實際に就いて之れを考へて見るときに一抹の不安が横たわつて居る。其の理論計算の微細に渉つて居るに拘らず其の現場に於ける鐵筋の繼手といふもの、コンクリートの打繼ぎといふもの、打込が同部同時に行はれないこと、不均質となること、等に於て鐵骨構造程に信賴し得らるるものでないことを覺ゆるものである。

熔接　さて鐵骨構造に於て鋼材を節約する方法は鋲接合を廢止して之れを熔接々合にする以外には求められない。鋲接合を熔接にした場合に現在の處では15%乃至20%を節約することが出來ると稱せられて居る。然し乍らこれは現在の鋼材の型其のままを用ひての話しである。現今用ひられて居る鋼材の型はすべて鋲接合に都合のよい樣に考へられて造られたものである。從つて之れが直ちに熔接に利用せられて都合よいとは謂ひ難い、否甚だ不都合のいろいろの點を見出すのである。

鋲又はボールトによる接合は何れも其の材部に孔を明けて斷面を減じて取付ける樣に爲すものであるが熔接に於ては全斷面積を其のまま有効に利用するものである、前者は20乃至25%斷面積が殺されるのである。然るに熔接に於ては 100%利用の可能性がある。

茲に於いて鐵構造に對してもつと熔接の研究をせらるべきが當然ではなかろうか、私は現今の建築構造界がこれに對する研究熱の足りないことを甚だ心淋しく感ずるものの一人である。

熔接構造用壓延鋼材　以上は單に接合の施工のみを謂ふのではない、鋼材の斷面型狀に於て熔接構造用のものの生產せられんことを切望する次第である。第1圖に示すは獨逸に於て用ひられて居る熔接用鋼材の斷面であつて非常に便利且つ經濟である、之れを巧みに用ゆれば現在の山形鋼類の型物を用ゆるよりも一層鐵を節約出來るものと考へられる。

今之れを用ひて柱、梁等を組立てて見れば第2圖の如きものとなつて極めて便利であることが知れる、尙之れを山形鋼等の組合せのものと比するとき其の組立に要する熔接の長

さに非常な相違のあることを知るのである。通常山形鋼及鈑を組合せる構造にあつては 1 瓲の鋼材に要する熔接の長さは約25米乃至35米となりて工事に多くの日數を要し時間的に鋲接合に及ばないことになる、即ち山形鋼及鈑の類を組合せて全熔接を行ふことは無理があることが判るのである、それ故に熔接用構造鋼材の壓延せられん事を望むものである。

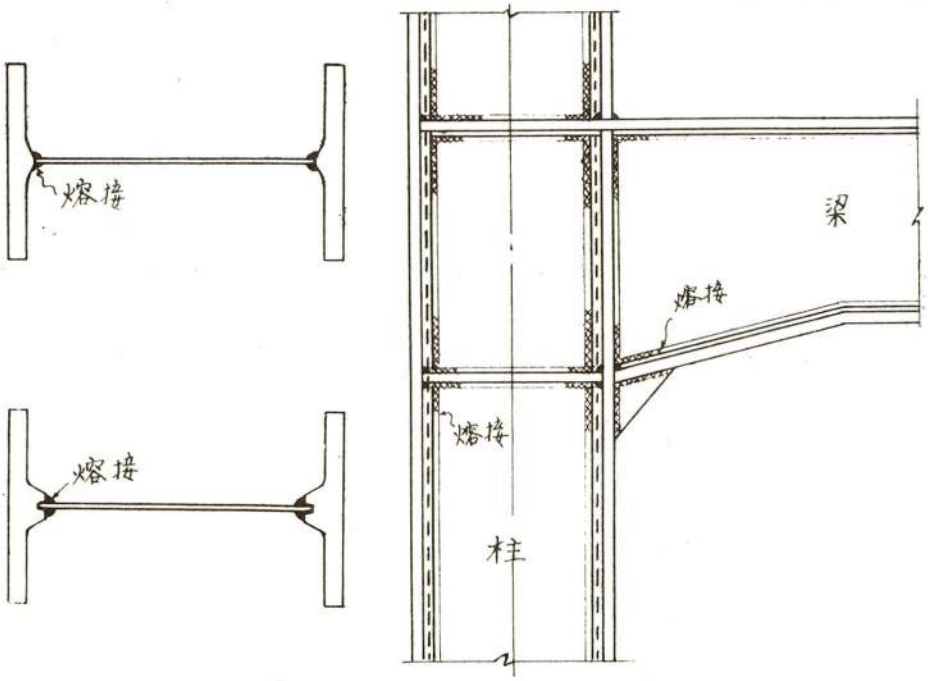
結語　之れを要するに、建築構造に熔接を利用し猶又それに適應する鋼材を壓延せられて鋼材の節約を計ることは我國家經濟の立場よりして急務であろうと考へる次第である。





第　1　圖

第　2　圖



黎明期のわが國建築統計

内藤亮一

商工省及建築統計聯合委員會の二つの建築統計が産れる昭和12年は、貧しかつたわが國の建築統計にとつて最も多幸なる年である。この時に際して、本文は二つの建築統計の紹介を兼ねてわが國の建築統計の回顧と展望を試みたものである。

建築統計があつたか

建築統計はなかつた——後藤貞治氏著本邦統計資料解說の索引中に〃建築〃の項目は見出されない。

建氣統計は乏しかつた——昭和11年度日本都市年鑑は建築については統計資料の頗る乏しきを遺憾としてゐる。

建築統計は埋れてゐた——第1731號週刊東洋經濟新報は建築統計は徒らに埋れてゐたと云ふ。

この見方は何れをも否定し得ないものであるが、然しながら又拾ひ上げればそこに多少の建築統計を見出し得ない理ではない。

即ち概括的に云へば、わが國には、若干の建築統計を見出すことが出來るが、整備した建築統計はなかつた。少くも建築統計は乏しかつた。しかも此等の建築統計の多くは埋れてゐたのである。

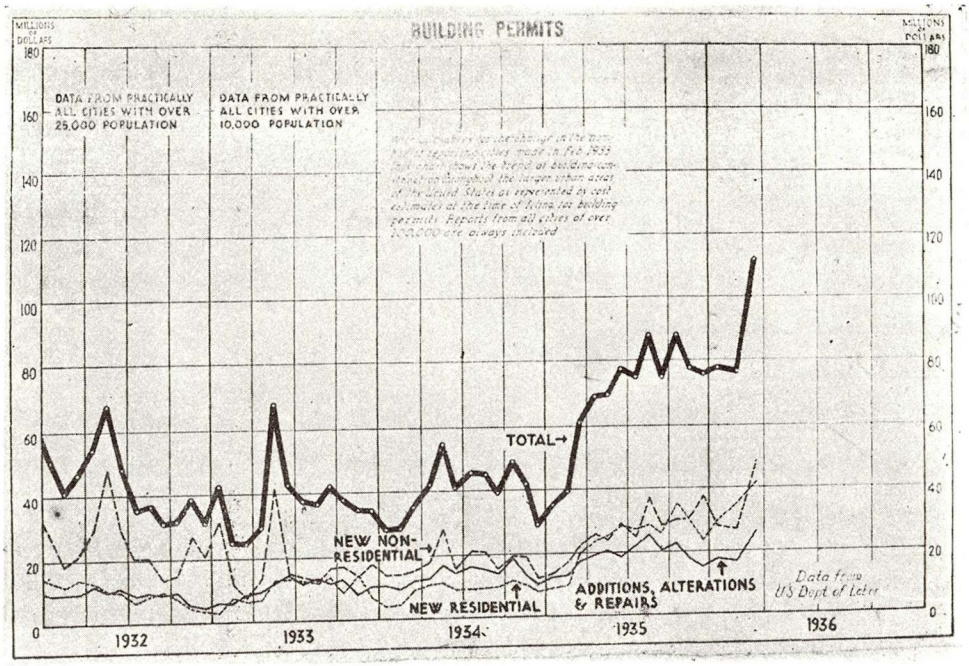
統計の價値が比較的輕く見られてゐるわが國に於て、建築界も亦決してその埒外に出でゝ居ない。一般工業乃至は經濟雜誌は勿論、幾十種かの建築に關する定期刊行物には建築に關する統計の記載せられることは甚だ少なかつた。たとひ斷片的に記載せられたものがあつても、統計の數字を解析し咀嚼し讀者に納得せしめるに足る簡易なる圖表或は指數を以つて說明的記述を加へた如きものは殆んどない。元來わが國の建築に關する雜誌には社會性の缺乏と云ふ傾向が窺はれるが、建築の統計に關するこの無關心或は不親切さもその一面を如實に示現したものと云はねばならない。

過去50ヶ年間のわが國建築界の情勢を回顧するに最も貴重なる資料として、建築學會創立50週年記念の建築雜誌總目錄がある。試みに目錄の〃雜〃の部資料統計の項目を見るに、建築統計としては、

警視廳調査に依る昭和6年中竣功建物の統計

同上　昭和7年の統計

同上　昭和8年の統計



勞働者災害扶助責任保險法に基く昭和7年4月～昭和8年3月の1ヶ年に於ける建築統計

の4個の統計が目錄せられ、災害統計としては8個の統計が目錄せられてゐるに過ぎない——尤も目錄作成の不備のためか實は尙數個の統計が記錄にもれては居るが。

挿圖は之と對蹠的なアメリカの建築に關する雜誌“Architectural Forum”（1936）に記載せられたる建築統計の一つである。即ち人口1萬以上の總ての都市——但し1932年度は2854以上の都市——に於て建築許可せられたる建築の工事費を每月集計した資料を簡明なる統計圖としたものであつて、アメリカの最近の建築生產の動向を如實に知ることの出來るものであるがこんな統計はわが國には見られないものである。

この種の主として景氣の動向を知るを目的とした經濟指標の資料としての建築統計以外にも、わが國に於ては、現存及び竣功建築物統計の全國的、且累年的の完備したものがない。例へば近時わが國に於ても都市の武裝、即ち都市建築物の防火、防空化が唱導せられて居るが、然しその都市に現在何程の耐火建築物があるか、每年幾程の耐火建築物が建築せられつゝあるか。更に又その增加の狀況如何を知るに足る總括的統計を見出すことが出來ない。

建築統計の內、わが國に於ても比較的種類の多いのは住宅に關する統計であるが、之も個々につきては貴重なる資料はあつても概して斷片的なもので多く、普遍的、且累年的なものはなくて諸外國の整備した住宅統計に比すべくもない。

統計學者がその著書より建築統計を抹殺し、前藏相が經濟聯盟に於ける講演中、建築統

計作成の慫慂のあつたのも決して偶然ではなかつた。

わが國には、社會に働きかけるが如き整備した建築統計はなかつたのである。少くも乏しかつたのである。

どんな統計があつたか

然しながら我國に、建築統計が缺如してゐたかと云へば、事實は決してそうでない。乏しい資料に依つたものであるが、以下便宜、明治、大正、昭和の年間に於けるそれぞれの建築統計を回顧を試みたいと思ふ。

明治年間の建築統計を回顧すべく最も興味深いものは、建築雜誌明治24年2月所載の工學博士曾禰達藏氏一年間の建築統計である。これは明治23年12月"American Architect"中の、1889年アメリカ各都市の建築棟數及總工事費の紹介であるが、博士はその最後に於て、

〃此一國に於て一年間建築せる家屋の數と建築費とを、市府別にして統計表に作ることは、其各地の工賃の高低、材料を得るの難易を知るの益となるは云ふまでもなく、或は其風俗嗜好を察するの具となり、之を大にしては一國の文明の程度進捗を示す助けとなるべく其關係する所廣くして面白きことなれば、我造家學會に於ても右に倣ひて全國の大都會の建築を市府別け若くは府縣別になして、其總數、種類、費用等の統計表を編製あらんことを望ましきことにこそ〃

と結んで居られるので、之に依れば當時既にアメリカに於てはこの種の建築統計が存在してゐたことゝ共に、明治の中期わが國に於てこの種の統計のなかつたことを知ることが出來るのである。而して曾禰博士のこの希望にも拘らず、造家學會に於てもその後も、かゝる統計の編成のことはなかつたが、これは當時のわが國の社會情勢ことに建築界の情勢に於てはその實現は殆んど不可能に近かつたものと思はれる。

然しながら、當時の建築統計としては、東京市に於ては明治24年より簡單なる次の如きものが作成せられてゐた。

構造別（土造、煉瓦造、石造、木造）建物棟數及坪數表。

これは明治37年刊行の第1回東京市統計年表を初めとして、每年發表せられたものであつて、每年の統計を比較すれば當時の東京市内の建物の實情と每年の增加狀況を知ることの出來るものである。

一方大阪市に於てはその統計書は明治34年第1回のものを刊行してゐるが、建築に關する統計が記載し初められたのは明治40年刊行の第10回統計書であつて、

各區別、表家裏屋別、現住家屋數及空家數表——明治38年末現在

が發表せられ、こゝに吾々は既に空家統計の存在を見出すことが出來るのであるが、大阪市に於ては之より早く建築統計の存在してゐた事は、建築雜誌明治25年6月に〃家屋新築改築の數〃と題して大阪市の區役所調査にかゝる明治24年度及25年度の大阪市東區及北區の家屋新築、改築の戶數とその坪數を大阪朝日新聞の記事中より轉載してあるを見て察知

することが出來るのである。

又兵庫縣に於ては、明治13年に明治11年兵庫縣統計概表を初めて刊行してゐる。これには建築統計としては營繕費を記載してゐるに過ぎないが、明治16年統計書には、

郡區別、戸數及建築表

あり、之に官廳、社寺、學校、民家、厩圍倉庫各の總數表を載せ、更に明治24年統計書に於ては、

市郡別建物表

として民家、寺院の戸數、總坪數、宿舍用坪數、學校、製造所、倉庫の軒數、坪數、官廳病院の軒數等を記載し〃本表は徵發物件調より採錄す〃とある。

かくの如く當時既に名府縣、各都市の統計書中に初期の建築統計を見出すことが出來るが、更に東京市に於ては38年より、

各種建物細別表——各區別、構造別、階別（1階、2階、3階、4階建以上）棟數、坪數統計表

あり、公共建物、銀行會社、工場別に之等を調査して居り、大阪市に於ても44年度より

各區別、構造別（木造、土造、煉瓦造、石造、その他）階數別（平屋建、2階建、3階建）建物棟數及建坪調査表

を加へる等。漸進的に意義ある建築統計が作成せられて來たのであるが、之等の統計は最初より建築統計として意識的に計畫せられたものでなく、家屋稅の徵收等の目的のため副產物として記錄せられたもので累年的であつてもこれは各府縣、各都市について普遍したものではなかつたのである。

次に竣功建築物統計に就ては當時は既に數府縣に於て建築取締を施行してゐたのに拘らず、府縣統計書にその取扱建築物統計を見出すことが出來ない。只建築雜誌の明治41年4月に、大連市に於ける明治40年中の建築家屋の棟數、建坪、建築工事費を、これも當時の新聞紙より轉載されたものを見るのみである。

建築材料の統計としては、農商務省に於て明治33年よりその物價指數の累年的比較調査したものがある（日本統計普及會、時事統計圖集、第2卷）、又建築雜誌にも斷片的ながら、木材を初め各種材料の價格その他の統計を見ることが出來る。

最後に、當時より既に完備に近かつたものは災害統計中火災に關する統計であつて、各府縣の統計書は早くより火災に關する統計を記載し、更に內務省統計書は之を集計して居り、農商務省に於ては明治26年より每年の火災統計表を調査編纂したものが刊行せられてゐる（自明治36年至明治40年5ヶ年間火災統計表）。又建築雜誌にも明治22年3月に〃火災統計〃と題して警視廳消防本署調査の明治21年東京府下火災統計を當時の官報より轉載せるものがある。

大正年間に於ては、各府縣の統計書の何れも建築に關する統計乏しきに比して——兵庫

縣に於ても大正年間以後のものは先の建築表を廢止し何等の建築統計なし——各都市の統計書は、何れも建築の項目を設けて愈々建築統計の整備に努めてゐる中に就き、東京市の統計年表の如きは、

建物棟數及坪數累年　　建物賣買價格累年
建物層階別累年　　建物抵當質入金額累年
建物構造及用途別表　　地上權設定件數累年

の6種の統計を掲げ更に之等に地下室調査迄加へてゐる。

この豐富な建築統計の形式は神戸市統計書にも殆んどその儘採用せられてゐるが、大阪市、名古屋市等の統計書は又様式が異り、折角の累年的統計を6大都市に普遍統一することの出來ないのが遺憾である。建築雜誌は大正11年8月誌上に〃大正10年中に於ける東京、大阪兩市の建築統計〃と題して、大正4年末の兩市の現存家屋數の統計をそれぞれ國民新聞、大阪朝日新聞所載のものより摘錄してゐるが、これを見ても如何に兩市の統計の形式の異りたるかを知ることが出來るのである。

以上大正年間の建築統計を最も特徵づけるものは住宅統計である。殊にその後半は借地法、借家法、住宅組合法、不良住宅地區改良法——尤も本法は昭和2年3月の公布であるが——制定せられて、わが國に於ける住宅問題の最も華かなりし頃で、民間の住宅統計資料が產れたのも當然である。

大正年間刊行の住宅調査に依る統計資料としては、

內務省社會局社會部より
〃部落に關する諸統計〃　〃細民集團地區調査〃　〃大正10年施行細民調査統計表〃
〃我國及歐米に於ける生活費と住宅費との割合資料〃

農林省
〃住宅供給利用に關する產業組合調査〃

鐵道省大臣官房現業調査課
〃國有鐵道現業從業員の家賃調査〃

東京府社會課　〃東京市及近接町村中等階級住宅調査〃　〃地代家賃に關する調査〃

兵庫縣
〃新川部落改善資料諸統計表〃

東京市
〃東京市に於ける住宅の不足數に關する調査〃　〃共同住宅及びビルディングに關する調査〃　〃東京市內木賃宿に關する調査〃　〃東京市內同居者世帶に關する調査〃

京都市社會課　〃住居と家賃〃　大阪市社會部　〃住宅調査〃　〃大阪市住宅年報〃

名古屋市
〃俸給生活者小商工業者住家狀態〃　〃蘇鐵町及下奧田町方面住家狀態〃

協調會　〃全國家賃調査〃

等のものが、後藤貞治氏著本邦統計資料解説の中より類別し得られるものであるが、之等は多くは斷片的のものであつて、横へ即ち全國的への統一又は縦へ即ち累年の比較調査のもの少く、兩者を兼ねたものゝなかつたことは遺憾に思はれるのである。

更に特筆すべきは、大正８年には都市計畫法、翌９年には市街地建物法が公布せられて、これに關する建築統計が作成せられるに至つたことである。大正12年３月内務省都市計畫局より關係各府縣知事宛に、市街地建物法關係取扱建築物につき、

工事別（新築、増築、改築、その他）

構造別（第１種、木造、木骨造、土造、第２種、石造、煉瓦造、コンクリート造、第３種、鐵骨造、鐵骨鐵筋コンクリート造）

面積別（50坪未滿、50坪以上100坪未滿、100坪以上200坪未滿、200坪以上）

階級別（1階建、2階建、3階建、4階建以上）

用途別（住宅、商業建築物、工業建築物、其の他）

の詳細なる統計及市街地建築物法違反處分表の作成報告方を指示して居る。

然しながら、之等の統計は内務省統計報告書、各府縣統計書等にも掲載されず、從つて一般に利用されることなく、只餘り知られて居ない内務省都市計畫課編纂昭和２年８月内務省刊行の〃都市計畫要鑑第２卷〃中に、京都府、大阪府、兵庫縣、愛知縣につきてそれぞれの大正 11、12、13、14、15 年累年市街地建築物法關係取扱建築數調として用途別、構造別、工事別の件數が記載せられて發表せられたに過ぎず、單に事務當局に於ける法施行上の參考に資せられて埋れてゐた理である。

只昭和２年４月建築雜誌の時報欄に〃大阪市家屋新築狀況〃と題して大正13年、14年大阪都市計畫區域内に於て新築、増築、改築せられたる公私の建物に關する統計は、通報者である地方委員園部文雄氏はそれを明記しては居られないが、前記の統計に關連あるものと認められる。統計表に加ふるに、詳細なる解説あり、更に大正13年の建築費を93.000.000圓、同14年のそれを94.000.000圓と計上してあるのは注目すべき資料である。

材料統計としては、東京外國木材輸入協會調査の大正元年より昭和２年に至る本邦外國材輸入量及價格累年比較調査、帝國森林會調査の大正８年に於ける本邦木材用途別使用量比較調査等があり、又農商務省に於ては、大正10年頃より土木建築業賃銀調査をなしてその指數を發表してゐる。

災害統計としては一般火災統計の他に、大正12年關東震火災に關する統計資料等があるが詳細は省略したい。

次いて昭和　２年５月内務報告例が改正せられ、建築物關係の統計として、

市街地建築物法處分件數（年２回）市街地建築物法關係取扱建築物表（年１回）

市街地建築物法關係申請届受理件數表（年１回）

の3統計が作成報告せられることになつたが、この中取扱建築物表は在來の詳細なる統計より簡單なる工事別、用途別のものに改められたが、之等は内務省統計報告に發表せられてゐない、又各府縣の統計書に就ても發表記載せられてある府縣と然らざる府縣があり——例へば警視廳、大阪府の如きはこれを掲げ、兵庫縣では之を掲げてゐないが如き——不統一であることは遺憾の點である。然しながら之等の統計は、斷片的には建築雜誌、その他の建築に關する定期刊行物に掲載される樣になつた。就中警視廳の建築統計は昭和6年4月建築雜誌に當時の建築課長北澤五郎氏に依りて、昭和2年以後昭和5年迄のものを比較發表せられたのを初めとし以後毎年同誌上にその統計資料が解說と共に發表せられつつあり、又、全國的のものとしては、昭和11年度日本都市年鑑に、この内務省の統計を各都市別として發表されて居る。

地方住宅統計資料はその後も、

内務省社會局社會部より

〃農漁業者住宅調査報告〃

農林省　〃開墾地移住者住宅に關する調査〃

商工省　〃地方に散在する工場と工業化した町村に關する調査〃

東京府

〃東京府郡部に於ける集團的不良住宅地の狀況調査〃

大阪府

〃在阪朝鮮人の生活狀態〃　〃實地調査の結果から見た大阪市内の住宅〃

愛知縣

〃不良住宅地區に關する調査〃

東京市

〃東京市内の空家に關する調査〃　〃借地借家爭議に關する調査〃　〃東京市住宅調査〃　〃住宅改善調査資料〃

京都市

〃不良住宅密集地區に關する調査及圖集〃　〃借家に關する調査〃

大阪市

〃製造工場の住居施設に關する調査〃　〃土地住宅賣買と家賃〃　〃貸屋案内業者調査〃　〃大阪市家賃調査〃　〃アパートの調査〃　〃本市に於ける朝鮮人住宅問題〃　〃住宅月報〃

仙臺市

〃仙臺市内細民生活の狀態と其家賃〃

同潤會

〃共同住宅居住者生活調査〃　〃工場勞働者の居住事情〃　〃不良住宅地區改善後に於

ける地區內居住者生活調査報告〃　〃同潤會十年史〃　〃會報〃
等があるが——以上後藤定治氏本部統計資料解說により類別——之を概觀するに都市に於ける住宅問題と共に農漁村の住宅問題、更に朝鮮人の住宅問題が論ぜられると共に、その統計資料の作成せられつつあることが知られるのである。

昭和年間の住宅統計に就きて特筆すべきは、昭和5年第2回國勢調査に際しては新たに〃住居〃がその調査項目に加へられたことである、尤もこれは單に1世帶の住居の實數のみの調査であつて、當時居室の定義につき建築學會が內閣統計局からの諮問に答申の際建議したる項目——昭和5年5月建築雜誌——より遙かに簡單なものではあつたが、初めてわが國の住宅調査が全國的に定期的となつたもので、この結果は既に〃昭和10年9月に昭和5年國勢調査報告第1卷〃——內閣統計局刊行中に發表せられてある。

尙全國的のものとしては、內閣統計局よりは昭和8年11月〃昭和5年國富調査報告〃が刊行せられこの中に建物の項目があり、又北澤、伊東兩氏に依る〃昭和8年中我國(內地)に於ける建築工事費の推計〃——建築雜誌昭和11年3月大會號——がある。

次に建築關係の勞働者に關する統計としては內務省社會局勞働部より、
〃土木建築勞働者生活狀態調査〃　〃勞働者災害扶助年報〃　〃勞働者災害扶助責任保險年報〃
が刊行されてゐる、昭和10年7月建築雜誌所載の中村寬氏に依る〃勞働者災害扶助責任保險法に基く建築統計〃は前記の統計作製の副產として橫斷的なわか國建築統計の資料を作成せられたものであり、やはり全國的な建築統計として興味ある資料である。

東京市の調査による〃東京市內高層建築物調査速報〃は最近での特色ある調査資料であつて、都市防空の見地からもこの種の資料は今後益々要求せられるものと思はれる。

多くの統計は埋れて居た

以上の如くわが國の建築統計も、概觀すれば決して同しいものではなかつたが、多くの資料は發掘せられず、又時にふれ見出されても檢討せられることなく經過して來たものである。

恐らくはわが國の經濟雜誌に於て、建築統計が論ぜられた最初のものとも思はれる昭和11年10月24日發行の東洋經濟新報は〃埋れてゐた建築統計〃と題して次の如く述べてゐる。

〃無い無いと云はれてゐた全國的な建築統計が日本にも既に立派に存在してゐることを、我社は最近發見した。內務省に於て、大正10年頃から作成せられてゐた筈であるのに、少しも發表せられず徒らに埋れてゐたものである。尤も內務省の建築統計が公表せられなかつたには理由がないでもない。と云ふのは元來此の統計は經濟指標の資料として集計せられたものでないからだ。——中略——從つて統計作成の目的は專ら都市計畫事業の實施狀況に對する監督乃至は保安、建築警察の一材料たることに置かれてゐる。茲に右統計を發表せぬ理由が存在するものと思はれる。が、それにしても、かかる

貴重な資料が長年月の間、殆ど何等の社會的な活用を見ずに過して來たのは遺憾極る事態と評し得よう。將來は何等かの方法で公表されんことを希望する。――〃

これは、わが國の建築統計に對する第三者側の批判として最も注目すべき代表的な所論であると思はれる。が然しこれは、必ずしも敢へて建築統計に限つた問題ではなく、わが國では一體に廣く統計と云ふものはその性質上、數字の蒐集に最大の便宜をもつ官公衙を中心に作成せられるものが多いのは當然であり、然も此等はいつ、どんな調査や數字が發表されたか、一般民衆の目にとまらないで濟んでしまふことが多かつたことは事實であり、又民間側でも敢へてこれを發掘せんと意しなかつたもので、この點については官廳側も民間側も互に反省すべきことであると思はれる。

然も之は時潮にまたねばならず、又一つの機緣によらねばならない。時代はすでに建築統計の反省せらるべき動向へ流れつつあり、偶々高橋前藏相の日本經濟聯盟に於ての慫慂が機緣となつて、漸くわが國の建築統計も各方面に於て再檢討せられんとするの時機が到來したのである。

既に記したる中村寛氏の〃勞働者災害扶助責任保險法に基く建築統計〃及び北澤、伊東兩氏に依る〃昭和8年中我國(內地)に於ける建築工事費の推計〃の如き意義ある研究が建築雜誌に發表せられるに至つたのはその現はれの一つであり、更に東洋經濟の如き經濟雜誌によつて埋れてゐた建築統計が發掘せられるが如きも亦然りであつて、同誌の前述の昭和5年より9年迄の5ヶ年間の內務省の統計の解折の如きは、昭和8年の指數を基準とし之を經濟指標化し種々の類推を敢へてし、統計解折の技術の上からも民間の學ぶべきものを吾々に與へてゐる。

更に昭和12年度よりは次に述べるが如き二つの劃期的なる建築統計を得るに至れるが如きは吾々の大いなる喜びであらねばならない。

二つの建築統計

昭和11年、12年を境ひとして、二つの建築統計が生れ、又は生れんとしてゐる。その中の一つは商工省の建築統計であり、他は建築學會內建築統計聯合委員會の建築統計である。

先づ商工省は高橋前藏相の慫慂に刺戟せられて、昭和11年度に於て建築統計の調査費として年額3萬圓の豫算を計上し、これは結局1萬圓に減額の上承認せられて調査に着手、近く每月その結果が發表せられる事になつた。その調査の要綱は次の如きものである。

I　調査範圍

北海道廳	函館市
山形縣	山形市
東京府	東京市及接續2ヶ町村

神奈川縣	橫濱市、川崎市
石 川 縣	金澤市及接續１ヶ村（１部）
靜 岡 縣	靜岡市
愛 知 縣	名古屋市及接續 5ヶ町村
京 都 府	京都市
大 阪 府	大阪市及接續11ヶ町村
	堺市及接續 2ヶ町村
兵 庫 縣	神戸市及接續 5ヶ町村
	尼ヶ崎市及接續 4ヶ町村
	西宮市及接續 4ヶ町村
廣 島 縣	廣島市
德 島 縣	德島市
福 岡 縣	福岡市及接續 1ヶ町
	門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市

以上の區域に於ける市街地建築物法第143條第１項の規定に依る記事申請又は同第144條第１號若は第２號の規定に依る屆出に係る建築工事。

Ⅰ　調査事項

1、屆出又は認可申請月日

2、建築物所在地

3、建築主住所市名

4、建築工事種別

5、建築構造種別

6、建築物用途

7、建築物床面積

8、建築工事費

Ⅱ　調査單位

各棟毎

Ⅲ　調査時期

建築工事の屆出又は認可申請時

Ⅴ　調査方法

商工省より配布の建築調査票用紙を關係警察署へ備へ置き、屆出又は申請ありたる時１棟毎に用紙に該當事項を記入、各府縣知事は毎月１日より末日迄の分を取纏め翌月15日迄に商工大臣に提出、商工省に於て集計の上その結果を發表、

然して本統計の主要目的は、經濟指標の資料として、わが國景氣の動向を知るにあるを

以て、第1に毎月發表せられること、次に在來の統計が竣功、又は届出濟、認可濟の建築物の統計であつたに比して、認可申請又は届出の際の統計なるを以つて最も早急又敏感を意圖したるものなること、更に建築工事費の調査項目を有すること、調査範圍は各地方を代表し略々全國的の趨勢を窺ふに足るものなること等の特徴を有するものである。

如何なる形式で以つて發表せられるか未だその全貌は知り得ないが、之は既に昭和11年10月分より調査を始められて居るので、その第一回分の發表せられるのも近かるべく、一般から大きな期待を以つて見られてゐる。

次に建築學會は、昭和10年1月の役員會に於て〃建築材料及構造に關する社會的經濟統計作製の爲め新に建築統計委員會設置の件〃を決議し、又日本土木建築請負業聯合會は昭和10年度第17回の總會に於て〃土木建築統計に就き商工大臣宛陳情の件〃を報告し〃土木建築統計を作成するため其資料を各支部に於て蒐集し本部に報告するの件〃を可決する等建築關係諸團體に於ても漸く建築統計の必要さを要視し、遂に昭和11年始めより建築學會主唱の下に前記日本土木建築請負業聯合會及日本建築士會、建築資料協會、建築業協會の5團體が協力して、建築學會内に建築統計聯合委員會を設置し、建築關係の各方面に亘り統計資料の蒐集並に夫等計數の彼此對照による建築統計の確定を計畫、更に出來得れば建築年鑑の作成迄進めんとしてゐる。已にその調査の結果の1部は昭和11年10よりの建築雜誌に發表せられてある所であるが、その調査項目の概要は次の如きものである。

Ⅰ　建築經濟に關する事項

1、建築投資額　2、建築金融　3、國、府縣、及公共團體の建築に關する豫算　4、家屋賃貸額の變更に關する事項　5、家屋稅に關する事項

Ⅱ　竣功建築物調査

1、構造別　2、用途別　3、諸官公署建築統計

Ⅲ　物價及勞銀に關する事項

1、建築材料價格　2、勞働賃銀

Ⅲ　建築材料其の他

1、各種重要建築材料生產額調査　2、同　輸出入額調査　3、種類別建築費調査　4、地方別建築費調査

Ⅴ　建築勞務者調査

1、建築技術者調査　2、各種勞働者調査　3、各種勞務者就勞狀況調査　4、各種勞務者失業狀況調査

Ⅵ　住宅調査

Ⅶ　其の他災害統計等

この中竣功建築統計調査に就ては、既に昭和11年5月聯合會委員長より關係各府縣の警察部長宛調査方が依頼せられ、昭和12年中には其の集計が發表せられるものと思はれる。

その調査の内容は在來の内務報告例に依るものと大差はないが、構造別に於て鐵筋(鐵骨)コンクリート造と鐵骨造とを區別せられたること、6大都市及び福岡市に就ては毎月その調査が行はれるの差異が認められる。

住宅調査、その他の調査は如何なる内容を以つてせられるかは、その發表を見なければ詳細を知り得ないが、吾々はこの聯合委員會の建築統計に就いても亦大なる期待を持つていいものと確信するものである。

結びにかへて

以上の如き二つの建築統計を得るを一轉機として、わが國の建築統計或は廣く建築界の大きな飛躍が期待されねばならない。

第一に此等の建築統計は、今後は大新聞を初めとし、經濟或は一般工業に關する定期刊行物に毎月少くも折にふれては掲載せらるべく——既に東洋經濟新報は商工省發表の建築統計を指數化して各月掲載するを豫告してゐる——これに依つて一般社會人に對しては建築に對する關心を深からしめると同時に、建築關係者に對してもそれ等の社會的、經濟的な取扱ひに觸れしめて、ややもすれば不足勝なるこの方面の知識を供給してくれるであらうことの期待。

第二には同時に、内閣統計局を初め他の官公衙に於ても建築統計の重要性を再認識せしめ、或は在來よりの統計の發表を意識的なめしめ、又は新しい建築統計の作成を意圖せしめるに至るであらう期待、例へば少くも各府縣、各都市の統計書や建築統計の擴充化、乃至は統一化、及びこれによつてその累年的に加ふるに全國的なる集計の確得、更に住宅の國家的調査の確立等は容易に期待されねばならないものである。

第三に一般的建築界に於ても、或は建築統計への關心、或は建築統計の利用、更に建築結計の研充整備への努力への期待、例へばこれに依つて、ひいては本格的なる建築年鑑作成への期待が擧げられる。

然も、これ等の期待は更に相互的なものであり、その實現は加速度的に建築と社會乃至は經濟とを交流せしめ、以つてわが國の建築界の圓滿なる發達が豫期し得られる譯である。

以上

我等の空を護れ

矢田鐵藏

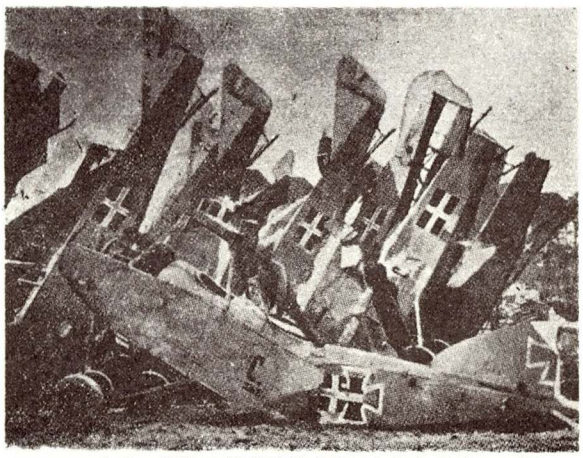
自己防護に鐵の如き意志を有する國民は空襲を恐れず（ヘルマン・ゲーリング）

1

戰爭は時代文化の粋を鍾めて行はれる。建築にも同じ事が言はれるが、一方は創造に使はれ一方は破壞に使はれた場合であるのも妙な對稱であると思ふ。科學の驚異的進歩は新らしい武器を生み出したが、それと共に戰爭の樣式を一變してしまつた。



アメリカ輕爆機一六機編隊



ベルサイユ條約の結果當時破却せられたドイツ空軍

平面的より立體的に

武力的——文化的

極地的——普天的

物理的——化學的——細菌的

爆裂彈、燒夷彈、毒瓦斯が普通に使はれる武器となるであらう。そして恐らくは將來戰に於ては病原菌（ペスト、コレラ、赤痢、チブス）等までも動員されて壯烈な黑兵戰を展開することであらう。そうなると最も有効なるワクチンを持つ事が、勝利の要素である。まさに空中化學戰時代の出現である。

2

戰爭は速かに勝つ事を貴ぶ。それがためには最も有効適切なる戰爭手段を採るものである。1899年ヘーグの平和會議に於て、航空機よりの爆彈投下を禁止して1905年迄は持續したが、其後世界大戰の

初期1914年佛軍は3萬の催涙性の瓦斯彈を始め使用した。その後窒息性、糜爛性瓦斯をも使はれた、遂に大戰の末期に於ては毒瓦斯による死傷が全死傷の70%にも及んでゐたのである。

その後1924年ジュネーブ會議に於て始めて細菌が毒瓦斯と共に人道上の禁制武器と定められた。

然し最近スペインの動亂に於てすら毒瓦斯の使用を報道されてゐることは、我等に何を暗示してゐるのであらうか。

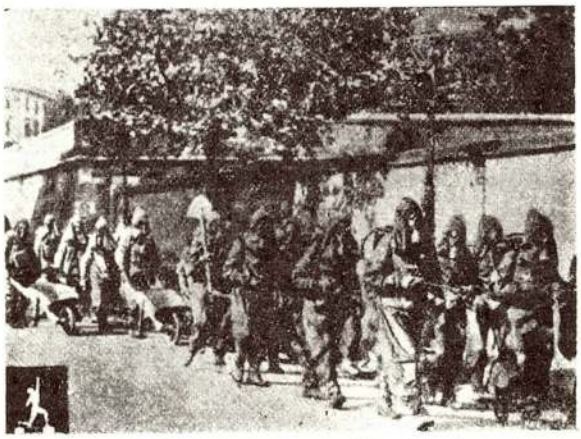
3

空襲——毒瓦斯——燒夷彈、これ實に開戰と同時に國民の覺悟すべき一大試練である。殊に阪神の地こそわが產業經濟の中樞にして軍需工業の核心である。直接好目標であるのみならず、地理的にも海岸に暴露され極めて空襲を受け易い狀況にある。現在の進步せる重爆機は、積載量5トンとして1キロの燒夷彈5000個を持つてくる事ができる。今敵機50が本土に接近したものとして、その中不幸にして5機が都市の上空を襲つたものとしても 25000個の燒夷彈を落すことになる。

然も都市を構成する建築が木造260 にコンクリート造1と云ふコンクリートの貧困では、到底その燒夷彈を30秒以內に消して慘禍を未前に防止しうるとは何人も信じ



ポーランドに於けるタンク隊による煙幕展開



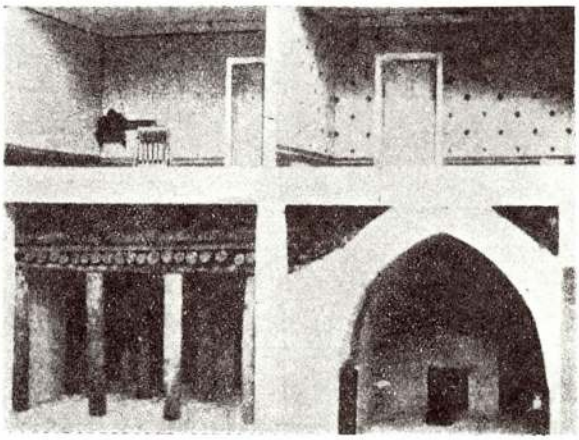
1932年夏に行はれた伊太利防空演習—防毒班の出動



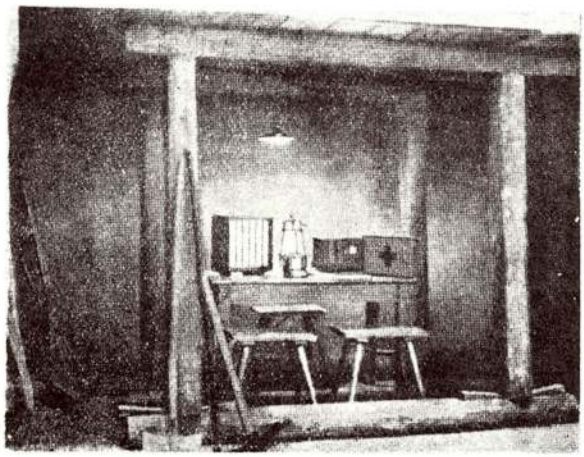
獨逸に於ける訓練



屋階に準備—砂、水、諸道具



伊太利に於ける住宅内避難室のモデルハウス



地下避難室の整備—ドイツ

得られないのである。都市の武裝を完備すると共に空の護りを強化することは刻下の急務である。

4

昭和3年防空演習が大阪に於て始めて行はれた。以後各地に於てその課程を進めた演習が行はれてきた。

國土防空に於ては單に軍部のみならず、國民軍隊が一致協力して之に當るべきである。わが陸海空軍は目下建設の途上にあり、民間航空界又列國に比して量的質的に著しい遜色がある。今にして民間航空施設の擴張を行ひ、防空機關の完璧を期せずんば、到底空の護りを完全にすることができない。防空法の實施は勿論急を要するが、外に民間飛行クラブ、防空飛行隊、飛行學校、防空學校等の建設擴充も極めて必要の事である。

今列强陸軍機の數を見ると

日本	800	イタリー	1500
英	2530	獨	800
米	2500	支	750
佛	3000	ソビエット	4000

特に露國は極東方面に約 400基の空軍を配置し、殊にその中沿海州には新式超重爆撃機(搭載量5トン)數十基が集中されてある事を見逃してはならない。防空は國民の一大義務である。

5

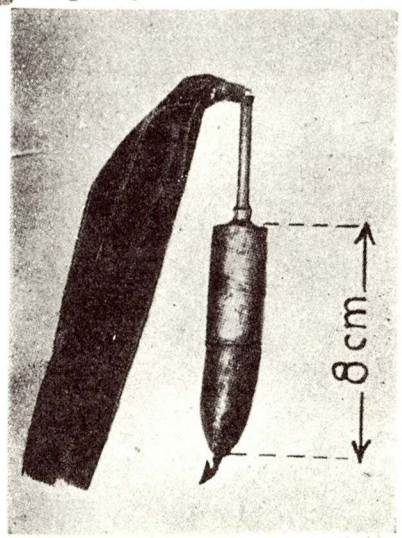


ソビエツトロシアに於ける娘子軍の行進

次期オリムピックの將來と共に、近年一般「スポーツ」の興隆は目覺ましきものがある。しかしすべてのスポーツは「國防スポーツ」として一朝有事の際は、實用的に効果的に役立つ様に、合理的に統制管理されることが必要であると思ふ。學生航空聯盟並びにグライダー滑空の流行は民間航空思想の普及向上に重大なる役をなしてゐると思ふ。我等は、自分の呼吸以外にあまりに空を知らなさすぎる。再に近年壯丁體格の低下が問題になつてきたことは、民族の發展の上から甚だ寒心すべきことであると思ふ。これには無論都市住居に關する原因もあげらるであらうが、一方積極的に國民的集團體操、集團舞踊の創設及指導は民族體格の向上並びに國民保健の點より見て極めて必要の事であると思ふ。

人材がすべてを決定するものである。

大戰中佛軍の使用せし燒夷彈の一種
リボンは落下速度を加減するために附したもの



爆撃ですべて破壊された住宅 - フライブルグ



6

嘗て前獨帝ウイルヘルム二世は和蘭の幽居に於て豫言してゐる。

『予は1937年に今一度恐るべき世界大戰が起ると信ず、その時の戰爭はホンの數日間否數十時間で終るであらう。しかも宣戰布告と同時に飛行機、飛行船、潛水艦等の出動によつて戰闘準備なき國家は48時間以内に滅亡するであらう』と。これは單なるカイザーの豫言ではなくして起りうべき一つの想定であると思ふ。

世界を襲ふ戰爭の危機に臨みて益々空の護りを強化すると共に、我等は1937年に於て緊張を新にすることが必要である。緊張とは六要素の完備に外ならない。

健康—訓練—勇氣—節制—敎養—注意

建築隨想

醉言時事片々

亀井幸次郎

内　容

§閑　暇　　§概念と通念
§農村住宅問題　　§日本の建築様式
§土地の評價

まへおき　人間も隨筆なものすることが出來る程常識が豐で且つ圓滿になれば一人前であると稱はれるのであるが、筆者が此處に隨想として年頭に書き並べたものは、そんなだいそれたものでなく、只單に、〝物言はざるは腹ふくるの思ひ〟と云ふ氣持を率直に吐露したまでで、いはば正月のお屠蘇の醉ひをかりて所謂くだをまいたと云ふ程度のもので、日頃頭のなかをへめぐつて居つた三、四のトピックスをとらへて遠慮容赦もなくぶちまけたものに過ぎない。だから、アカデミツクでないテーマもあるのも止むを得まいと思ふが、同時にそこが隨想の特徴ではないかと我田引水しておく。

○

閑暇　學生時代、閑暇に恐ろしく惠まれない生活を永い間續けて來た筆者は、閑暇殊に學生の閑暇に就て一つの見解を有して居つた。

閑暇は一の財產であり、且つ今日の資本主義社會では一の私有財產でもあると思つて居る。故に今日のともすれば私有財產が不公平且不正に分配され得る如く、閑暇が不公平且不正に分配されて居るかも知れない。又不正な分配によつて、獲得された私有財產が掠奪物であるやうに、不正な分配によつて享樂され得る閑暇も亦掠奪物であると云へやう。私有財產制度を公益の爲にする共有財產管理の精神を以て支持し得るとせば、この精神に反する私有財產使用が文明に對する背任であるやうに、そのやうな閑暇使用者は人類幸福の敵である。

この論の證明となるものに學生なる一の社會的地位がある。大部分、今日の學生は閑暇の產物である。閑暇は其本質上資本家の專有であるが、然し學生は如何なる種類の資本家團體よりも純粹な有閑階級的結晶體である。

生產の後に消費があると云ふ事は必ずしも事實でない。究極のはじめにおいて神が天地を創つたのである。人は力を養つて然る後に之を驅使する。故に赤ん坊の、子供の、病人の、而して學生の有閑階級的存在は許される譯である。

一般にかかる有閑階級は其生存を各個人毎に所屬してゐる團體即ち家庭の經濟生活における餘剩價値の大小に依賴して居るが故に、偶然と云ふこと以外に何等合理由なく、それぞれの家に生れて來た多くの中流上流家庭の子弟は、若し貧民の子弟として生れたならば扶育の不行屆の爲に恐らく生存が不可能であつたでもあらうと思はせるやうなぜい弱な體軀を以て生れながら、健康に成人する。

然しとに角、赤ん坊の、子供のそして病人の有閑階級的存在は目立ない、何故なればそれは一通り貧豐を問はず存在するからである。之に反して學生の組織する有閑階級は甚だ社會階級的である。（筆者が、ここで學生と云つて居るのは、高等教育をうけつつある者を云ふである。）

偉大なる我國の資本主義者福澤先生は、學問は金持の道樂であると云つたが、正にその通りである。今日の學問修業には私有財產と深い關係がある。現代の青年が高等教育を受けて居るのは、本人の希望、能力より、一層彼等が偶然生れ出てた家庭の私有財產に非常なる關係がある。或る家庭が

その子弟に高等教育を授けて居ると云ふことは、その家庭が教育に熱心であると云ふこと以上に、その家庭が富んで居ると云ふことを表はさんが爲めであることが尠くない。

無産者の子弟は、13歳にして既に無閑階級である。彼等と共に小學校を卒業した級友の2割だけが何にかの種類の上級學校へ行く。そして此の2割の者はそれ程秀才であるといふのではない。その家庭がそれ程富んで居ると云ふことを意味するのである。全數の2割の中に算へられる程の幸運者の更に幸運な何分の一かが高等教育を受けるべく進んで行く。少數の貧費生と苦學生を除いて、大學は私有財産制教團である。——そして學生は、閑暇を食べて生きてゐる。

私有財産としての閑暇が學生を學生たらしめて居る幸運を筆者は有難く思ふ。彼等がもし、勉學が共有の閑暇によつて行はれ、能力だけの競爭で選ばれるとするならば、勉學を許されないかも知れない程鈍材でありながら、私有である爲に現にそれが可能であると氣がついたなら、此の惠まれた過分の幸運を思ふて襟を正すべきである。だが然し、彼等がたとへ、此の過分なる幸運をば、より多くの資格を持つ他の人に讓渡すだけの機會と勇氣とがないとても、それを享受しつづけて行く自由を束縛することは筆者には出來ない。何故なれば、如何なる鈍材と雖も、まじめに教育を受けて行くならば、恐らくは、それ相當の利益は收穫出來得るからである。

然し乍ら、私有閑暇の故に學生としてあり得るものは、彼等の既知の、又は未知の、多くの彼等と同時代の小學校優等卒業の無産者の子弟で、今日或は機械工となり、小作人となり、馬方となり。タイピストとなり、女給員となり、さては妾ともなつて居るものが、彼等學生達に投げてゐるであらうところの鋭い眼光を良心を以つて感じなければならない。

贅澤だけを知つて飢餓を知らない有産階級が、贅澤を知らないで飢餓だけを知つてゐる無産階級の警告によつてめざめさせられたのは、歴史上の習慣のやうに見える。けれどそれは決して幸福な習慣ではないのだ。小學校出た時の八割の、更に其の數を增して來てゐるはづの同年輩の無閑階級が、この社會的意識濃厚な（特に2.26事件以後）今日、如何なる思を以て、大學生を考へて居るか想像してみるがよい。更に、晝間激しい勞働によつて生活を支へながら、夜學に通つて僅かに智識欲を滿足させなければならない秀才の家の二階を借りてゐる大學生が、講義と閑暇に飽きて學業を忘つて居ることが、如何なる感想を毎日その秀才に與へつつあるかを想像して見るがよい。

中世紀の下層民には屈從とあきらめがあつた。が然し今日の無産階級には、階級的反感と冷笑とが生れ勝ちなのである。

學業の爲めの閑暇が如何なる價を以て購はれるべきかを知りたい人は、午後9時から9時半頃まで、神田（東京）の學校街からの近い省線驛（お茶の水又は水道橋）のあたりに佇んで見るがよい。夜學生が自己の勞働によつて購つた、尊い然も其の品質の頗る劣等る閑暇によつて貧るが如き學修をおへて、直に死の如き眠りと明日の勞働とに壓迫を感じながら、街路の空氣を震はして潮のやうに流れて行くのを見るであらう。

貴族、選民特權階級等、これ等の文字は、時代を追ふ一般庶民には、流行（はやら）ない。——特に事件後は——しかも學生は、まさにこれ等である。時には過分なる閑暇が私有財産制の保護の下に不當な程に與へられて居る、況んや公益の爲めの共有財管理の名目の下に、かく分配され、享受されてゐる閑暇が、惡用され且つ空費されるとする

ならば、人類幸福並に文化の進展への敵であるとさへ云へるであらう。

資本主義の擁護の下に、將來は學士になり、高等官になり、重役になり、或は又著作家にさへなり得る美しき期待まで添えて、現制度の寵兒の如く閑暇を貪れる學生階級に對し、全無產の青年子弟達が鋭き注目をはじめつゝある時相を筆者は指摘したい。

○

農村住宅問題　內務省の調査によると、農民の體格は不良で、その乳兒の死亡率もまた多いと云はれて居る。これは商工業者の體格やその乳兒死亡に比較しての話であるか、或は從來一般に想像してゐたよりもその成績が不良であると云ふのか、その點明瞭を欠いて居るが。學校教育に從事する者、軍隊に關係を有するもの等、そのいづれを問はず、都會と地方との出身者の健康狀態を比較することの便利を有する者の言によれば、大體から見て、都會出身者の身體は脆弱で、地方出身者のそれは丈夫であるといつてゐる。都會生活者は比較的學校教育の程度高く、且衞生思想に富み、また設備もよいので、一見よく發育してゐるやうでも、恰も溫室育ちの草花の如く、その抵抗力は強い方でないが、地方に成長したものは、どこか不均齊のやうなぎごちなさはあつても、野生の草木の寒暑にめげぬ頑健さがあることは確である。

然し乍ら、田園生活者が世人の想像する程に健康でないことも事實である。田園は日光あまねく行き渡り、新鮮なる空氣と自然の美に富むが故に、たえず そこに住んで、廣濶なる田野に出で、勞働し生活するものが、所謂烟煙黃塵が萬丈する都市に居住する者よりは遙かに健康である樣に思はれるのは自然であるが、實際は必ずしもさうでない。都市にあつて、たまたま田園を訪れる者は、只その一瞥によつてその美にあこがれを持つが、深く農夫の生活に立ち入つて見れば、必ずしも健康に適し、これを增進するやうな條件ばかりがそろつてはゐない。即ちその仕事に非衞生的なものがあり、その榮養に不充分なものがある事も否めない事實である。そして都市生活に比して著しく感ぜられるのは、傳染病、寄生虫或は其の地方特有な病源が蔓延し、加ふるに、醫療機關の不備、飮料水の不良等が擧げられるばかりでなく、不衞生的な住宅施設と來たらお話にならぬ程度のものが多い。

都會の人々が汽車の窓より、田園の農家を遠望する時、こんもり繁つた樹木にかこまれて、夏は照りつける日光を蔽うて凉しく、冬はあれすさぶ北風を防いで暖かに、いかにものどかな樣に想像されるが、事實は決してさうではないのである。かの田園詩を釀して居るあの美しい防風林ですら、ややもすれば繁り過ぎて日當りを惡くし灌漑その他に利用するいはゆる『ため池』の水を腐敗せしめて居るのである。

又其處に存在する住宅の構造と云へば、敢て羽仁もと子氏の婦人の友による東北農村生活改善運動の報告にまつまでもなく、その多くは一面のみが開放され、他の三面は時にはふさいだ窓を有する厚壁で圍まれ、且つその周圍には稻藁を積んだり薪を置いたりして、採光、通風、乾燥ともに不充分たるを免れぬ譯である。又農村住宅に於ける便所は、肥料壺を兼用するものであるから、それは構の奥まつ　所に設けると、田圃への肥料運搬に不便であるばかりでなく、便所と厩とが接近しなければ厩から引き出した寢藁の堆肥に糞尿をそゝぎかける不便がある。更に厩と臺所とが離れてゐては、臺所の使ひ水を牛馬に飮ませたり、殘飯を運んで與へるのに勝手が惡い。殊に雨天の日など、傘をさしながら主屋と厩との間を往來するのは、おかみさん達の

最も忌み嫌ふ所である。かゝ　事等が一般に考慮されて、臺所とうまやと便所とは接近して建てられる場合が多いのは、農村住宅を調査したところ何人にも周知の事實である。而して、臺所、厩及び便所の此の三者が、採光通風の便の悪い居室や寢室と相接續して存在するだけでも頗る非衞生的である譯である。或は又生活と切り離し得ぬ飲用水を得る井戸などでも、之等の附近に堀られてあるので、多くは淺くして、外輪等が不完全で恐ろしく不衞生な狀態にあるのが尠くないのである。

即ち農民の生活は或は健康を左右し得る住宅の多數が以上の様な狀態であるが、此の不完全な住宅に於て、終日の勞働につかれた身體を休め、家族が團欒し、小兒が養育されると云ふのであるから、まことに氣の毒であるばかりでなく無理な話でもある。これまで强健な國民の養成所のやうに考へられて居つた農村の壯丁の健康が、比較的悪い狀態にあり、且つ乳兒の死亡の多いのも、以上の如き狀態からして、決して不思議の事ではない。農村疲弊の聲高く、又農村より離れんとする青年の多い時、農村の住宅問題の解決は容易でないとしても、深甚の考慮を拂ひ、之れが改善への對策を練る事の必要は勿論て、農民の健康を增進させ、田園生活の興味を眞に豐ならしめる事を約束することであると同時に、農村の能率を高め、彼等が職業に對する愛着心を增大せしめ、所謂農村振興に寄與する所甚大なるは敢て論を俟たない。

從來住宅問題と云へば、都市ならびに郊外居住者のみに就て屢々論じられたところであるが、現代の如く、都市計畫も、地方計畫的手法に於て初めて効果あるものであることが發見せられた今日、更に間口を廣げて、農村の漁村の住宅問題にも建築家の喜こんで、之れが解決に參與したいものである。

○

土地の評價　既成都市の都市計畫事業を遂行する場合に、何日でも事業に支障を來たす一つの事項は、地價の問題であらう。

元來、土地の評價は單純なる技術上の問題に過ぎなかつたのである。即ち科學と算盤との二つによつて、鏡の映る像の如く、或は又權器に斤量が示される如く、只一つの答を出せばよかつたのである。

如何なる强慾の鼻突合においても、交涉中止を希望せざる限り、結局双方からこれに適從するの他は無い譯である。一方の都合に若しこれを曲げようとするならば、必ず他の一方が逃げてしまふからである。

然るに社會が學問を粗末にした結果我國のやうに地價の高い土地の問題のやかましい國にして、尙時々の出來合相場を目して、評價額と名つくるが如き、馬鹿々々しい誤解を流行せしむるに至つたのである。その上に人の委託を受けて大切な財產を管理利用する者が、往々信任を背いて、相手を通謀するの悪習を生じたのであの。

一般國民の如く無邪氣に人を信用する者が、知らず知らずの內に間接的な損害を受けて居る場合が尠くないのは、決して評價法の罪ではないと思ふ。最近大阪驛前の區劃整理地區の場合の如くやゝ大規模な土地取引において、評價と稱せるものが實は根據のない僞物である様に思へてならない。

土地の評價に就ては、一日も速く簡易確實かつ透明なる土地評價を實現し、都市計畫事業遂行に於ける一つの癌を取除く様にせねばならないと同時に、これを悦ばざらんとする陰險な氣風も排除せねばなるまい。

普通、當面の責任者が、一旦の口實の爲めに、附近、近市の取引相場を引證するが如きは、小兒をも欺く事能はざる沒道理あらうと思ふ。何故なれば、彼等は、あらゆる手段を用ひて、豫めの如何なる先例價で

も作ることが出來るからである。のみならず、其處には盲目無鐵砲な思惑をもつて土地を買ふ者が、大阪以外の府縣にも澤山居るからである。評價の原理を無視した者の買價などは、幾つ集めたからとて、評價の基礎にはなり得ない筈である。

經濟の變化や收入平均の安全率をも參照せず、みだりに附近の頗る輕慮なる取引相場を例として、所謂世間相場を合認せんとするが如きは、取りもなほさず將來の都市計畫事業の危險性を誘導するものであらう。

○

概念と通念　吾々の日常生活には、誤られ易い言葉と云ふのが無數にあるが、近頃使用されて居る言葉で、政治や經濟や或は都市計畫等の問題でよく出て來る言葉で、最も誤られやすい言葉が二つある。所謂「概念」とか或は「通念」とか云ふ言葉が即ちそれである。

昔から我々の先祖は——少くとも一部の賢い人々は——物事を概念化して、さも眞實であるかのやうに腦裏に描くことが上手であつたらしい。善政とか仁政とか云つて庶民や人民或は國民等を勝手に頭の中に描いて見て、その上に政治を行はうとしたのが即ちそれである。今の世の中で**庶政一新**だなんて云ふ一種のお題目も實はそれであるかも知れない。何故なれば、政治が奉仕であるといふからである。

所謂官僚政治とか云ふものも、此の「概念」の政治的典型であると同時に今日の政黨政治の如きも實は同類のものではなからうか。

閑話休題、ひと頃しきりに無產政黨なるものが我國に續出したが、今後も尙、同種のものが樣々な看板を押し立てゝ出現するであらうことは容易に想像される。

前記の如く、國民や人民を概念化したのは官僚と有產政黨の所產であるとされて居るが、同樣に無產階級を概念化して生れ出たのが無產政黨であるかも知れない。

勞働組合であるとか、農民組合等の基礎が未だ固まらないのに、その地盤の上に無產階級の「概念」が生れ出でた譯である。であるから、勞働農民黨が生れると、日本の農民組合の分裂となり、社會民衆黨が出現すると、長い間の傳統を誇つて居つた勞働總同盟までが分裂することになつたのである。之れは階級を「概念」化して出現した政黨が、一般庶民の階級的地盤の上に立つて居らない事を意味するものであらう。

次は「通念」と云ふ言葉であるが、現代我々の社會生活を營んで行く上に使用されて居る言葉で、此の「通念」といふ言葉ほど誤られ易い言葉はないであらう。

時折り、都市計畫委員會などで、重要議題が上程される時、特別委員に附議されて審議されるのが普通であるが、かゝる場合議題の說明或は討議中屢々〃社會通念〃と云ふ言葉が要領よく使用され、議案の通過に重要な役割をなし遂げる場合が尠くないが、さてその〃社會通念〃なる言葉を吟味してみるとその內容が一向はつきりしてない場合が尠くない。これは、政府の役人が此の「通念」といふ言葉で誤魔化さうとして居るのではなからうか？　否之れは決して誤魔化さうとして居るのではない。確かに「通念」だと獨斷したまでの事である。即ちそれが所謂政府役人の、或は官僚の「通念」といふのかも知れない。

最近新聞及其他の雜誌紙上で、司法官が盛に此の「社會通念」を振り廻して、日々の社會事情を判斷せんとする傾向のあるのが目に付く。

多くの場合官僚や役人或は政黨の所謂社會通念は、特權階級や有產階級だけの「通念」で、それが現代では社會通念となつてやつぱり概念化されて、我々一般庶民階級の上に君臨して居るのであると思ふ。

ひと頃、政治の倫理化であるとか、或は又正義化であるとか云ふ言葉が流行したことがあつたが、これなどもその一例であらう。即ちそれは、それ自らが正義であると信ずる自信の上に描かれた社會正義であるからである。

官僚有產政黨や特權資本階級に限られた正義が社會通念として概念化されて行くとき、勞働組合のなかにも此の「概念」と「社會通念」とが浸滲して行きつゝある事を認める。

例へば、勞働組合と云ふものは、その性質上純然たる職業組合であり、或は又企業組合であると獨斷して仕舞ふのは資本家の社會通念であるが、その反對に、勞働組合は鬪爭團體であり且つ階級團體であると定めて仕舞ふのも勞働者階級の獨斷であり、社會通念でもあつた。即ち、資本家と勞働者との間に於ける「社會通念」が斯如驚くばかりの相違があるのである。

同じ一つの社會でも階級がちがへば同じ一つの**社會の通念**でも相違を來たすのは當然な譯であるから、資本家や有產政黨の所謂社會正義も、勞働者や無產政黨のそれとは、勢ひ相違を來たすのは、困つた事であるが止むを得まい。即ち數學を扱ふやうに、1に1を加へれば2と云ふ樣に簡單に行かないばかりか、1が2の代用ともならないところに「概念」と「通念」との遊戲が介在する餘地があるのかも知れない。で結局、現代では1の知らぬ間に他の1が自分に都合のよい樣に物事を概念的に定めて仕舞つてそれを今日の社會通念として獨斷して居るのではあるまいか。

○

日本の建築樣式　最近、日本の少壯有爲な建築家仲間の話題となり、且つ喧々囂々裡に、いみじくも又勇ましき討論又は議論に各自の熱を擧げて居るものに〃日本建築の樣式〃と云ふ、誰れにでもとつつき易く又何人にも解決し難い問題がある。之れなども換言すれば要するに〃概念〃と〃通念〃の遊戲でしかない樣に思へる。

獨創性の、創造性のさては想像性のなどゝラヂオの歌謠曲の歌詩みたいな言葉を並べて嬉がつて居るのなどは正にそれだ。(建築雜誌、昭和11年11月號參照)。各大學の教室を代表する新進オエラ方の閑暇のたしなみとして一應その價値を認める譯であるが、結局「概念」と「通念」の遊戲に終るのでなければ幸ひである。

筆者は嘗て〃日光を見物しないうちは結構でない〃と云ふ言葉を頭から信じて日光見物をした時、飛越の獅子の正面に燦然としてそびへてゐる有名な陽明門の前に立つた事があつた。この前に立つてゐると、只うつとりとして日が暮れるのを忘れるといふところから俗に日暮門と稱へられるのださうであるが。然し形は普通の八脚樓門で別段變つた建方ではないのである。たゞ細部が惡どいほど飾立てゝゐる點が人目をひくのである。組物の四手先、腰物の三手先といふ手のこんだ詰組であるばかりか、尾垂木の端といはず、兩端といはず、木端といふ木端は何れも獅子頭、龍頭、龍馬などの丸彫になつて居り、それ等の組物の間の羽目もまたことごとく極彩色の彫刻がはめ込んであるのである。その上、柱とか桁とか貫のやうなものに至るまで色どりをした彫刻のない部分といふものはないのであるから驚く。そればかりか三遍五遍七遍といふやうな贅澤な金銅飾金物が無數に打つてあるのである。或專門家の說明によると坪當り約15萬圓(今の金に換算して)といふことであるが、たつた9坪內外の門であるが、1坪の建築費が15萬圓といふのは世界でもそんな類例は多くあるまい。

だが然し、手は込んで居り、金はかゝつて居る日光廟內の建築は確に立派なものに相違ないが、筆者には尠くとも田舍娘が自

粉をこてこてつけて花簪や花櫛をでかでか差したやうな趣でしかなかつた。何となく卑俗で、むやみに光りすぎて居て武人の靈廟の門としては、どうも不似合である様に思へて仕方がなかつた。

秀吉によつて起された豪放濶達な桃山建築のあとを受けながらこんなせゝこましい、細部ばかり氣を配る手法に墮したのは、當時の政策であつた鎖國主義が、かゝる建築に自らにじみ出た爲めと思はれるが、又こんなところまで時代精神が現はれる建築自體の事を顧みると、建築の様式なんて、學者の概念の遊戯等からは決して創生されるものではない様な氣がする。

當時の幕府としては、如斯一見無駄の様に見へる建築も、無駄どころではなく、大いに必要であつたのかも知れない。何故なれば、諸大名から金をまき上げ或は諸大名を威服する上にも、かゝる建築を起す必要があつたのではないかと思ふが、しかしそんな點は別としても、廟建築つてものは人間本然の慾望であるかも知れない。即ち死んでもまだ生きてゐたい、と云ふ思想のあらはれか、或は死んだ祖先をいつまでも生かしておきたいといふ憧憬であるかも知れない。そして之れは、何も此の日光廟にはじまつたことではなく、之れは五千年もの いにしへの、ピラミツト建築以來、人間はずうと續けてゐる思想であるに相違ないが、しかし現代では、(勿論例外はあるが)一人の人間のために、こんなに金をかける事は何んと云つても無意義の様に思へる。一體墓から何が生れた、廟から何が生れた、そしてピラミツトを作つたエジプト人は今はどうなつて居るかを考へて見るがよい。

現代では尠くとも、一人のための大建築は廢れて、萬人のための建築がもつと盛に起らねばならぬ筈だ。即ち學校であとか、民衆の慰樂休養場であるとか、或は工場又は廉價住宅等の建設が、現代の建築學の適切なる應用を以つて行はれねばならないと思ふ。

現代の工場の如く疾病と肺病の製造所の様なものを、現代建築醫學(こんな言葉は適當でないかも知れない)の應用と活動とにまつて工場天國を築き上げるのが、現代建築家のなし得る報國の一端ではないか。

筆者は、現代が次の世に殘し得る最善の、そして最美の大建築は工場でなくてはならぬと思つて居る。

無秩序で不衞生で且つ又危險極まりない現代の工場が驅逐されて、大勢の人々が氣持よく働ける様になすところに現代社會の必然的要求があると思ふ。そして美的で清潔で、設備のよく整つた工場建設への努力、そこに現代建築の將來性があり且つ大工場建築が一建築様式として後世の人々が、思考し得る何物かを殘し得る餘地が存するかの様に思へる。

成程、東照宮と工場とを一つにして論ずるのは無茶かも知れない。だが然し、筆者は、大きな建築つてものは時代の番犬であると思つて居る。主人がほへろと云へば吠るし、お預けといへば、いつもちつちやくなつて居る。だから秀吉の時には、町の中に大阪城が出來るし、鎖國主義を嚴守した秀忠や家光の時代には、山の中に東照宮の如きせせこましい建物しか出來なかつた。宗教が勢力を得れば寺院がむやみに建ち、戰爭が盛んになれば城がやたらに築かれる。そしていつでもその時代の通り動いて居るので、これは、何れの國でも同様なことで、あへて史實に俟つまでもない。でかかる時代の昔では、權力のあつたものといつたら王侯か坊主に定つて居つた。だから昔の大建築といへば、きまつて城か廟か寺院に限られて居つた。その意味に於て德川の初世に此の東照宮が建築されたのは當然であると思ふが、然らば現代の大建築は、

といふことになれば。——今の主人の聲に聞かなくてはいけないのは勿論である。即ち一人のための建築でなしに、もつと民衆的な、生産的なものでなければいけないと云ふ現代の聲の通りになる筈である。

如斯であるが故に〃日本建築の用式〃が少數の建築家の概念からは、創生されるのでも又は創造されるのでもない事は、わかりきつた話であると思ふ。早い話しが、四年後に行はれるオリムピック建築にしたとて、さうである。結局それは、現代の日本の社會思潮の流れが輿論となつて建設されるので、ひとり建築家だけの高遠な或は高踏的な理想と學理で建築されるのではなく、むしろ建築家は只單にそれ等の時代の要求或は社會の輿論をそのオリムピック建築の上に表現すべく、建築學的に又は建築技術的に參與が許されて居るに過ないのである事を深く認識せねばなるまい。

だから、輿論を代表するそれ等の時代的要求が、現代少壯建築家の意志に反し、それが彼等の所謂建築文化の敵であるとしても、これは、どうする事も出來ない譯だ。

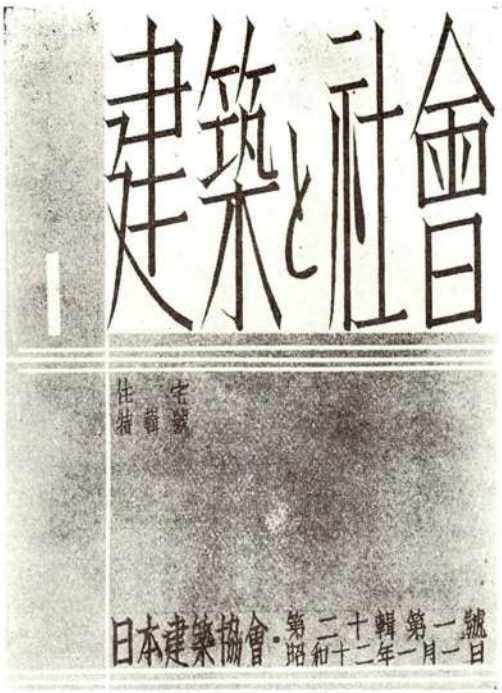
やれ合理主義の、機能主義のと、そんなことを意志的に振り廻さなくとも、所謂建築家以外の時代的要求なり、輿論の流れを、冷ややかな科學の檢討の上に整理し、率直に之れが建設に參與すればよいのではないか。何故なれば、凡そ現代社會の、建築的あらゆる存在は、それは決して建築家の資本や、意志や或は理想で出來たものは恐らく一つもないであらう。即ちそれ等は、建築家以外の資本の力、社會の經濟的要求、或は建築家以外の社會的輿論が、建築家を使驅して建築を具體化せしめたに過ぎないと思ふが故である。

だから、現代社會が反動的ならば、反動的建築が行はれるのは必然的で止むを得まい。

現代の世の中には、前述の如く、一つの〃日本的〃と云ふ概念のなかにも、それ等所謂文化的使命なる事を心配して居る少壯建築家の〃日本的〃もあれば又、それ等のオエラ方が反動的であると獨斷して仕舞つてゐる〃日本的〃もある譯なんである。同じ建築家仲間ですらかかる〃日本的〃が存在する譯なんであるから、況んや、建築家以外の社會にも一般に〃素人〃なる言葉で片付けて仕舞ふ現代社會の民衆の氣持を代表する〃日本的〃も存在する譯なんであるから始末が悪い。互に頭のよさを振り廻す様な討論會や座談會などは早く精算し、民衆の聲や要求に深甚の耳を傾注すべく互に寬大に且つ一致團結して、出來るだけ早く、現代の、社會の〃日本的〃な思想の流れを把握して、其の上に〃日本の建築〃を建築すればよいのではないか。



1等　暗號（泉）　福井　滿



佳作　暗號（敬）　中村武雄

表紙圖案審査概評

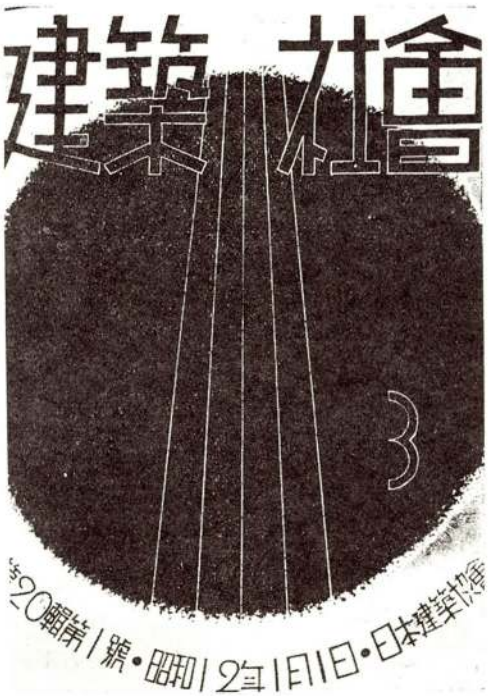
審査概評

石川純一郎

本誌に使用すべき表紙圖案の懸賞募集は、9月號誌上に廣告され、11月末日を以て締切り、50餘通の應募圖案を得た。

これを12月4日開催の審査委員會に於て愼重審査の結果別項の通り、當選案1、佳作案3を選定した。

今この50餘作を通覽して痛切に感ずることは、程度の差こそあれ何れもそこに藝術的内容の不足さを示してゐることである。「單なる思ひつき」「一寸した面白さ」といふ樣なものは、藝術的價値判斷の下に決して我々は組しない。それは所謂アンネームリツヒカイト（宜しさ）にしか過ぎない。藝術的價値は全く異つた高さに高められてゐる。私は今こゝで藝術價値論を述べ立てやうとも思はないし又その紙數もない。しかし「建築と社會」の表紙圖案を――一般に社會に印刷流布される雜誌の表紙圖案を考察製作するに當つては最も謹嚴な態度を持してかゝらなければならないことを强調して置きたい。〔建築と社會〕の表紙は單に一雜誌のものに過ぎないのではなくして更に大なる意義を持つてゐる。



佳作　暗號（晃）　　紺谷昌亮



佳作　暗號（煙）　　中村利正

人間の藝術的衝動並びに美の欲求は單に純粋の個々の藝術品の創造のみに滿足せずして、我々の生存條件の全體をも征服せんとする。かゝる人間の熾烈な藝術的欲求——所謂美的文化的意義を考へる時、「建築と社會」の表紙圖案の藝術性は單に一雜誌のものとして終らず更に社會的な重要さを帶びて來る。

私は今回の應募者の大多數がまだ若い恐らく20代の青年だと推定されるので敢えて敎訓がましい言を弄し、注意を喚起し、次回募集の際には是非最も熱烈なる藝術的良心の監視の下に飽くなき藝術的內省を切望する。

しかし本號に使用した當選案は應募案中に於ける白眉であつた。斷然他を引き離してゐる。審査委員の全部はこれを推した。尤も審査員中の一二の人は、これに對して一言二言文句が無いでもなかつた。ある人は印刷効果の上からは佳作の中村利正氏の案を寧ろ取ると云つた。しかし結局其他の點を綜合して考へると、この當選案を支持しなければならなくなつた樣で、遂にこの案は全委員一致當選案とした。

この案はかなり複雜な、しかし一種の味ひと落ち付きとを持つた青色と白との對比を基調とし、それに黑色を以つて全體の調子を强化せんとしたものである。

案はそのまゝ本號表紙に使用してあるもので、その構成に就いてはこゝに詳述する必要もないが、たゞ作者の採用した特色ある青色は印刷の結果全くその色調を失はれ、それから來る微妙なニュアンセは出てゐまいと思はれる。（この評を書いてゐる時にはまだ表紙が印刷されてゐないので斷言するのは危險だと思ふが、先づ先づ原作の色の味は失はれるものと豫想してゐる。審査會の時にも、この青色の印刷再現困難の理由で、その案の推薦を躊躇された委員もあつたのであるが、實際はこの點は應募規定に製版種別程度及び紙質等

詳細な指示をなさない以上この案を減價すべき理由とはならないとも考へられる。）

題名文字は宗朝風な樣式の適度なスレンダーネスを持つた格構へで極めて新鮮瀟洒な感じを與へ、實用的にも甚だ明快で讀み易く、かゝる應募案に於て屢々陷り易い新奇を求めて難解不明確に墮することがない。殊に適當な間隔と周邊の餘白とはその氣品と暢達さとを感ぜしめられる。

もしこの案で最も大きな缺陷を指摘するなら中央白色部分に置かれた協會マークと特輯表示文字の構成の杜撰——推敲の未熟の點であつて、これは委員の大多數が認めた點であつた。

私は前文に今回の應募の總てに程度の差こそあれ藝術的內省の不足さを認め得ることを云つた。私はこの當選案の作者が甚だ優れたる素質の持主であることを思つて再びこゝに敢えて苦言を呈したい。

なほ色彩分劃の割合殊に上部及び下部の青色及び中央の白の三段分劃のプロポーションに就いて一部の委員から異見が出た。この點非常に微妙な問題であるとは云へ、藝術に忠實なる作者は更に再考して悔ひないと信ずる。

要するに一等當選案は、色の採擇に於て、又その配置に於て、文字の構成に於てその賢明さは十分に認められ、その表現も亦よく成功して作者の意圖は明らかに感得出來る。

協會の機關雜誌たる「建築と社會」の表紙としてその氣品とアッピールとは殆んど難無きに近い。

佳作三案は全應募案に對する個々の審査委員の最大公約數とも見らるべきもので、ある特殊の意味に於ては選に洩れたものの內に寧ろよい高く評價さるべきものもあることを斷はつて置かなければならない。

それは兎に角として佳作中村利正氏案は、白地の中央3分ノ1程の幅に、黑色の極めて細線の文字にて題名を橫書とし、その右終端に赤色の矩形部分及びその上下に赤色文字にて協會名其他を配置した極めて簡潔な處理のものである。しかし題名文字はあまりに細線に過ぎ、その格構へ及び配置の未熟も手傳つて稍明快を缺いたことは惜しい。しかし審査會の一般的空氣はこの案に對してかなり好評であつた樣に私は感ぜられた。

紺谷氏案は周圍を點ボカンとした極めて明快な綠色の圓形を白色地の中央に置き、白抜きの5本の細線を以つて放射的にこの圓を縱斷せしめてある。題名は上部に稍太き黑色文字を以つて表はし、下部には圓形に添ふて、協會名其他を出してある。

他に同一作者の案と思はれるものなほ二案あつたが、何れも應募案中の異色で、その技巧の巧みなのと相俟つて審査員の注目を惹いた。

しかしこの佳作案にしても下部の協會名其他の文字のみを圓形に添はせて凹形としてその處理法、中央圓形を縱斷する白線の太さの割合、全體的に色彩配合の點等再考の餘地は十分ある樣に思はれる。

中村武雄氏案は「建」字を暗示すると思はれる白抜き細線を以つて全紙面を縱橫に4區分し、右上の部分のみ白地としてこゝに黑色文字にて題名其他を出し、他の3部分を赤色としたもので、その赤色部分は赤の平塗でなく、フリカケによる梨地のものである。この點印刷再現困難との說もあつたが、それは兎に角として、藝術的效果の上から云ふと非常に調子の弱々しいものとなつてをつて、恐らくこの案の重要なモーチフたるべき「建」字を暗示する縱橫の劃線の豫想されたであらうほどの效果は出て來ない。

一般的に云ふとこういふ低い調子のもの必ずしも捨て得ないが、商品としての雜誌といふ點を考へるとも少し高い調子のものが望ましいのではあるまいか。

この點は中村利正氏案の題名文字に就いても云へそうに思はれる。

以上甚だ概括的ではあるが、審査委員會に於ける主なる意見を代辯し、審査概評を試みた。しかし私の筆足らずは十分その意を盡してゐないことを虞れるし、又私個人の意見が全體を色着けてしまつて他の委員の意見が多少歪曲せしめられて傳へられるかも知れないことを危ぶんでゐる。

終りに應募者各位の御努力を謝し、更に今後の御精進を祈つて擱筆する。（12月13日東上車中）

思つたまゝ

角尾篤彦

今回募集されました表紙圖案は前回同樣殆んど文字計りの配列を要求せられ、其の上機關誌としての內容の性質上硬からず軟か過ぎずといふ言外の意味が多分に含まれて居る爲に目先の變つた考案は殆んどなかつたことは當然の結果だと思ひます。應募圖案を拜見致しますと何れも以上の點に意を用ひられた爲か從來種々の雜誌の表紙に似通つたもの、殆んど同一とも見るべきものが大多數を占めて居て飛びはなれた案は僅少でありました。從つて審査の範圍は二色の面積の均合の巧拙と、之に配置する文字の巧拙とに狹められました。こうなると青寫眞で應募されたり、硫酸紙に描いたりした方には分が惡くなります。又全面を所謂裝飾文字で埋められたのなどは文字の配置には相當面白味がありましたが機關誌としての內容と表紙圖案との一致點を見出すのに困難を感じました。

入選圖案（暗號泉）似通つた橫圖の內種々の方面から見て最も優れた穩健な作品であります。黑と青の配色に文字がしつくりと落着いて內容に對する表現も無難だし文字の上手なのも氣持がよく選に入つたのは當然と思ひます。

强ひて難を云へば迫力が少し足らないのと、中段白色の部分の文字と協會のマークの位置が一寸氣になりました。

マークは下段の青の部分へ移した方が一層よくなつたのではないかと思ひます。

佳作。佳作の三通は夫々異つた傾向を持つた作品でありまして甲乙を定め難い作品でありますが、入選作品とは少しく距離があります。暗號（晃）は目先の變つた氏の圖案の中で一番よいと思ひます。圖案のテクニックは非常に熟練した腕を揮つて居られますが何處が種本の臭ひがぬけきらぬ厭ひがある樣に思ひます。暗號（煙）はこの種の烏口を用ひた圖案の中で一番纏つた案だと思ひますがもう一つ締つた力が欲しいと思ひます。暗號（敬）は非常に優れた圖案とは思ひませんがこの傾向の圖案の內で全體の纏りと文字がすらすらと伸びやかな點で捨てられぬ作品だと思ひます。

以上の佳作の外に全體のまとまりのよいものが二三ありましたが文字を主體とした表圖のことでありますから結局文字の上手な方を選びました。

思つたまゝ感じたまゝを書きました。申し過ぎた點は御許し願ひます。

會報

通常總會

1. 昭和11年11月30日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て昭和11年度通常總會を開催す
1. 出席者次の通會員61名

加田　安彦	黒田　茂	三浦　茂
中野順次郎	中西　六郎	中西　一郎
和田治郎市	平野　忠雄	清水　榮二
小泉嘉四郎	樋口辰太郎	久保田種吉
松井清之助	鳥井　信	本田　長次
松本　禹象	佐藤　榮吉	村井　進
荒木　正巳	澁谷　五郎	井上　福藏
新名　種夫	小川　陽吉	伊藤　武文
森本　藤吉	田中　秀彦	内藤　亮一
安井　武雄	松浦松之助	伴野　貞三
佐々木一雄	保木本信二	矢野　七郎
平井　英一	清水　升	佐溝　武雄
中田　猛	吉村　孝義	久保田英雄
竹花　末春	本多　正道	楠瀬　澈
津田　敏雄	羽原　德衛	阪下　圭彌
吉本政次郎	嶋　昇次郎	渡部　圭吾
龜井幸次郎	中村　武男	島田　艮馨
山口　松次	西村駿一郎	鈴木　孫市
安藤　芳雄	杉本　正一	鈴木　末尾
白鹿　政典	鈴木　一	森島　輝夫

（次第不同）

1. 午後6時15分一同着席開會副會長安井武雄氏議長となり本通常總會は去る11月26日開催致しましたが出席會員定數に滿たざりし爲總會成立せず流會となりましたので本日は再度の招集なるにより定款第24條但書により定數なく總會成立に付開會する旨を告げ豫て通知せし如く次の事項を行ふに付投票ありたき旨を宣ふ
   1. 監　事　　2名の選擧
   2. 評議員　　半數改選
1. 議長投票の締切を告げ右2件の開票及採點は同時に行ひたし就ては開票立會人の選定を一任されたしとて之を諮り異議者なく次の通指名依囑し開票を行ふ

開票立會人

監　事	津田	敏雄
常　務	加田	安彦
同	本多	正道
會　員	黒田	茂
同	伴野	貞三
同	三浦	茂

1. 次で議長より之より議事に移る旨を述べ先づ次の報告あり
1. 昭和11年度事業報告
   中西主記常務より別紙報告書を朗讀報告あり右に對し議長より質問の有無を問ひたるも質問者なく次で議長より御承認と認めます中西主記常務より本報告書は此處に置きますから後刻御覽を願ひますとて議場の机に置く
1. 次に議長より次の件を議したし
   細則一部變更の件（別紙原案）
   議長より全員に配付の原案に付朗讀あり次で中西主記事務より内容詳細に說明す
   會員中西一郎氏より會員相互の親睦云々の件に付質問あり中西主記常務より親睦を計る方は倶樂部室に於て充分出來ることに昭和11年度よりなつて居る故に本變更の例會の方は主として智識の普及を計ることに致したいのであると說明了解あり是に於て議長より別に質問の有無を問ひ贊否採決の結果可決と決定
1. 昭和10年度決算報告
   清水主計常務より別表詳細說明あり次で松本監事より本件査閲するに誤謬違算等なきことを證明報告あり議長より質問の有無を問ひ質問者なきを以て夫れでは御承認せられしものと認めてよろしきや否を問ひ承認のことに決定し次に本件に關聯して
1. 昭和10年度剰餘金處分の件
   に付議し先づ清水主計常務より說明あり質問者なく異議者なく可決したり
1. 昭和12年度收支豫算の件
   清水主計常務より別表原案收入及支出に付詳細說明あり次で議長より質問の有無を問ひ質問者なきに付贊否を問ひ異議者なく滿場一致

原案可決したり

1. 次で議長より右にて議事の終了を告げ選擧開票の結果に付次の通報告あり

1. 監事2名選擧　投票總枚數 626枚（總票數1.252票、內白票30票無効2票）
（但し投票1枚に付被選擧者2名連記無記名投票とす）

當選　596票　冨士岡重一氏
同　585票　渡部圭吾氏
次點　9票　小川陽吉氏
（以下略）

2. 評議員半數改選　投票總枚數 642枚（總票數1.926票、內白票34票、無効2票）
（但し投票1枚に付被選擧者3名連記無記名投票とす）

當選103票 瀧澤眞弓氏　當選102票 鈴木一幸氏
同101票 森本　藤吉氏　同 99票 久保田英雄氏
同 98票 棚橋　諒氏　同 94票 船本　晋氏
同 94票 中澤誠一郎氏　同 94票 桐本　楠雅氏
同 92票 伊藤　武文氏　同 91票 井上　福藏氏
同 91票 吉田　信武氏　同 90票 楠瀨　澈氏
同 90票 鈴木忠五郎氏　同 90票 竹花　末春氏
同 90票 杉浦　巴氏　同 90票 中野順次郎氏
同 89票 武田　經一氏　同 89票 山本　千吉氏
同 89票 樋口辰太郎氏　同 89票 中井新一郎氏
次點2票 今林彦太郎氏　次點2票 姫野　武氏
同 2票 伊藤　和夫氏　同 2票 東畑　謙三氏
同 2票 巽　純一氏　（以下略）

1. 是に於て議長より總會終了の旨を告げ閉會す時に午後7時35分

1. 本議事錄の代表署名者に付議長より之を諮り議長指名に依り下記二氏を指名し承諾を得たり

久保田　種吉氏　　鳥井　信氏

評議員會

1. 昭和11年12月3日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す

1. 出席者次の通評議員29名監事1名

評議員

井上　福藏　伊藤　武文　猪瀨幸太郎
小川　陽吉　片岡　安　加田　安彦
桐本　楠雅　久保田種吉　久保田英雄
黒田　茂　酒井勇三郎　清水　榮二
新名　種夫　杉浦　巴　鈴木忠五郎
竹花　末春　武田　經一　棚橋　諒
鳥井　信　內藤　亮一　中井新一郎
中西　六郎　中野順次郎　中村　義雄
樋口辰太郎　堀口　甚吉　本多　正道
三浦　茂　吉田　信武

監事

冨士岡重一

1. 午後6時30分開會會長理事片岡安氏議長となり只今出席者23名なり定款第24條に依り評議員全員の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げ豫て通知したる如く次の選擧執行することを宣す

第1　定款第17條に依る理事3名選擧
第2　定款第20條に依る會長1名副會長2名選擧
第3　定款第17條に依る常務12名互選

1. 次で議長より右選擧方法に付衆議に諮り評議員加田安彦氏より前例により投票選擧に代ふるに詮衡委員制を用ゆることの提議あり依つて議長より之を衆議に諮り異議者なく詮衡委員制に依ることに決議し續いて議長より該詮衡委員の人員及選定に付其方法等を諮り議長一任となり議長より次の5氏を指名し承諾を得たり時に6時33分

加田　安彦　黒田　茂　鳥井　信
中野順次郎　三浦　茂

1. 是に於て詮衡委員は別室に於て直に同委員會を開く此間評議員會は休憩することを議長より宣す

1. 午後7時評議員會再會
議長より只今詮衡委員より次の通選擧することを報告ありとて之を朗讀す

理事會長　片岡　安氏
同　副會長　竹腰健造氏
同　副會長　松本禹象氏
常務　井上福藏氏
同　伊藤武文氏
同　小川陽吉氏
同　加田安彦氏
同　清水榮二氏
同　新名種夫氏
同　中西六郎氏

同　　中村義雄氏
同　　中澤誠一郎氏
同　　樋口辰太郎氏
同　　堀口甚吉氏
同　　吉田信武氏
（50音順）

1. 次で議長より右本日選擧するも理事は登記の關係上本年12月19日を以て就任することを附言し且右選擧に付其贊否を問ひ異議者なく贊成可決したり
1. 尙議長より本會の議事錄代表署名者に付諮り議長一任にて次の二氏を指名す
　井上福藏氏　　本多正道氏
1. 議長より選擧終了に付本日の評議員會は閉會する旨を宣し散會す
時に午後7時10分

會員動靜

入會者

會員

井上福太郎君　神戸市林田區大池町3ノ127（兵庫縣營繕課）
板垣精治郎君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋藤ヶ谷1423ノ1（大阪府營繕課）
岩本基君　市外千里山大學前（竹中工務店）
蕪木信祐君　住吉區松崎町2ノ31 鈴木方 安井武雄建築事務所）
幸木貞夫君　豐中市新免1104（大阪市役所臨時校園建設所）
叡持剛君　尼崎市難波中通6ノ140（日本電力株式會社）
權藤友藏君　東成區南生野町3ノ60（大阪市役所營繕課）
瀨川庄三君　特別贊助員より轉格
田中幸太郎君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字苅屋290（株式會社大林組）
竹內政治君　神戸市灘區弓木町2ノ10（大阪市役所營繕課）
谷垣宣二君　住吉區西今川町4ノ38（大阪市臨時校園建設所）
中島勝喜君　港區抱月町3ノ4（竹中工務店）
中島竹松君　住吉區田邊東之町6ノ2（竹中工務店）
仲忠博君　住吉區昭和町中5ノ15湊方（野村合名會社地所課）
永澤清信君　住吉區天王寺町2265ノ1
塙信君　普通贊助員より轉格
宮脇福松君　尼崎市西本町北通5ノ171（大阪市役所營繕課）

地方會員

坪井善勝君　和歌山市和歌浦町中屋別宅方（和歌山縣營繕課）
森野和夫君　京城府初音町135（朝鮮殖產銀行庶務課）

普通贊助員

川崎吉之丞君　堺市南三國丘町1ノ12（田淵方）（堺市役所技術課）
小西小三郎君　岸和田市別所町150（岸和田市役所土木課）
辻本義男君　府下布施町森河內486（大阪市役所）
土岐俊吉君　東區上本町4ノ608（自營）
藤田弘君　北區南同心町2ノ4（大阪市役所臨時校園建設所）

退會者

會員

高田理平君

地方會員

坂永金重君

特別贊助員

北條禎三君

普通贊助員

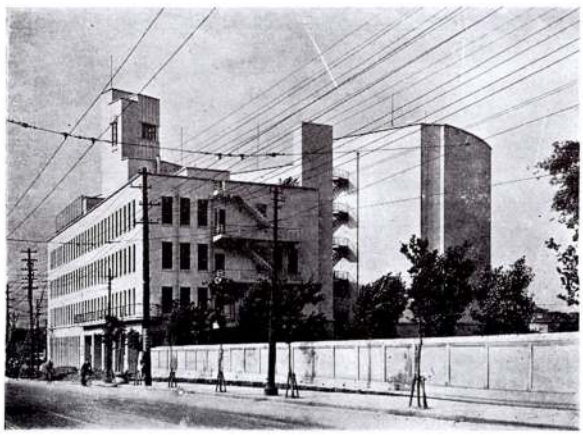
和田敏男君

死亡

普通贊助員

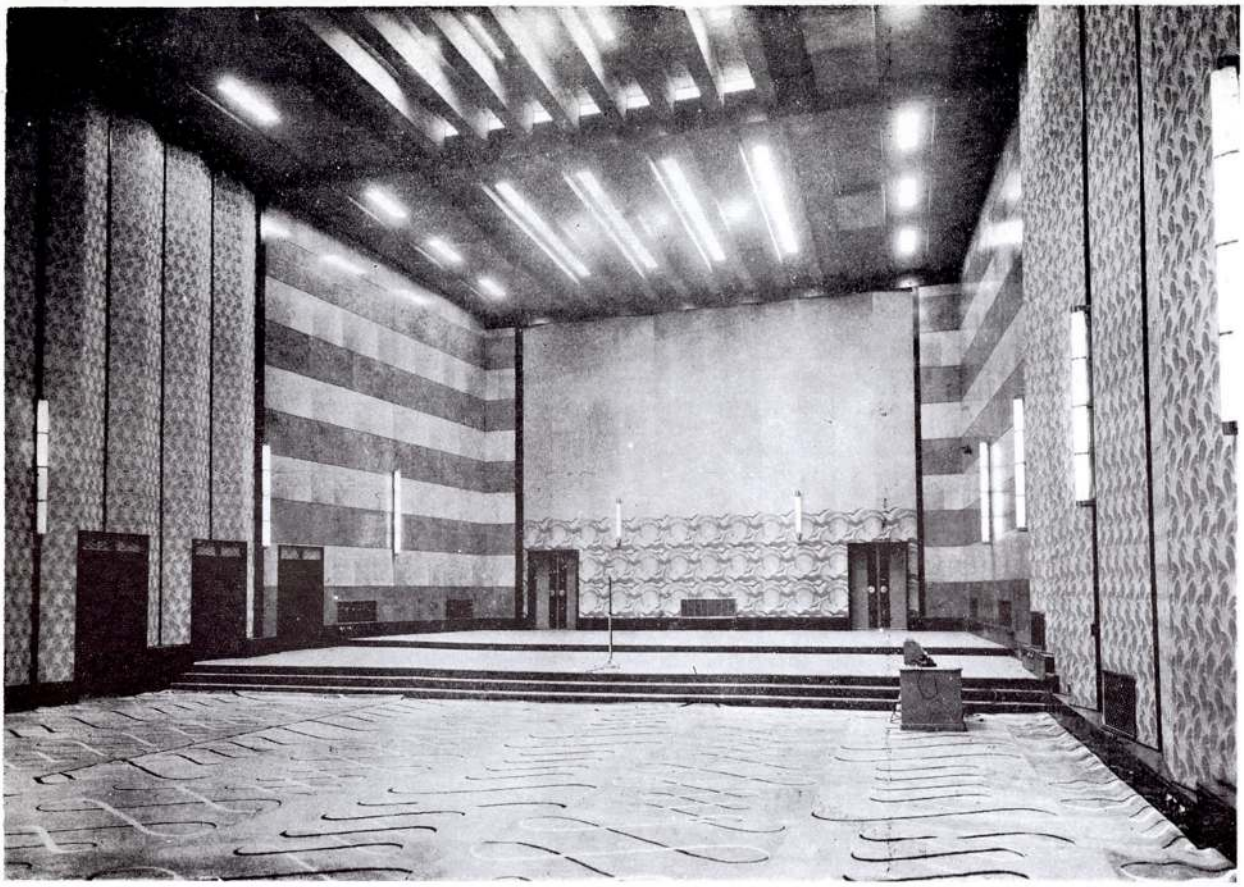
播野安兵衞君　昭和11年12月6日逝去
（謹んで哀悼の意を表す）

正面外觀



背面

“大阪中央放送局” 設計・渡邊仁建築工務所・施工・大林組



第 1 ス タ ヂ オ

大管絃樂・大コーラス・ラヂオドラマ・音樂附物語等の放送に使用

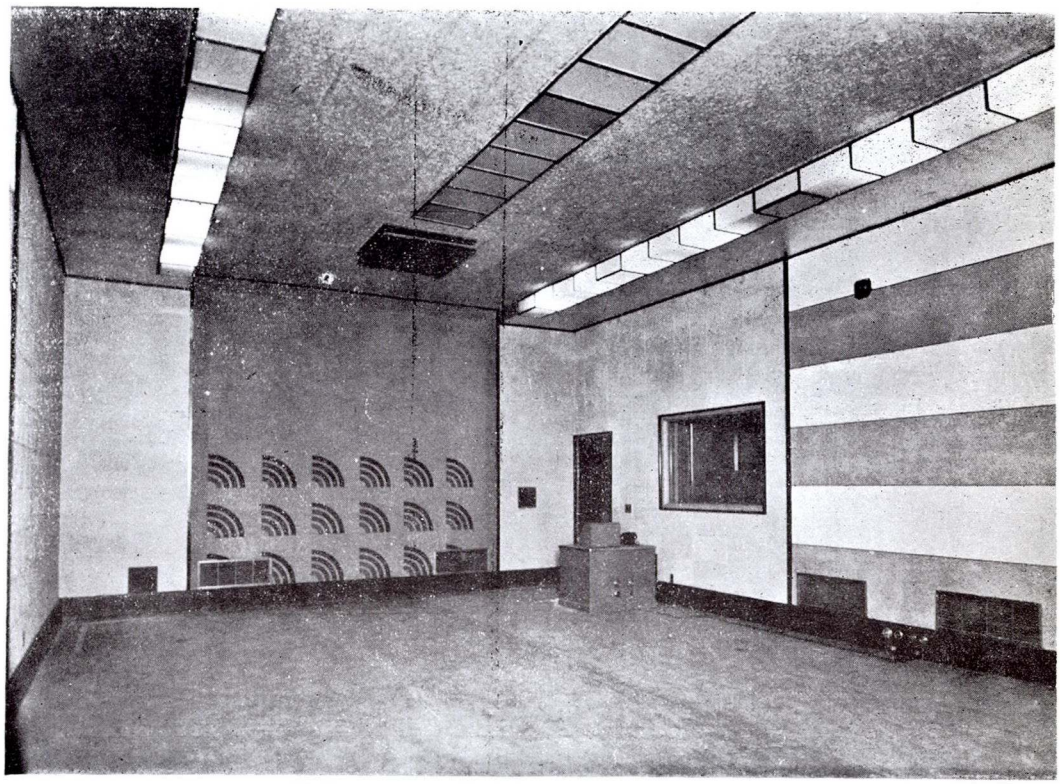


玄 關 廣 間

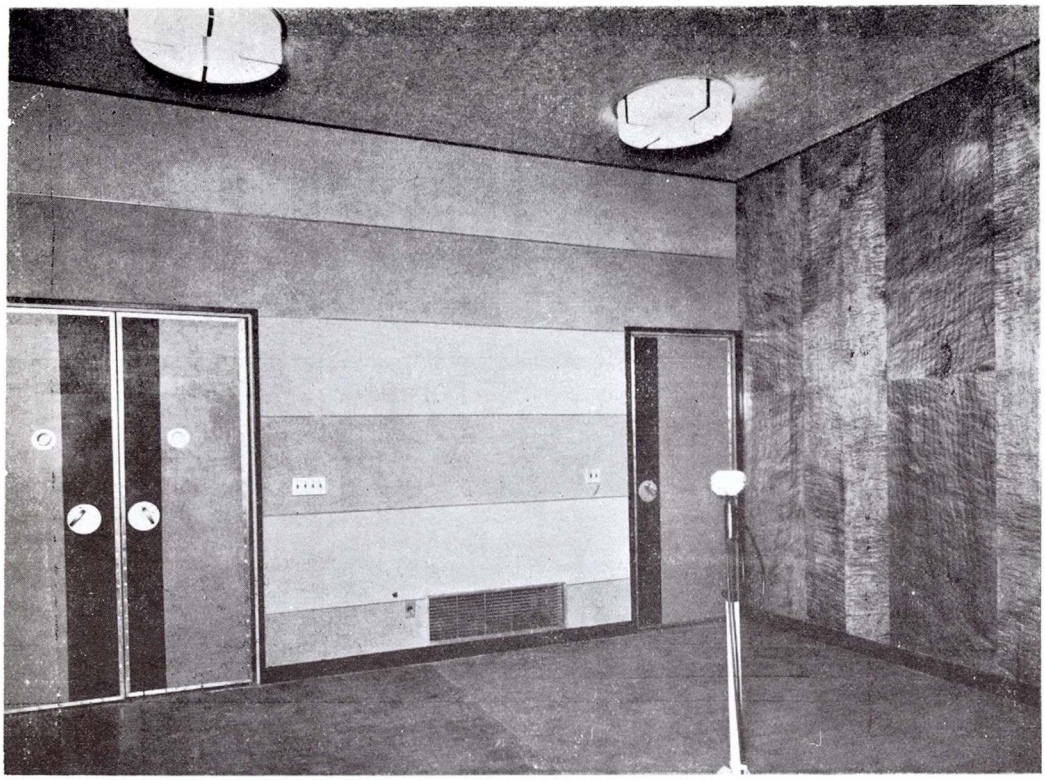
12 “大 阪 中 央 放 送 局” 設計・渡邊仁建築工務所・施工・大林組



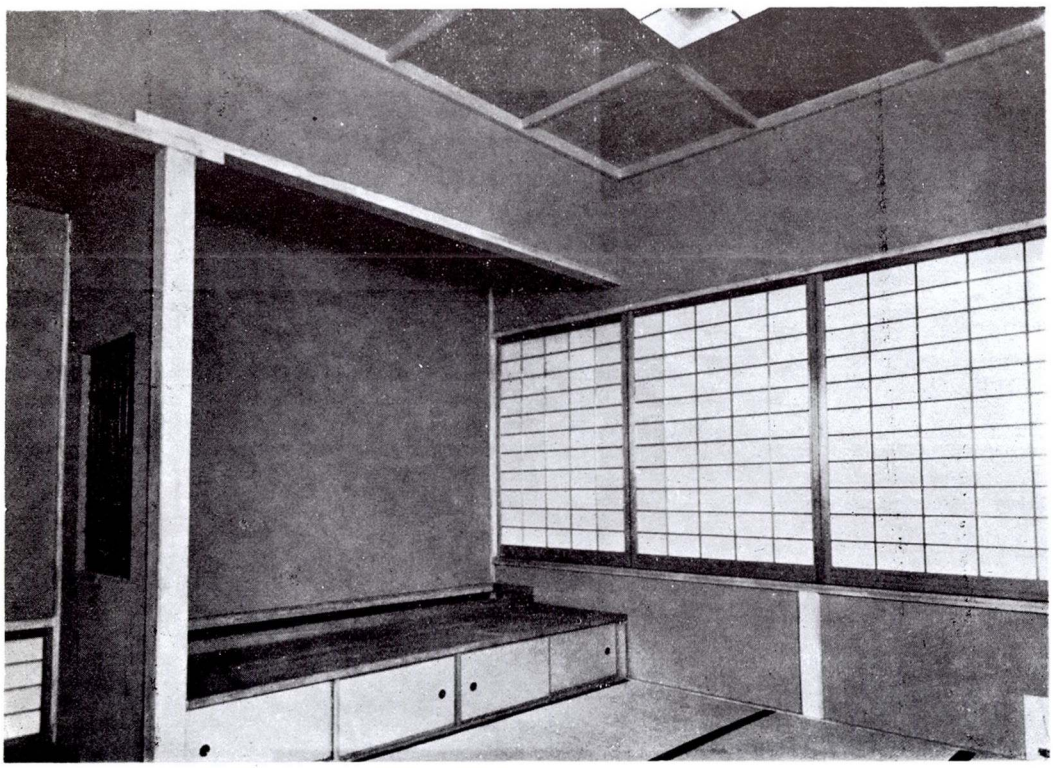
第2スタヂオ（管絃樂・ドラマ・コーラス等放送に使用）



第3スタヂオ（舞臺劇・大形式和樂・童話劇・童謠・唱歌等放送に使用）



第5スタヂオ（和樂・俚謡・諸演藝放送に使用）

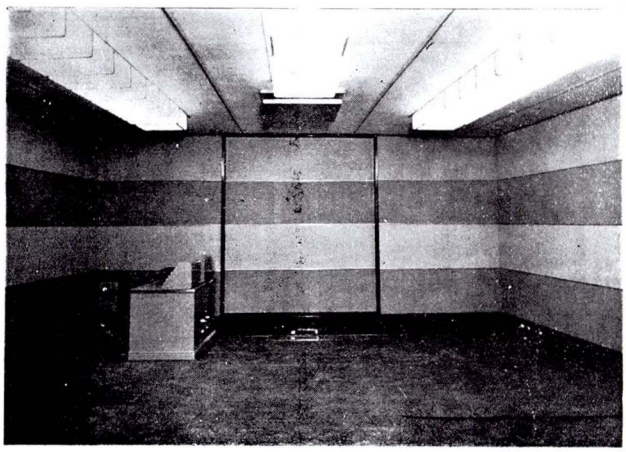


第6スタヂオ（小唄・歌澤・琵琶・箏曲・三曲合奏等の放送に使用）

14 “大阪中央放送局” 設計・渡邊仁建築工務所・施工・大林組

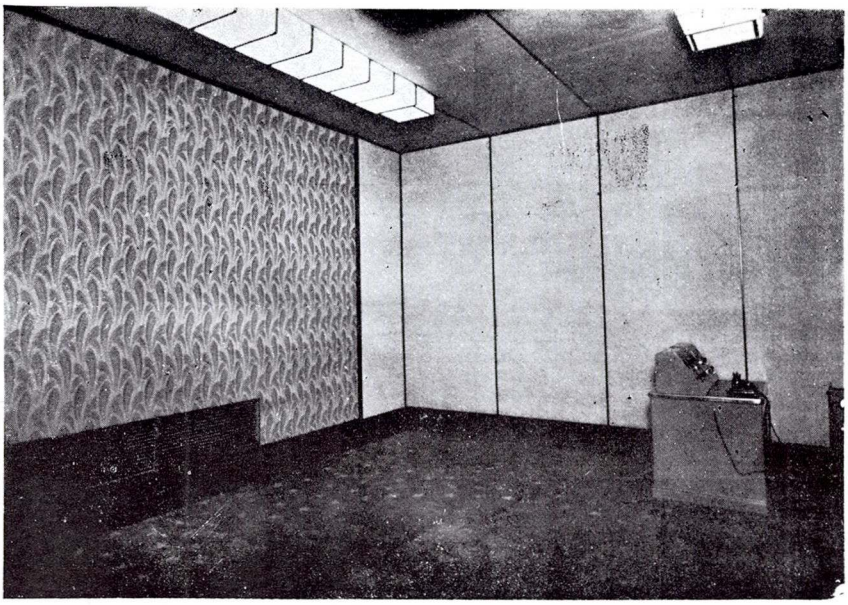
第 7 ス タ ヂ オ
（器樂獨奏・室內樂等放送に使用）





第 8 ス タ ヂ オ
（座談會・雄辯大會等の放送に使用）

第 9 ス タ ヂ オ
（音樂講座・講演の放送に使用）

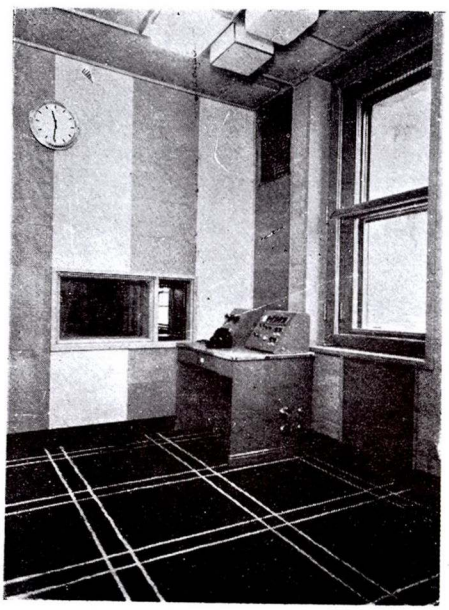


第 10 ス タ ヂ オ
（講演・講座等の放送に使用）

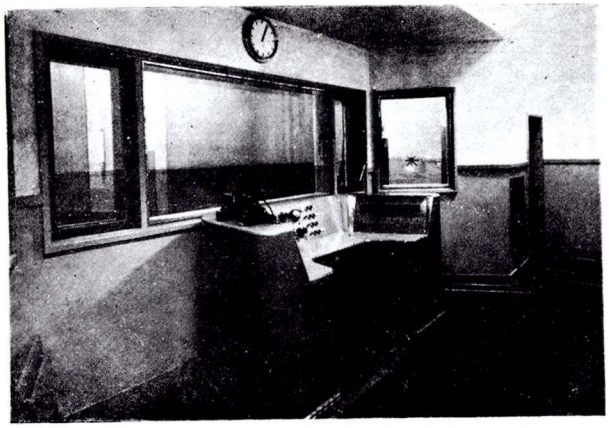


'6 “大 阪 中 央 放 送 局” 設計・渡邊仁建築工務所・施工・大林組

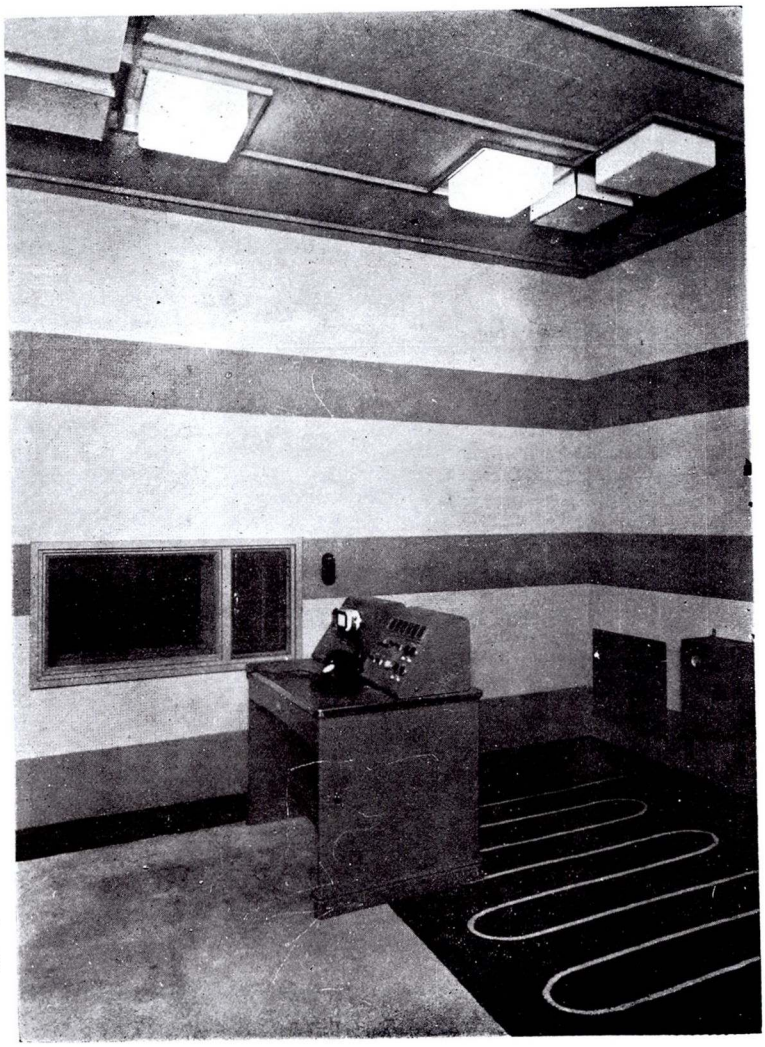
豫備スタヂオ



第11スタヂオ
（ニュース・氣象等の放送に使用）



第 2 副 調 整 室

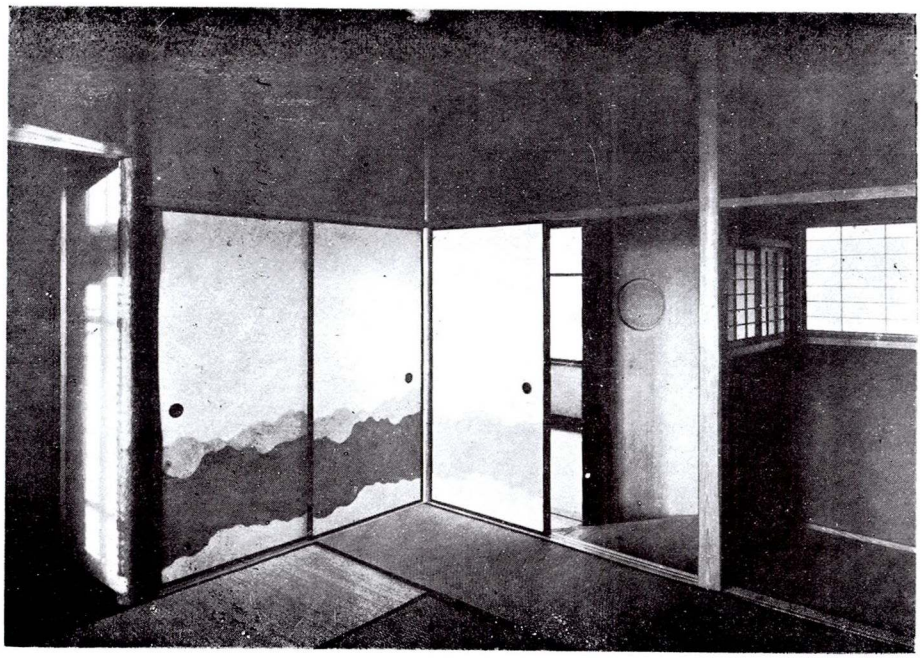


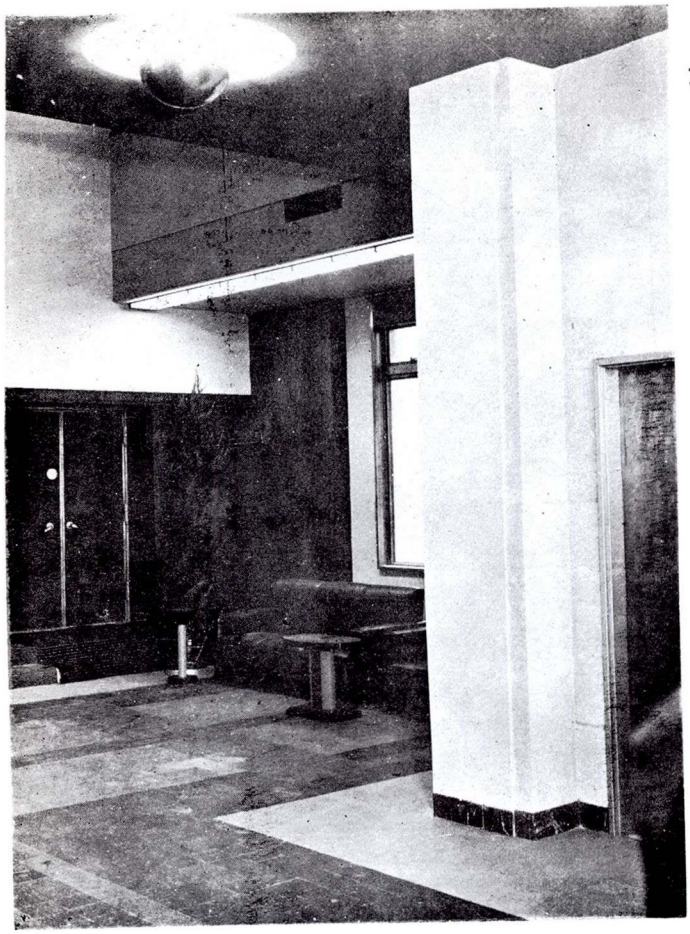
第 12 ス タ ヂ オ
（市況・物價等の放送に使用）

貴　賓　室

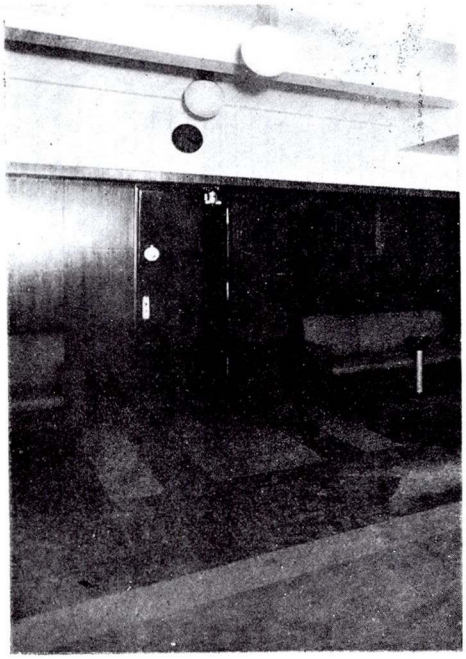


日本物放送者待合室

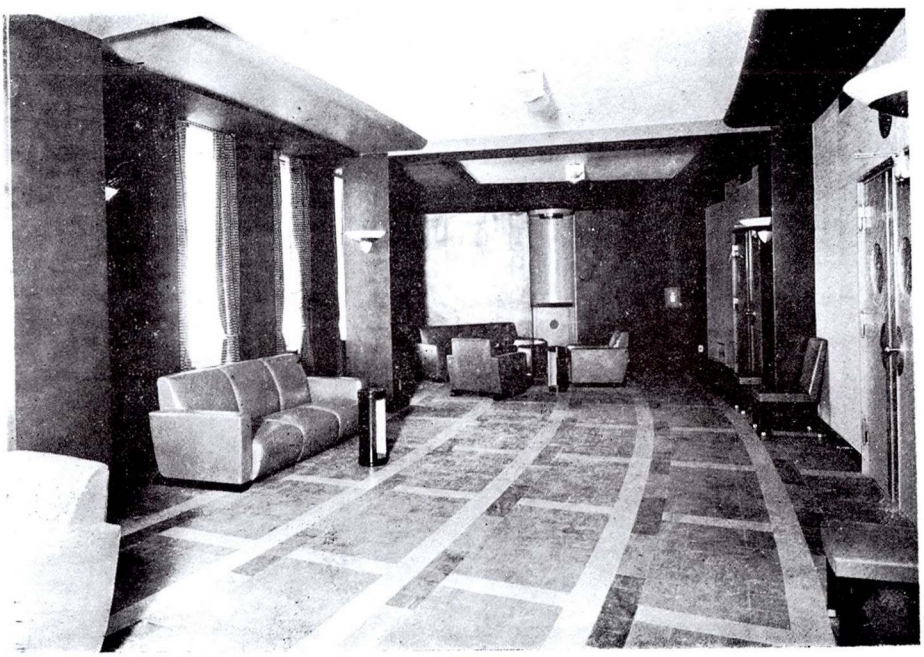




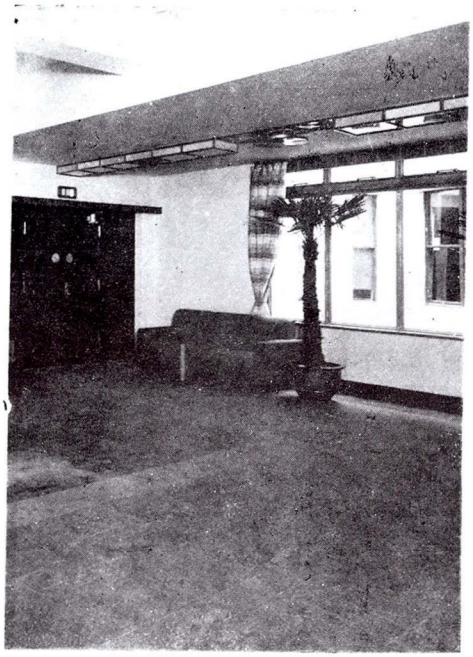
玄關休憩室



放送者休憩室



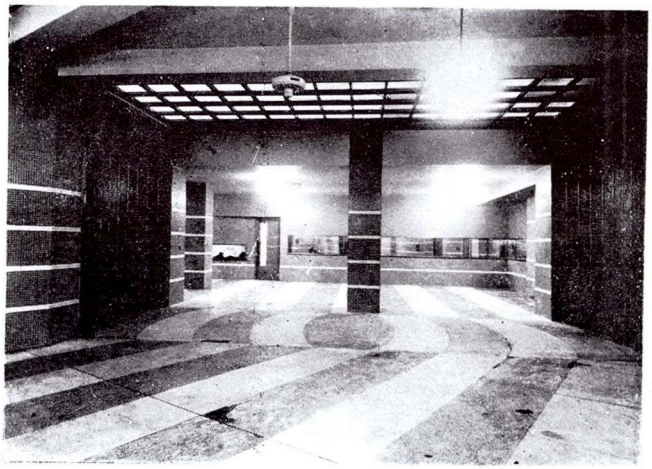
110 “大阪中央放送局” 設計・渡邊仁建築工務所・施工・大林組



2 階 休 憩 室



會 議 室



地 下 室 食 堂

大阪中央放送局々舍新築工事概要

位　　置　大阪市東區馬場町6番地ノ4

工　　程

起　工　昭和9年2月19日

竣　工　昭和11年10月25日

敷地面積　3305.70平方米（1000.00坪）

建築面積

建　坪　1927.01平方米（582.92坪）

延　坪　9661.49平方米（2922.60坪）

建物高

軒　高　24.45米（80.69尺）　塔屋高　37.88米（125.00尺）

音響設備

外部騷音の遮斷の意味で全く窓を設けず換氣照明共機械的方法に依る。但しスタヂオ廊下第11、第12スタヂオ等の絕緣的要求が低度の室にて採光の補助の意で三重窓或はガラスブロックの嵌入された窓を設く。

スタヂオの振動及音響絕緣方法として、コンクリート主體の內部に別個の木造架構を作り之と主體とはフエルト其他のパツキングを介して連絡する方法を採用す。

更に遮斷用下地としてミネラルフエルト層（壁・天井）ロウクウール層（床壁）を形成し、その上に各スタヂオの用途容積等により決定された殘響時間と振動數特性を保有すべき仕上材料を決定す。仕上材料としてはゴムタイル類（リノタイル、ライトラバー等）コルクボート絨氈、疊等（以上床）プラトン、デツクス類、厚さベニヤ板、調音スレート、輕クリートパルポイド裂地（以上壁・天井）等を使用す。仕上材料の配合より面積の大なる室にては定常波の成生を避け壁面天井等に適宜凹凸を附す。

スタヂオの入口には防音扉を附す、扉にベニヤ板、ミネラルフエルト、テツクス鐵板革等の數種類の材料を重ねて使用し、スタヂオと附屬調整室間の覗窓は厚さ異なる三重のプレートガラスを入れ周圍をフエルトにて包む。

面積・用途

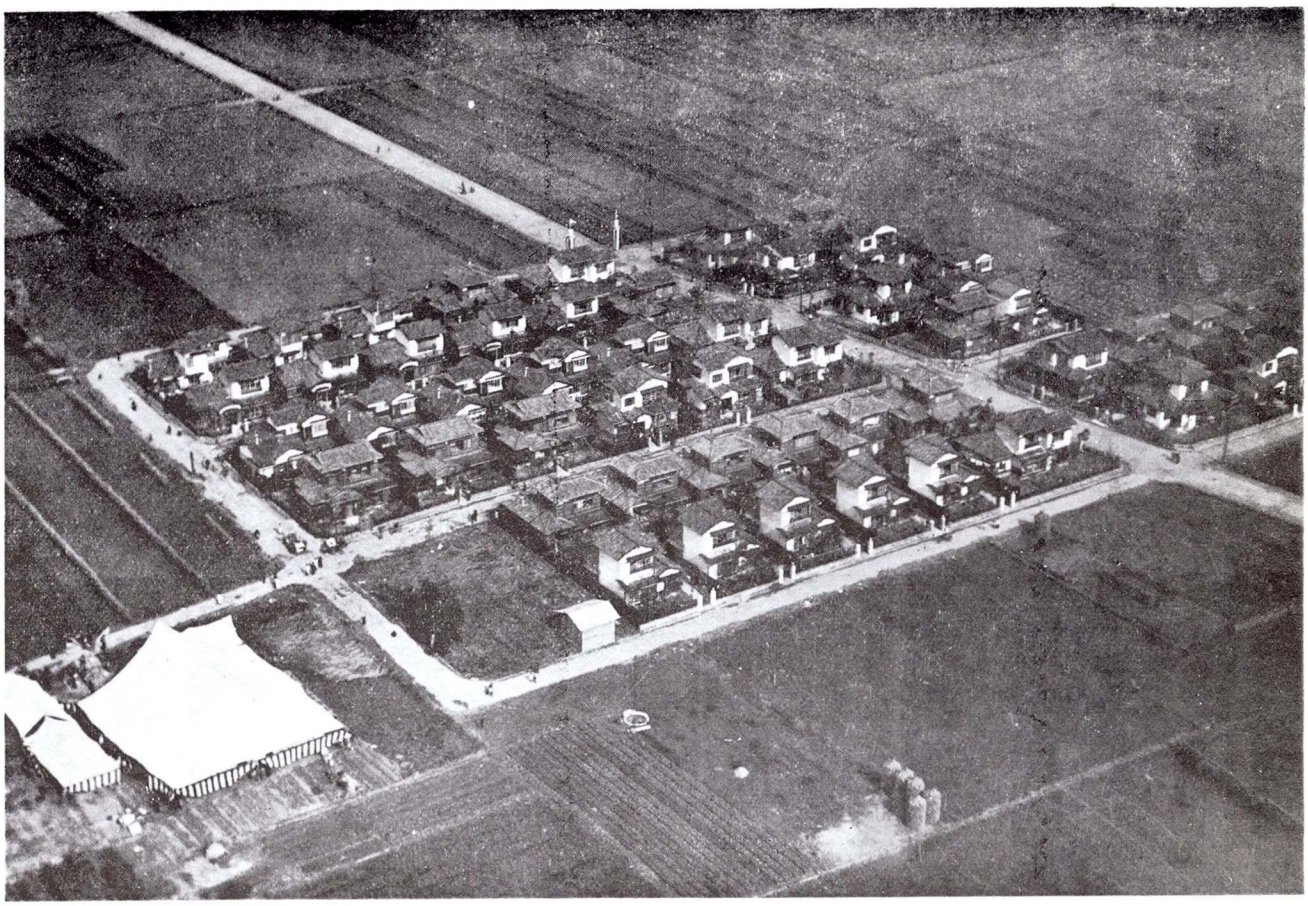
第1スタヂオ	4302.3立方米	大管絃樂・大コーラス・ラヂオドラマ・ピアノ(2) オルガン(1) 和樂囃子（一揃）
第2スタヂオ	632.67立方米	中管絃樂・コーラス・ドラマ・ピアノ(1)オルガン(1)
第3スタヂオ	237立方米	舞臺劇・大形式和樂・童話劇・童謠・唱歌・ピアノ(1)和樂器
第4スタヂオ	286立方米	小管絃樂・獨唱・和樂 ピアノ(1)
第5スタヂオ	112立方米	和樂・俚謠・諸演藝・和樂器（一揃）
第6スタヂオ	88立方米	小唄・歌澤・琵琶・筆曲（日本間）
第7スタヂオ	97.2立方米	器樂獨奏・室內樂・ピアノ(1)
第8スタヂオ	143.7立方米	座談會・雄辯會等・ピアノ(1)
第9スタヂオ	94立方米	音樂講座・講演・ピアノ(1)
第10スタヂオ	73.4立方米	講演・講座
第11スタヂオ	47立方米	ニュース・氣象
第12スタヂオ	47立方米	市況・物價
豫備スタヂオ	41.8立方米	

設計監督

日本放送協會臨時建築部　渡邊　仁建築工務所

施　　行　大林組

★大阪中央放送局各階平面圖　本誌昭和11年7月號自8頁至15頁參照



飛行機より（北方）町營住宅を望む（1）
昭和11年11月27日（第72號）大阪憲兵隊檢閲濟



飛行機より（北方）町營住宅を望む（2）
昭和11年11月27日（第72號）大阪憲兵隊檢閲濟



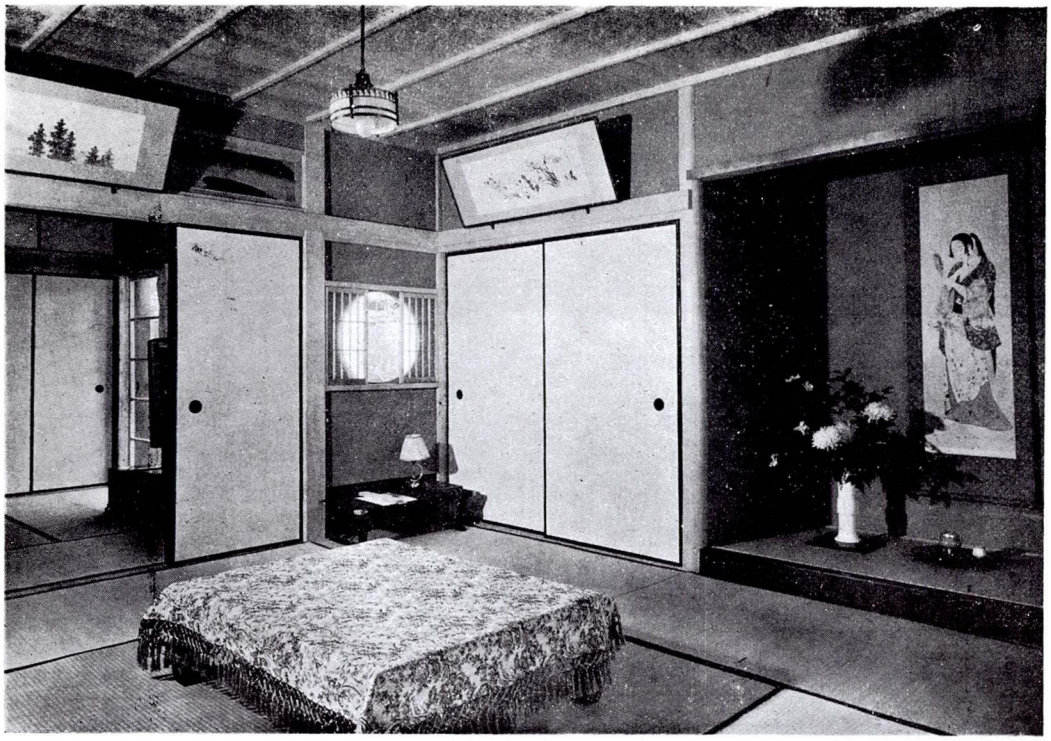
一 團 地 住 宅 通 景 の 1



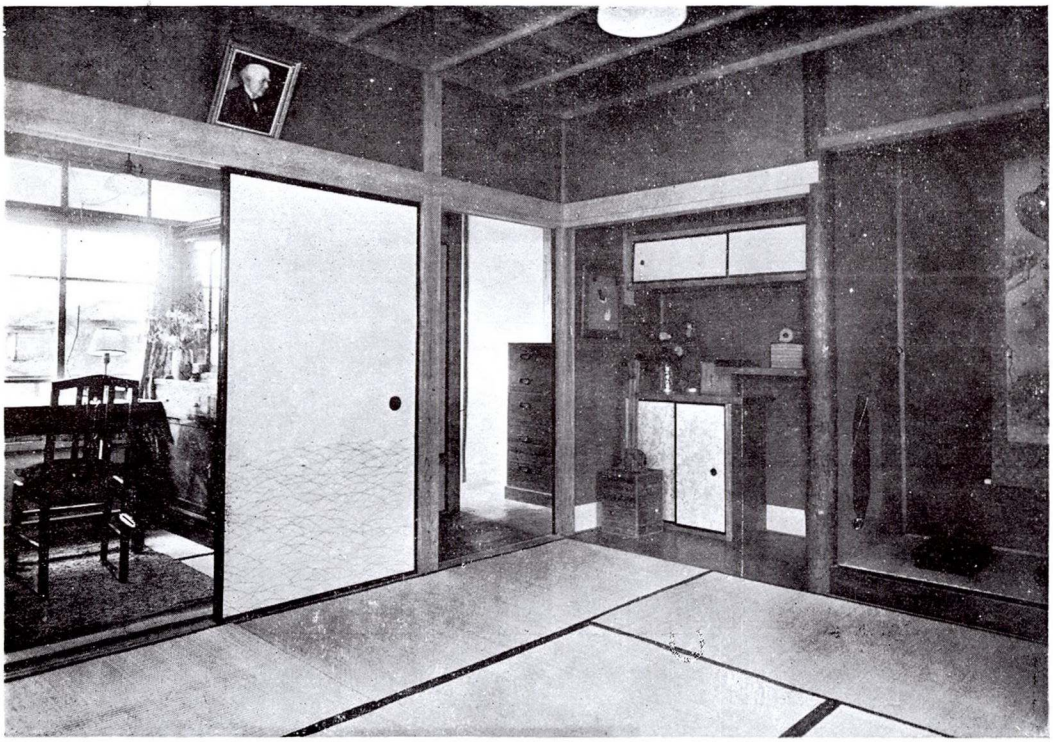
一團地住宅通景の2



一團地住宅通景の3

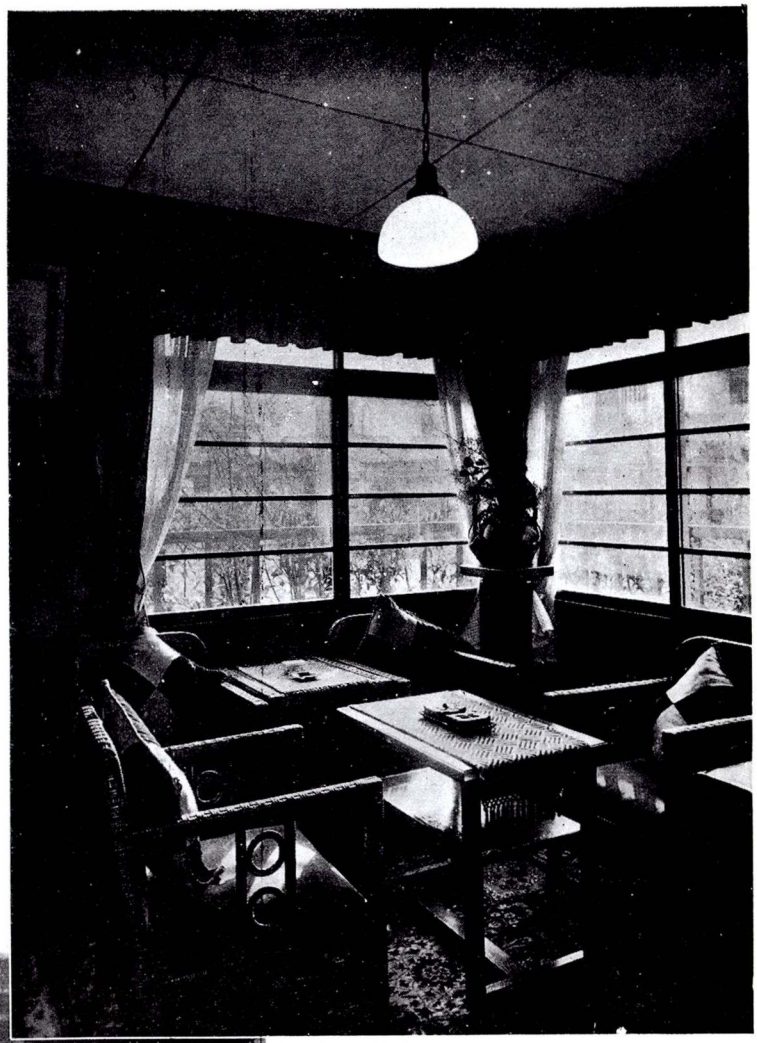


第2號住宅の（イ） 8疊の間より4疊半の間を望む



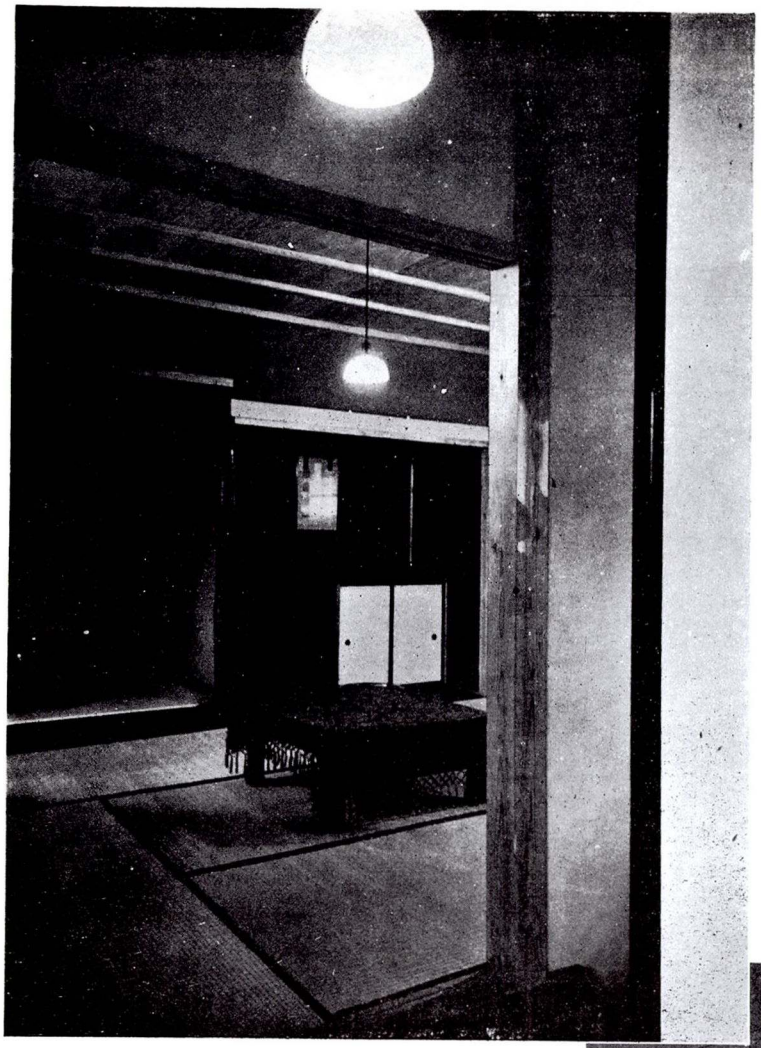
第2號住宅の（イ） 階上8疊の間より2疊の間を望む

第2號住宅の（イ）• 應 接 室





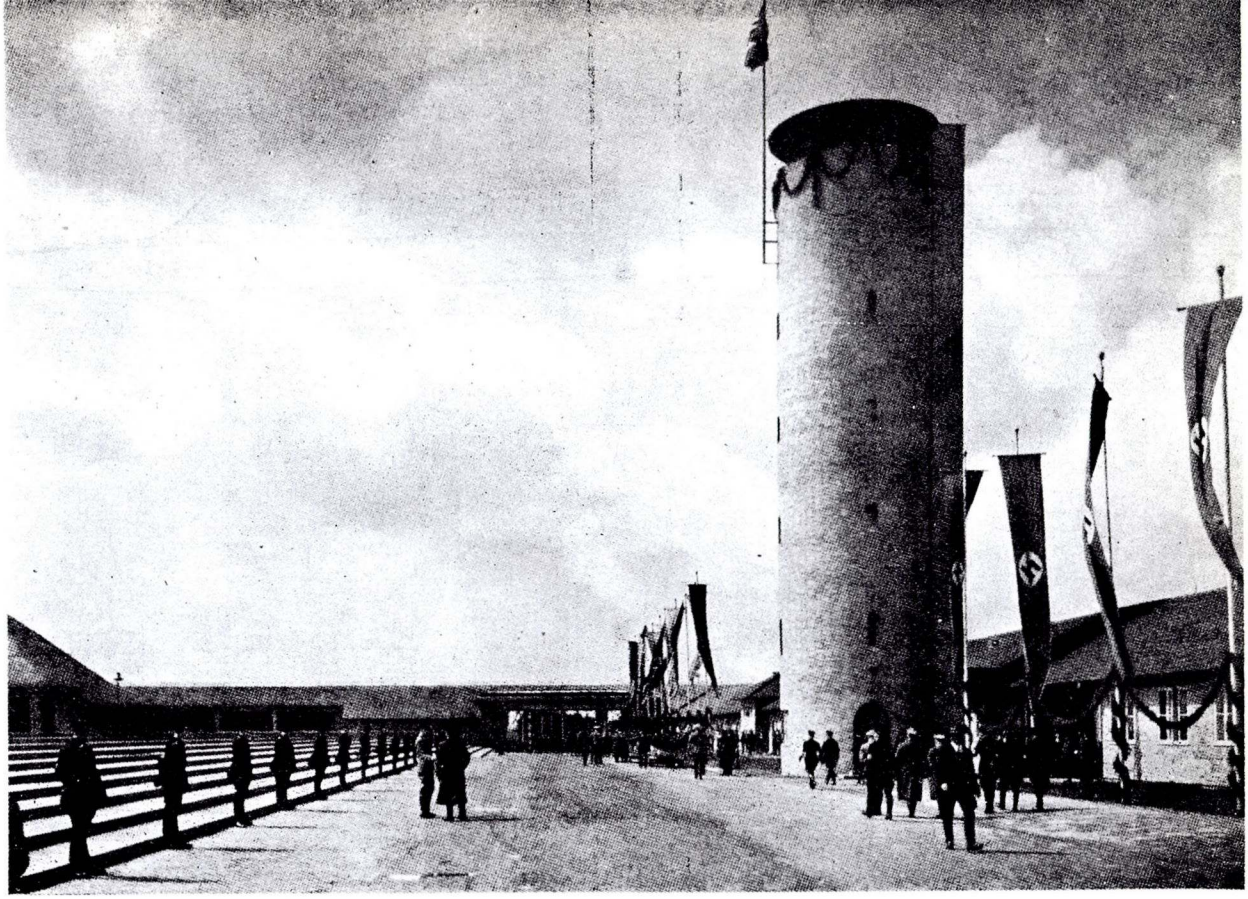
第1號住宅の（ロ）• 階下8疊の間



第1號住宅の（ロ）・階上6疊の間



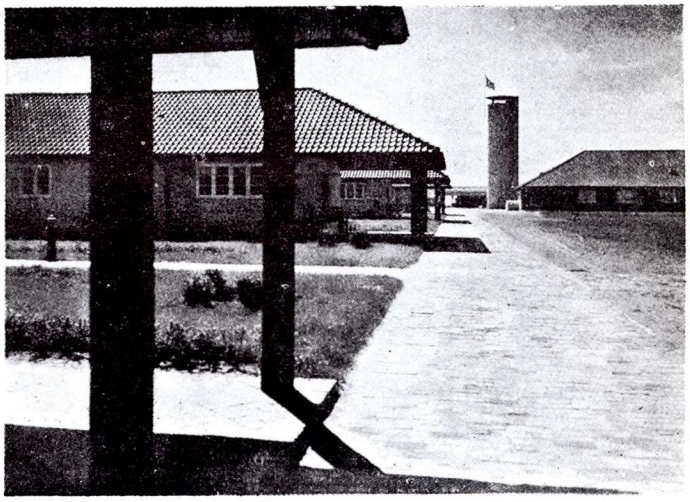
第1號住宅の（ロ）・應接室



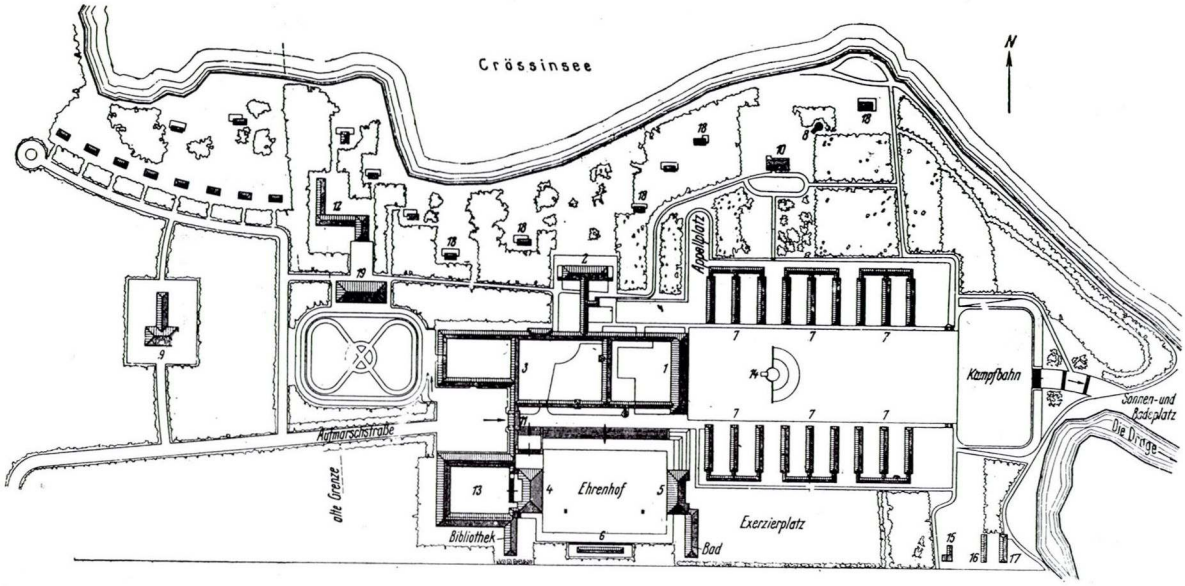
門屋を望む。 右方は塔と團體室である

獨逸語でしやべるナチス獨逸のことだから使用目的はよくはわからないが、何でも學校のやうな、兵營のやうな、青年訓練所のやうなものであるらしいことは圖を見ただけでわかるのである。

（Zentralblatt der Bauverwoltung 45號より）

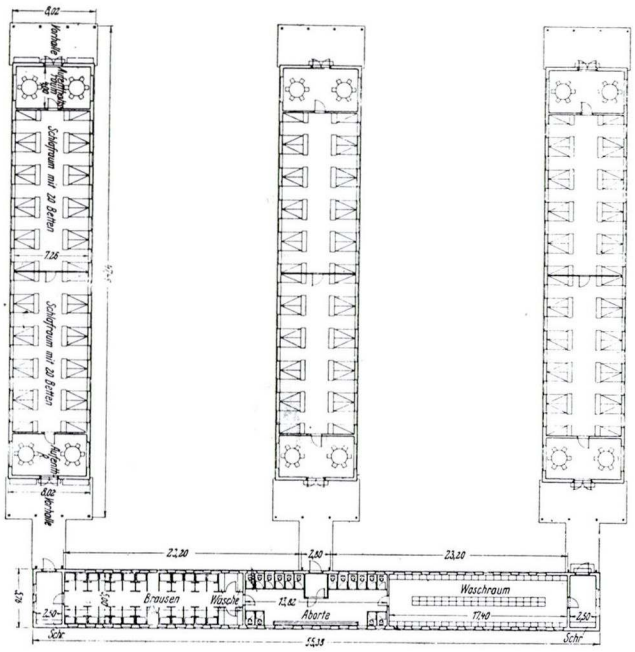


宿舍、塔屋及團體室

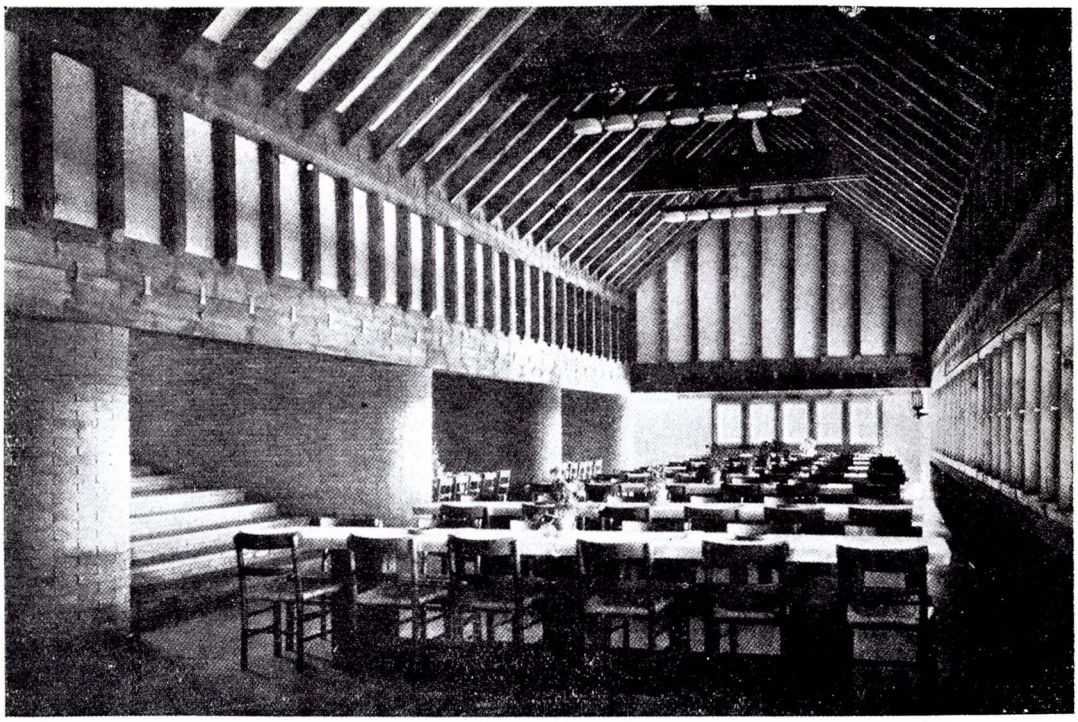


配　置　圖

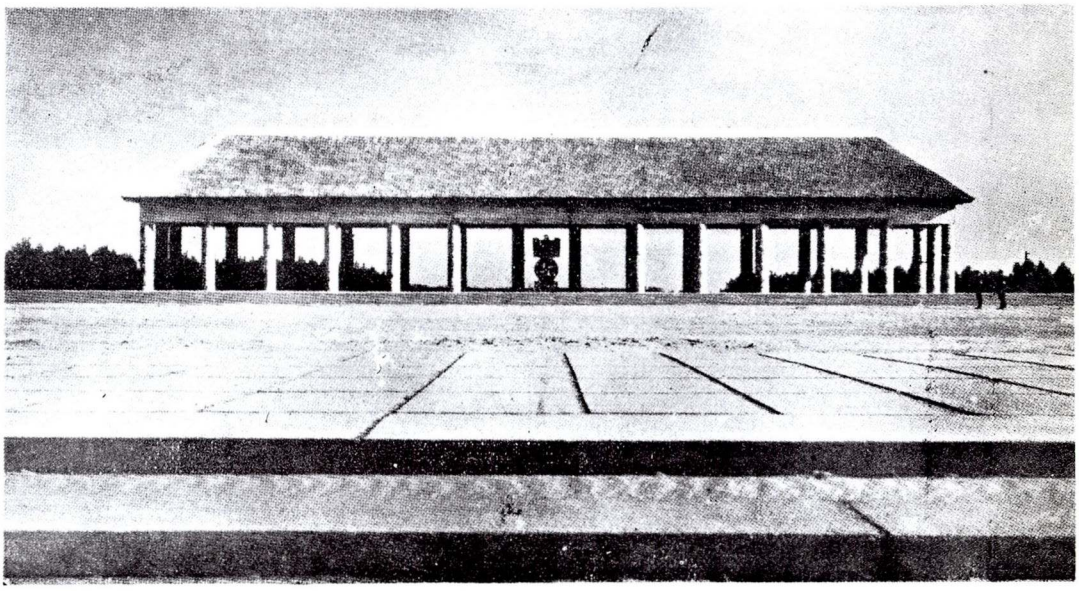
1. 食堂のある團體室
2. 酒　　保
3. 自動車々庫
4. 訓　練　室
5. 浴場と競技室
6. 英　魂　堂
7. 宿　　舍
8.
9. 學　　校
10. 指揮官の住居
11. 門屋及び門衞詰所
12. 婦人團體室
13. 研　究　室
14. 祭　典　場
15. 園藝用家屋
16. 溫　　室
17. 養豚及塵埃燒却場
18. 一戶建住家
19. 乘　馬　室



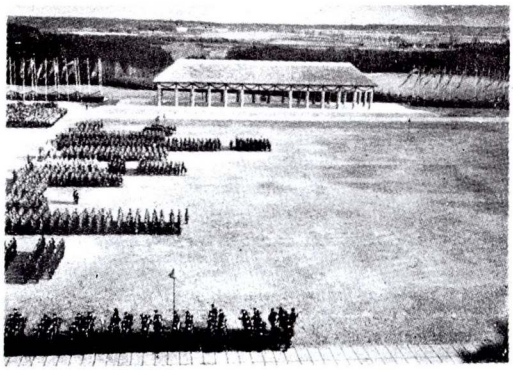
宿舍の平面圖



酒場の大客室



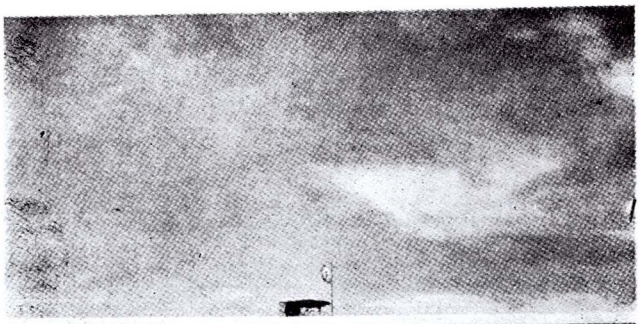
英　魂　堂



塔上より英魂堂廣場を望む

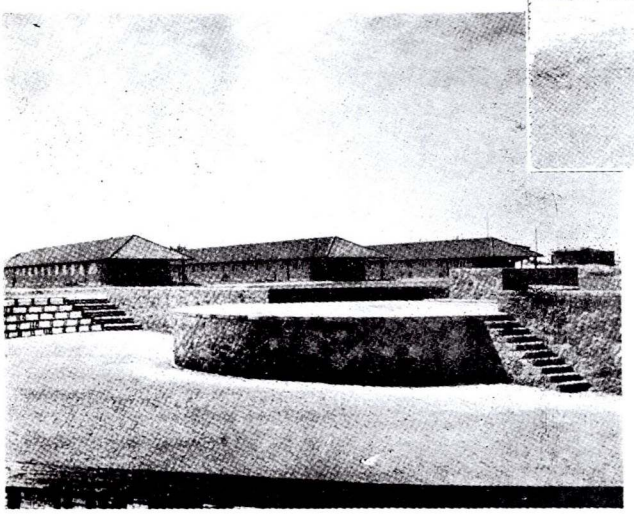


競　技　室





外部より門屋を望む



祭典場、後方は宿舎

122　（ドイツ）　Grössinse 湖畔の建築物

建築家　Clemens Klotz



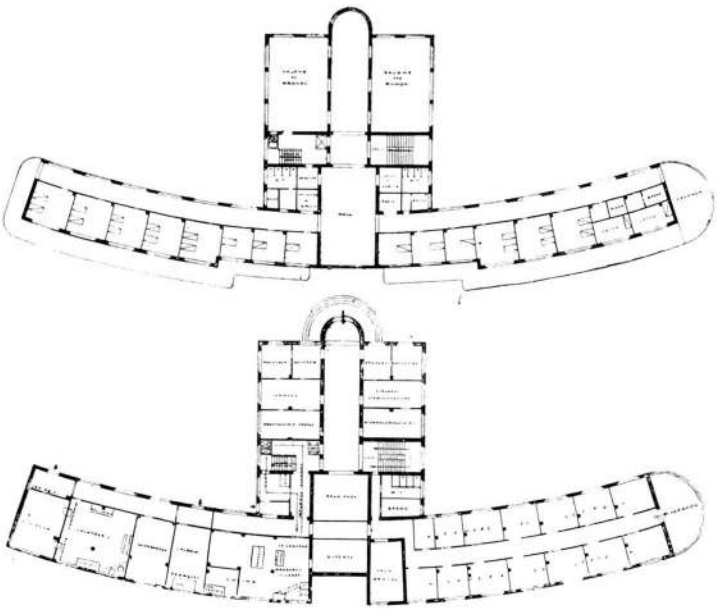
全　　景

ナポリ近郊の線の丘陵に在りてT型平面三階の建物なり。

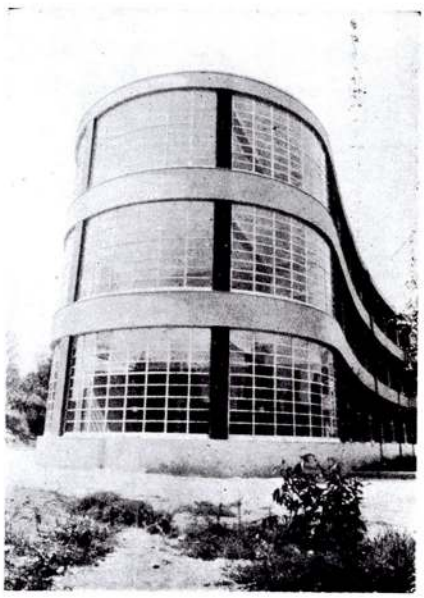
南面せるゆるやかな曲線に沿つて病室を配置し 150名の患者を收容す。北側には後方勤務の諸室をまとめ別にバス付のアパート4個あり。

構造は鐵筋コンクートにして壁體はホローブリック積外觀凝灰石仕上とす。

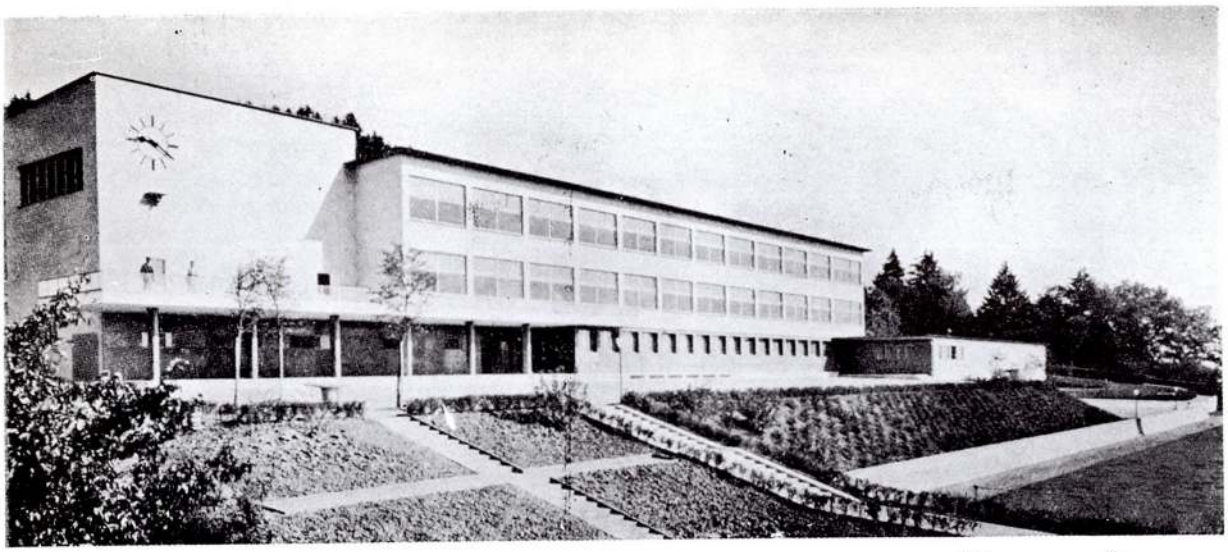
(L'Architetture Italiana, Oct., 1936 より)



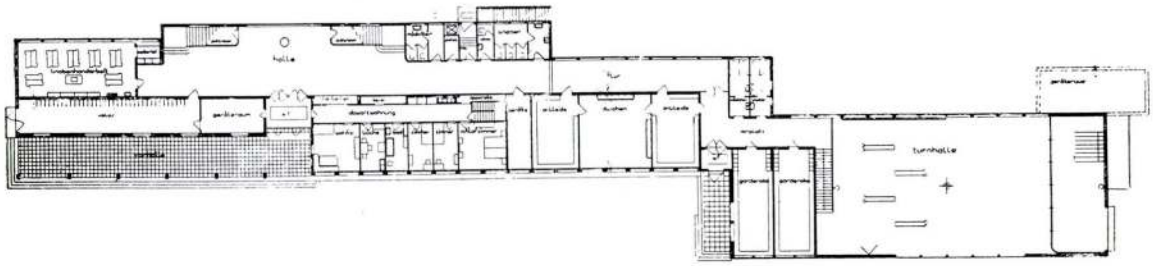
平　面　圖



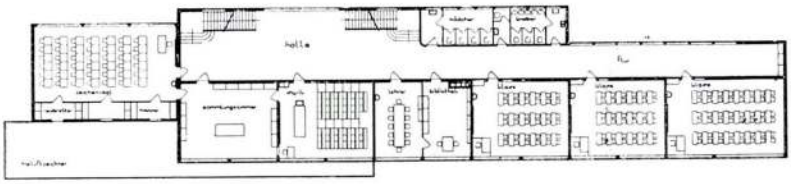
建物の端部のベランダ



外　　觀



1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖

1932年に懸賞募集した44案のうち第一等當選案により建築されたものである。三階建の校舎に連結して屋内體操場が一段低い土地に建つて居る。前者の建築費 1m 立方につき52.10フラン後者の夫は50フランである。

第1圖が一階プラン第2圖が二階と三階のプラン第3圖は校舎の南側より見たところ右の方に一段低く屋内體操場がある。

(Der Baumeister, Nov., 1936 より)

124 (ドイツ) Oberwinterthur の第2校校舎

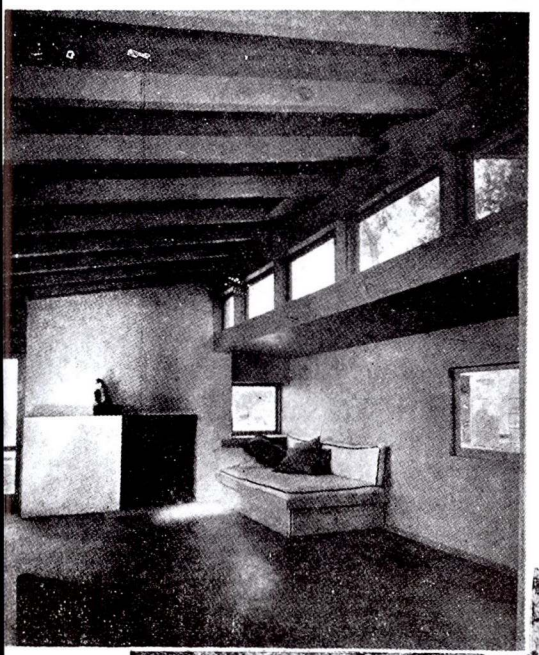
建築家 H. Hohloch

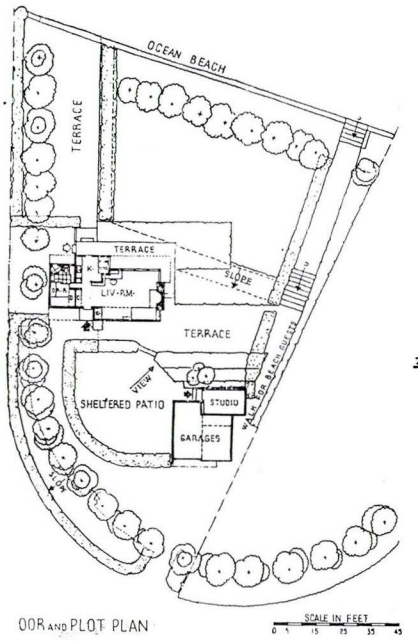
1年中よい氣候に惠まれた土地に建てられ、自由な設計の中に戸外と屋内とが渾然一體をなしてゐる。

廣い居間を中心とし、寢室、食堂、臺所等はその周圍に最小限度の廣さに切詰められて適當に配置されてゐる。取付けの家具や戸棚等を部屋の區分に利用し間仕切を省略してゐる。居間とポーチとの間には大きな硝子入の引戸を使用して開き戸に依るスペイスの浪費を救ひ戸外との關係を緊密ならしめてゐる。大きな窓は充分なる換氣と採光の爲、突出した庇は濠雨を避ける爲である。外觀は押し潰された樣に低いがこれは思慮深い設計の表現である。木造。外壁はルーフイング・フエルトの上にスレートを木の押縁で取付けてゐる。屋根にも外壁と同じルーフイング・フエルトを使用。工費3.000弗、1立方呎に就き40セント。

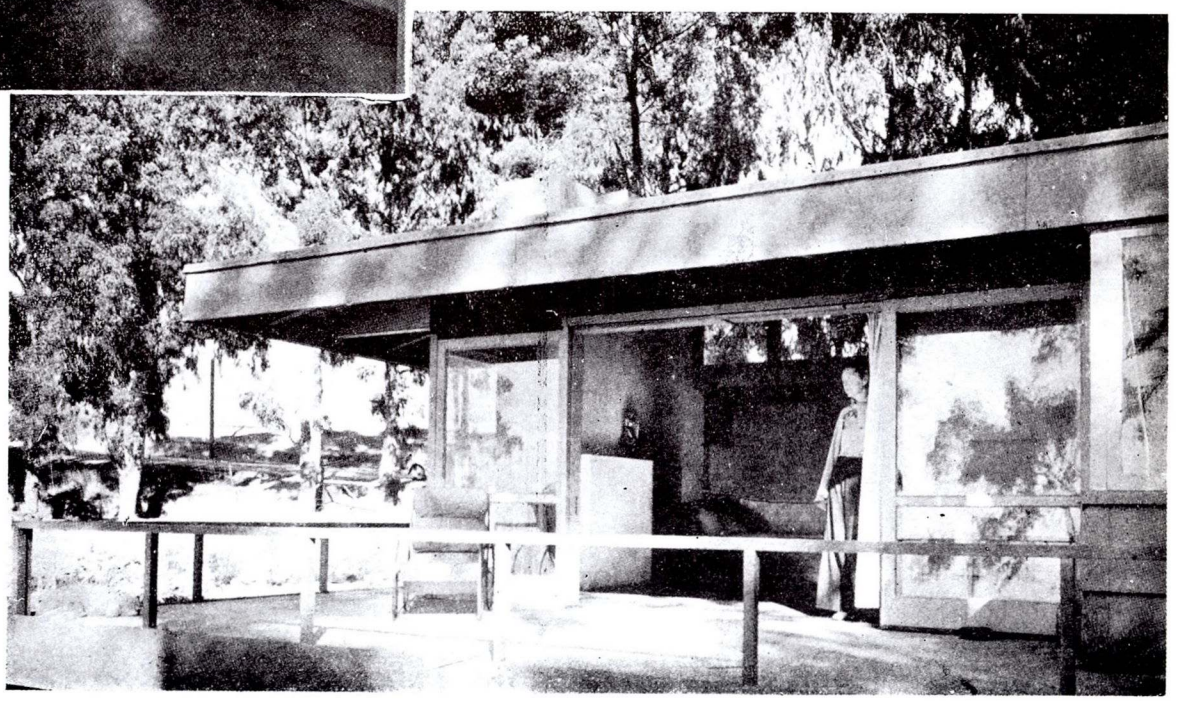
(Architectural Forum, Nov., 1935 より)

居間内部



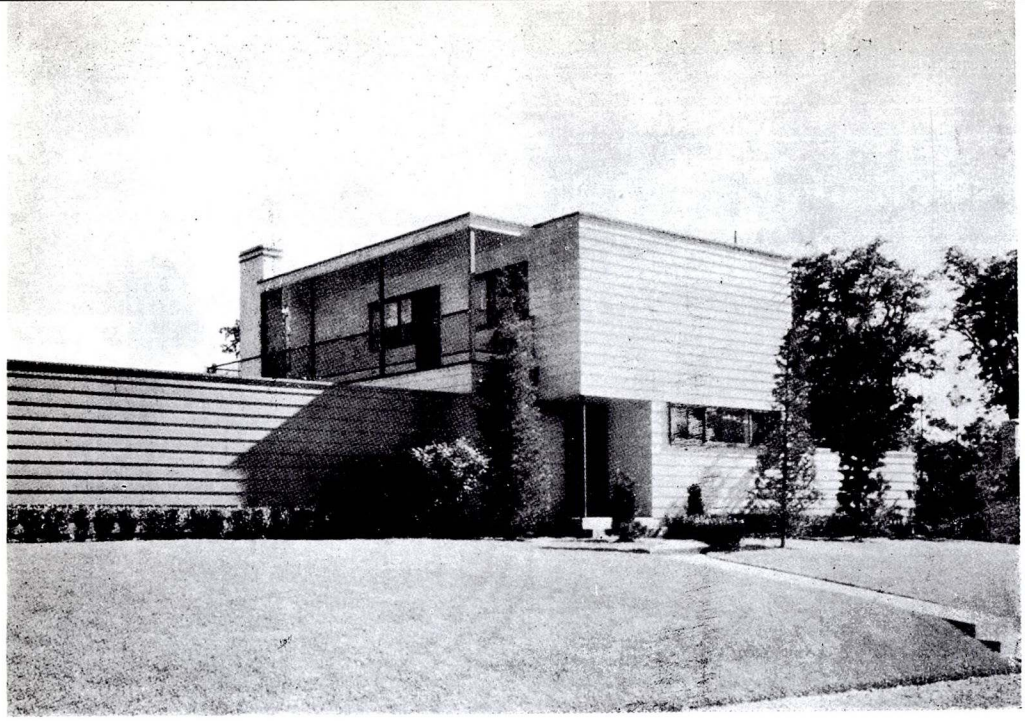


平面圖



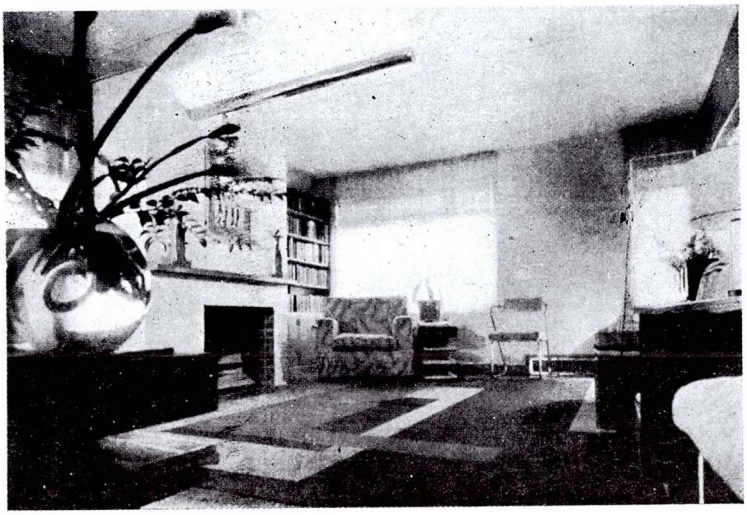
外觀

(アメリカ) 別棟に車庫と研究室とを有スル小住宅　建築家 R. M. Schindler



外　　觀

居間内部



木造2階建の住宅。

下見板の横線と連續した窓とが背景と非常によき調和を示して居る。外觀、面共簡明な非常に經濟的な感じを與へる設計である。

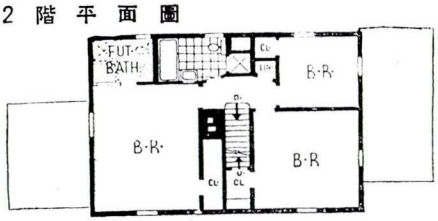
臺所を建物の表側に、居間を後庭に面して取り、居間から直接階上の寢室及露臺に通ずる樣になつてゐる戸棚、書棚その他の家具何れも取付け。室内は照明と色彩とがよき調和を示してゐる。總工費7,200弗、1立方呎に付き31セント。

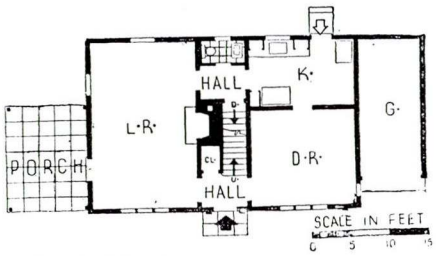
（Architectural Forum, Nov., 1936 より）



平　面　圖　FIRST FLOOR　　SECOND FLOOR

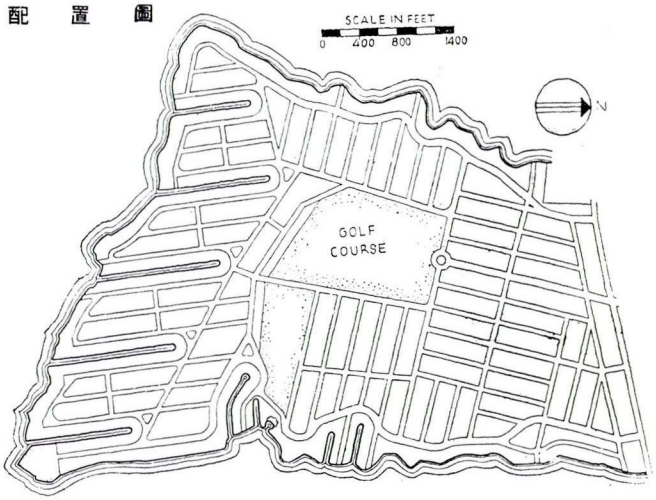
2 階 平 面 圖





1 階 平 面 圖

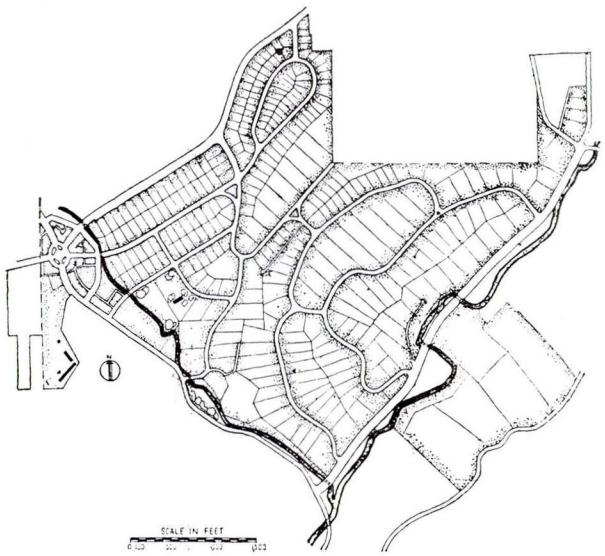
配 置 圖



ナツサウ海岸分譲地、ナツサウ土地會社（L. I., Harmon 土地區劃整理組合）

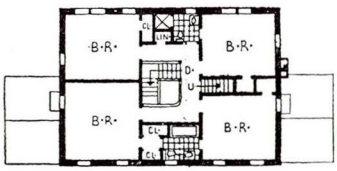
ニューヨークのハドソン河に沿ふた位置で、財產家 Harmon 氏によつて創設されたものがナツサウ土地會社（L. I. Harmon 土地區劃整理組合である。）

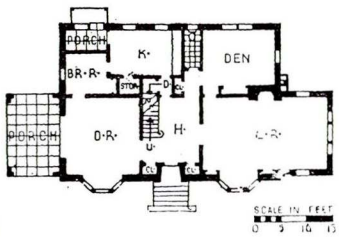
1930年に William Elmer 氏の息子 W. Burke Harmon 氏は Long Island の沼地の約500英町に、運河、下水及造園等を施設し、此の經費壹英町に付き 3,000 弗を要したのであるがそれを 10,000弗で分譲したのである。



配 置 圖

2 階 平 面 圖

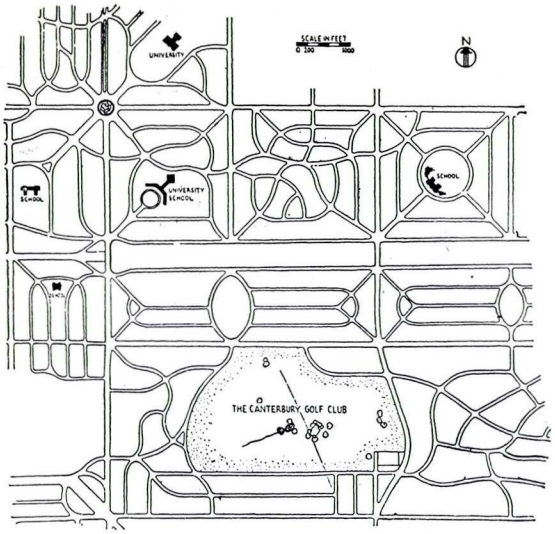




1 階 平 面 圖

Jemison 會社の Mountain Brook 分譲地；アラバマ、バーミンガム

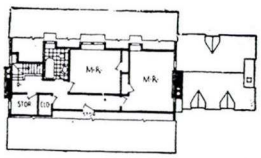
此の經營地は、アラバマの バーミンガム（Birmingham, Ala.,）の森林帶で、田園地への丘地にある土地である。土地所有者は Robert Jemison 氏であるが、彼は此の土地を四つの分譲地に分割した。即ち 1) Mountain Terrace, 2) Altamont, 3 Redmont Park 及 4) Mountain Brook と云ふのがそれである。Jemison 氏（此の人は又住宅局の州監督官でもある）は、自然的に資本化したのである。是等の分譲地は最近事業に着手したので、過去12ヶ月間の内に16戸の住宅が Redmont Park に建築され、是等はいづれも 10,500弗より 18,000弗までゝ6乃至8室及2戸の浴室と特別化粧室を備へてゐる。



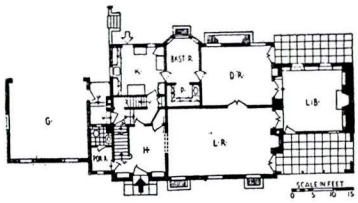
配　置　圖



2 階 平 面 圖



3 階 平 面 圖



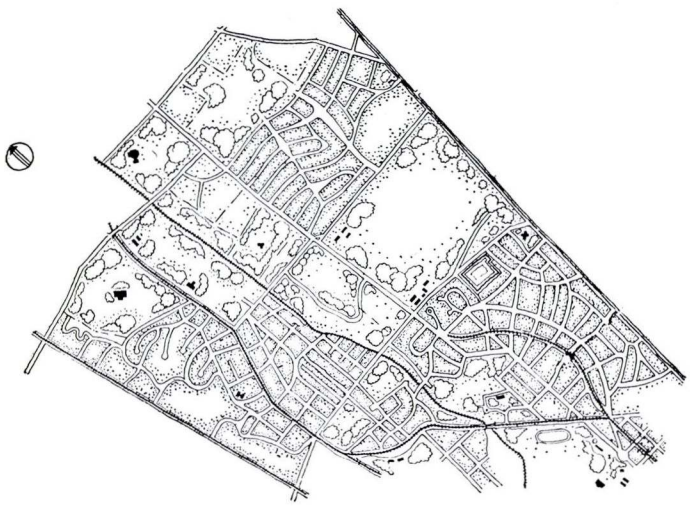
1 階 平 面 圖

Van Sweringen 會社の Shaker Heights 分譲地、オハヨ州　クリーブランド

クリーブランドの Shaker Heights 分譲地は世界に於けるベストシックスの内の一つとして有名である。此の分譲地は Van Sweringen 兄弟の創設にかゝり、土地の區劃整理が終了すると Keyes-Truehaft 土地會社の名の下に土地分譲が開始されたのである。

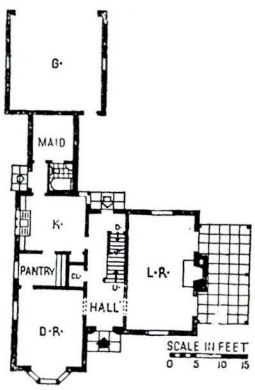
此の Shaker Heights に建築される住宅の様式は1929—1932に於ては英國ハフチンバー式の75%から1935—1936に於ては植民地風及 Georgian 式が75%までの傾向を表示して居つた。

建築監督官が任命されると、直ちに1936年の1月1日から8月15日までに此の分譲地に建つべき住宅の平面が190戸分認可された。是等の住宅の價格は土地ぐるみ8,000弗から40,000弗までの種類がある。

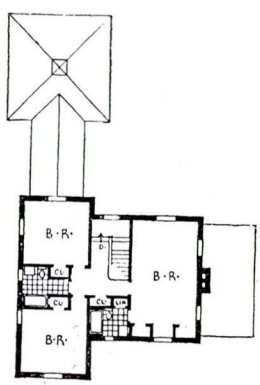


配　置　圖

1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖

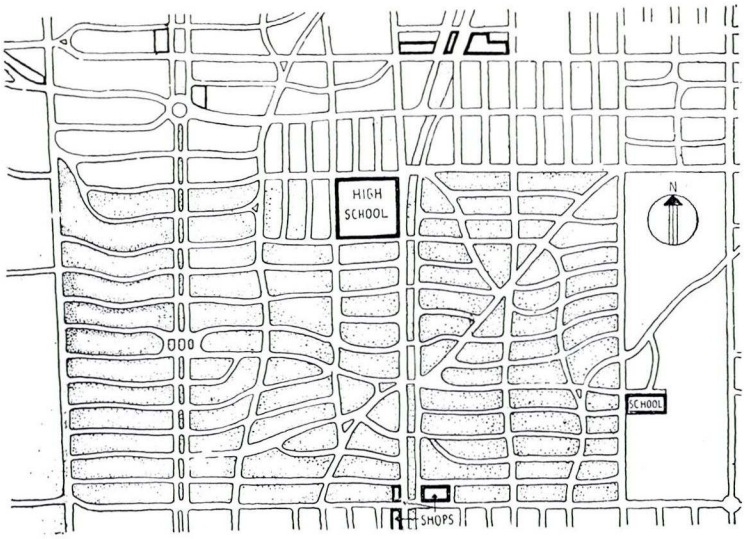


PRICE: $11,300
(without land)

Roland Park 會社の Roland Park 分譲地；　メリーランド州　バルチモアー

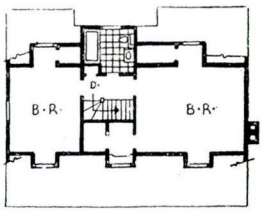
バルチモアはよい分譲地のあるところである。此の土地は半世紀も以前より Roland Park, Homeland 及 Gineford として分割され相當の收益を擧げて居つたところである。住宅の様式は一般に近代式であるが尙植民地風のものがリーダーたる地位にある。是等の分譲地のなかには Gilman, Calvert, Friend's, Loyola, Notre Dame, St.Mary's, Girl's Latin, Roland Park 及 Johns Hopkin 大學等バルチモアーに於ける最善の諸學校が存在して居る。

分譲住宅の種類には10,000弗から25,000弗まであるが、東部側のものは6室で2浴あり敷地の大さ100呎×175呎で14,000弗である。



配　置　圖

2 階 平 面 圖





1 階 平 面 圖

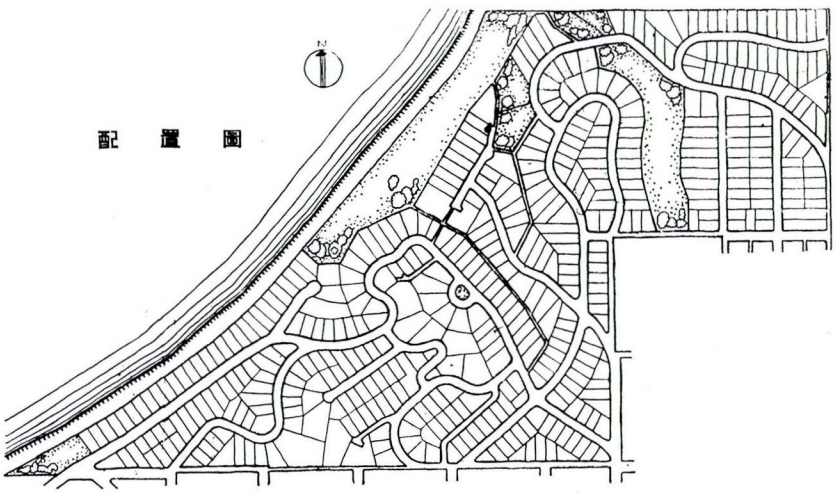
J. C. Nichols Investment 會社の Country Club District 分譲地；モンタナ州　カンサス市

カンサス市から約3哩ばかり離れた4,000英町の土地の上に約25,000の人々が生活して居るのである。

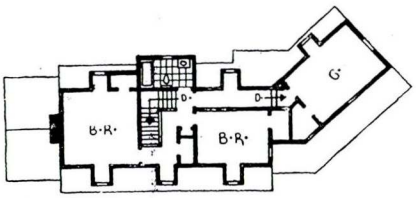
Country Club District は Jess Clyde Nichols 氏により創設せらる。

分譲價格は7,500弗乃至47,500弗であつたが請負金額としては結局140,000弗位にまで昇つた。

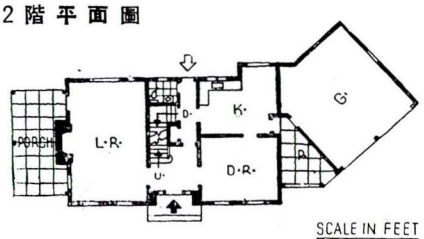
即賣された住宅は3乃至4の寢室、2浴室及蒸氣煖房裝置とガレーヂを有するもので 8,500弗乃至9,500弗であつた。



配　置　圖



2 階 平 面 圖



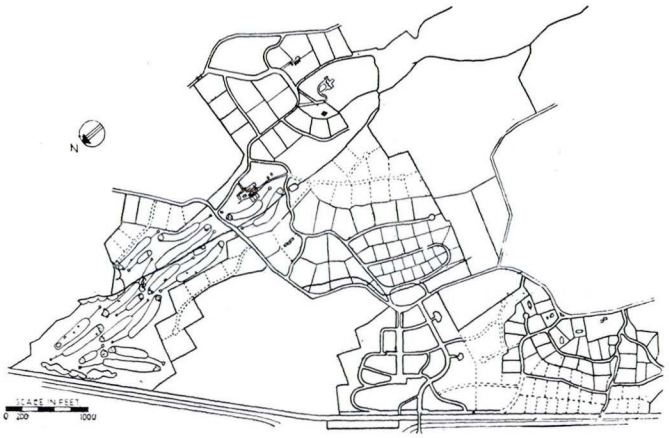
1 階 平 面 圖

W. E. Boeing の Blue Ridge 分譲地；ワシントン、シヤートル

1934年に於ける Seattle の分譲地の70%の住宅は10年以上經過したものにして、而もその價格は5,000以下のものが大部分であつた。故に Realtor Hugh Russell 氏は、此處を整理するにあたつて、此の所謂 5,000弗住宅と云ふものゝ理論的根據に追從せざるを得なかつた。此の土地は太平洋沿岸に於ける Olympic Mountain の傾斜地を整理したもので、土地所有者は飛行家 William Edward Boeing 氏である。

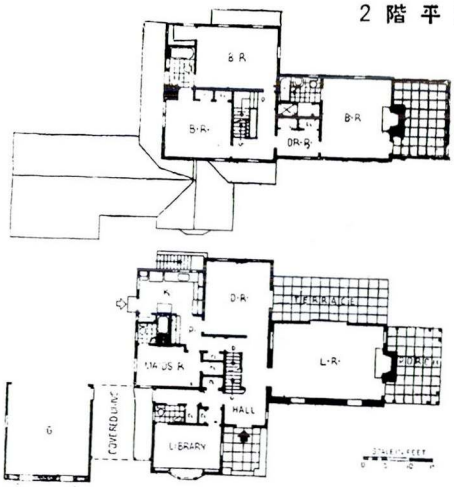
住宅の設計に參與した建築家は、W. E. McKinney 及 Geoge Wellington Stoddard の諸氏であつた。住宅の種類には5,800弗乃至8,350弗等あるが、即賣されたものは6室に浴室並化粧室付それに2臺收容し得るガレーヂが附屬して6,800弗と云ふのであつた。

（Architectural Forum, Oct., 1936 より）



配　置　圖

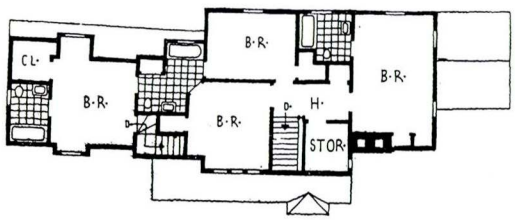
2 階 平 面 圖

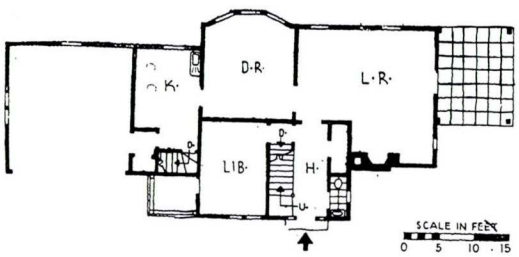


1 階 平 面 圖

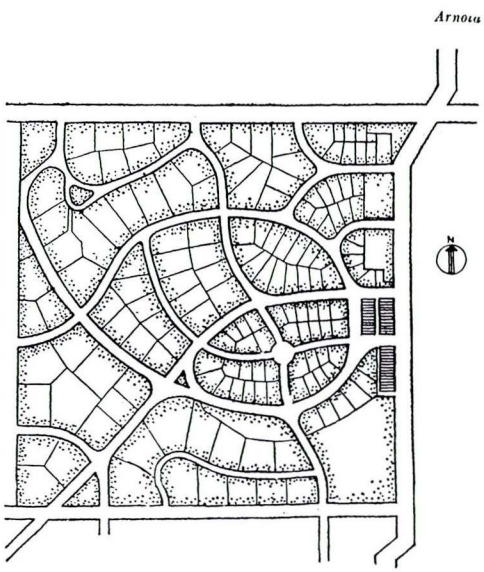
N. Y. の Westchester 會社の Lowreuce Farms 分譲地

2 階 平 面 圖





1 階 平 面 圖



配　置　圖

ミシガン州デトロイトの Franklin Village 分譲地（開拓者は George Wellington Smith）

編輯後記

◆悠久の時の流れの中に昭和11年を送り、丁丑昭和12年を迎へる。年毎に繰り返される事ではあるが、飜つて過ぎし年を顧み、來るべき年に處する方針を決する機會である。

◆過ぐる2・26事件を契機として行はれた我國政治上、經濟上の一大轉換は、建築界にも種々なる影響を齎し、殊に昨秋よりの建築材料の騰貴は、若し永續的な現象とすれば建築界への打撃は相當に大なるものがあると思はれる。

◆だが、新しい年と共に我等の希望は3年後に行はれるオリムピック大會及び皇紀2,600年記念事業に伴ふ都市計畫竝びに建築計畫に懸けられる。本年はそれ等の計畫の緒につくべき年であり、基本計畫の開始される年であるからである。

◆我日本建築協會も一昨年末の會費値下以來、會の發展特に著しきものがあり、會誌亦第20輯を數へて、漸くその歩みの確實なることを感ずる。

◆新年號は年末繁忙の中に執筆を依頼したものであり、編輯も亦12月號と引續いて目の廻る樣な忙しさであつたが、大熊喜邦氏、及び中榮一徹氏の帝國議會議事堂に關する記事を筆頭として、建築、都市計畫の兩方面共に今日の時代に適切なるものを多數掲載し得たことは、編輯者の大に喜びとする所である。

◆本年度に於ける本誌の編輯方針其他に就いては、役員改選の關係から2月號の編輯後記に於て報告する豫定である。

◆年頭、會員各位及び讀者諸氏の御多幸を祈りつつ。(新名　種夫)

建築と社會

第20輯第1號

毎月1回1日發行　定價　1冊　50錢(郵稅2錢)
12冊　6圓(同24錢)

昭和11年12月25日印刷　昭和12年1月1日發行

發行・編輯
印刷人　小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大石堂印刷所
大阪市北區玉江町1丁目11番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長堀(23)4501番(9)
振替口座大阪3979番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15·00
普通	1/2頁	1回	8·00
普通(輯附第1頁)	1頁	1回	45·00
普通(前附第2頁)	1頁	1回	40·00
普通(後附第1及最終頁)	1頁	1回	25·00
アート(中挿)	1/2頁	1回	20·00
表紙2	1頁	1回	60·00
表紙3	1頁	1回	45·00
表紙4	1頁	1回	80·00
建築事務所錄	1欄	1回	1·50
(建築ニ係業者案內)	1欄	1回	5·00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第20輯第1號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……36
　朝日建材株式會社……表紙 2
　淺野スレート株式會社……35
　淺海商會……31
　有田製陶所……24
　阿部鐵工所……52
イ　岩元工業株式會社……31
エ　榮進社……34
　英進商會……41
　荏原製作所……18
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……28
　大阪組立コンクリート製作所……46
　大倉土木株式會社大阪出張所……中附 6
　大林組……中附 7
　大野製作所……前附 1
　奥村重兵衞商店……59
カ　關城化學工業株式會社……前附 2
キ　桐田商會……30
　協和製作所……45
ク　黒川化學工業所……32
　久保商店……45
ケ　建盛商會……40
コ　後藤商店……38
　金剛商會……29
　鴻池組……8
　廣業社……23
サ　佐渡島酉店……55
　佐久間パプコ工業株式會社……51
　三機工業株式會社大阪支店……表紙 4
　坂本商會大阪支店……41
　坂田ベンチレーター製作所……48
シ　清水組……中附 9
ス　須賀商會……60
セ　政正合資會社……47
　清光社……48
　錢高組……中附10
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前附 4
　大和工業株式會社……15.16.17
　大洋組建材部……28
　竹中工務店……中附11
　田中工業株式會社……19
　淡陶株式會社……53
　田中昌司商店……40
　田村商會……54
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
ト　東洋リノリユーム株式會社……50
　東洋キヤリア工業株式會社大阪支店……表紙 4
　東洋鋼材株式會社大阪出張所……表紙 4
　東京電氣株式會社……37
　東洋陶器株式會社……20
　巴商會……62
ナ　内外土木建築材料合資會社……25
　南滿鑛業株式會社……33
　中野石材販賣店……44
ニ　日本建築紙工株式會社……47
　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　日本機械工業株式會社大阪支店……57
　日本金具株式會社……中挿
　日本放熱器商會大阪支店……21
　日本陶織社……29
　西原衞生工業所……26
　西孫南店建築金物部……32
ノ　野澤幸三郎商店……58
ハ　長谷川利彦商會……44
　播磨造船所木材部大阪出張所……61
ヒ　平松釣戸車製作所……38
フ　藤田商會……56
　藤木工務店……中附12
ホ　邦光化學工業所……22
　北辰商會……24
　ボルネオ物産商會大阪出張所……61
マ　松井商店……46
　松村組……中附13
ミ　三井物産株式會社……49
ヤ　矢橋大理石商店……43
　大和護謨製作所……42
ヨ　横河橋梁製作所……39
　米本榮商店……43
ラ　ライトラバー工業合資會社……27
リ　理化學興業株式會社……前附 3
レ　玲光社(木内眞太郎)……33